

シラバス（授業概要） 看護学部看護学科 2024 Syllabus

【2022 年度以降の入学生】

<p><教養基礎領域></p> <p>自然・人間・社会</p> <p>医療法学 2</p> <p>教育原理 4</p> <p>教育心理学 6</p> <p>教育制度論 8</p> <p>物理学 10</p> <p>化学 12</p> <p>生命科学 14</p> <p>基礎演習 16</p> <p>キャリアデザイン 18</p> <p>国際・地域</p> <p>英語Ⅲ（看護英語） 20</p>	<p><看護専門領域></p> <p>基礎看護学</p> <p>看護学原論Ⅰ 62</p> <p>看護学原論Ⅱ 64</p> <p>基礎看護技術Ⅰ 66</p> <p>基礎看護技術Ⅱ 68</p> <p>基礎看護技術Ⅲ 70</p> <p>基礎看護技術Ⅳ 72</p> <p>地域在宅看護学</p> <p>地域在宅看護学概論Ⅰ 74</p> <p>地域在宅看護学概論Ⅱ 76</p> <p>地域包括ケア看護論 78</p> <p>地域在宅看護援助論 80</p> <p>地域在宅看護援助論演習 82</p> <p>成人看護学</p> <p>成人看護学概論 84</p> <p>急性期看護援助論 86</p> <p>急性期看護援助論演習 88</p> <p>慢性看護援助論 90</p> <p>慢性看護援助論演習 92</p> <p>老年看護学</p> <p>老年看護学概論 94</p> <p>老年看護援助論 96</p> <p>老年看護援助論演習 98</p> <p>母性看護学</p> <p>母性看護学概論 100</p> <p>母性看護援助論 102</p> <p>母性看護援助論演習 104</p> <p>小児看護学</p> <p>小児看護学概論 106</p> <p>小児看護援助論 108</p> <p>小児看護援助論演習 110</p> <p>精神看護学</p> <p>精神看護学概論 112</p> <p>精神看護援助論 114</p> <p>精神看護援助論演習 116</p> <p>看護の統合</p> <p>家族看護論 118</p> <p>国際看護論 120</p> <p>看護研究 122</p> <p>国際看護研修 124</p> <p>臨地実習</p> <p>基礎看護学実習Ⅰ 126</p> <p>基礎看護学実習Ⅱ 128</p> <p>地域在宅看護学実習 130</p> <p>急性期看護学実習 132</p> <p>慢性看護学実習 134</p> <p>老年看護学実習 136</p> <p>母性看護学実習 138</p> <p>小児看護学実習 140</p> <p>精神看護学実習 142</p> <p>聖隷看護基盤実習 144</p>	<p>公衆衛生看護学</p> <p>公衆衛生看護学概論 146</p> <p>公衆衛生看護技術論 148</p> <p>公衆衛生看護技術論演習 150</p> <p>公衆衛生看護推論 152</p> <p>公衆衛生情報処理演習 154</p> <p>公衆衛生看護活動論 156</p> <p>公衆衛生看護活動論演習 158</p> <p>公衆衛生看護学実習Ⅰ 160</p> <p><教職に関する科目></p> <p>教職概論 162</p> <p>学校保健 164</p> <p>健康相談活動 166</p> <p>特別支援教育概論 168</p> <p>道徳・特別活動・ 総合的な学習の時間 170</p> <p>教育課程・方法論 172</p> <p>生徒指導の理論と方法 174</p> <p>教育相談の理論と方法 176</p> <p>学校体験活動 178</p> <p>養護実習事前事後指導 180</p> <p>養護実習Ⅱ 182</p> <p>【2021 年度以前の入学生】</p> <p><看護専門領域></p> <p>看護の統合</p> <p>看護倫理 184</p> <p>看護管理論Ⅱ 186</p> <p>災害看護論 188</p> <p>看護研究Ⅱ 190</p> <p>看護統合セミナー 192</p> <p>国際看護実習 194</p> <p>臨地実習</p> <p>統合実習 196</p> <p>公衆衛生学</p> <p>公衆衛生看護総合演習 198</p> <p>公衆衛生看護管理論 200</p> <p>公衆衛生看護学実習 202</p> <p><教職に関する科目></p> <p>養護実習事前事後指導 204</p> <p>養護実習Ⅰ 206</p> <p>養護実習Ⅱ 208</p> <p>教職実践演習（養護教諭） 210</p>
--	--	--

科目名	医療法学																		
科目責任者	熊澤 武志																		
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター																		
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎																		
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。																		
科目概要	社会の中で人と人とが物事を円滑に遂行するためには法という一定のルールを守る必要がある。医療従事者もその責務を果たす上で法を遵守することは重要であり、医療従事者が法に違反することは、社会における医療への信用・信頼を失墜させる要因になりかねない。本科目では、種々の事例を踏まえ、将来、医療従事者として働くために必要な法的知識を身につけることを目的とする。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法の基本的原理と裁判のしくみについて説明できる。 2. 医療従事者の民事責任、刑事責任、行政処分について理解できる。 3. 犯罪被害者や犯罪者に対する医療について理解できる。 4. 医療安全を学ぶことの重要性について理解できる。 5. 医療従事者の裁判事例から医療事故の問題点を述べることができる。 6. 医療従事者を取り巻く法的知識について関心を高めることができる。 																		
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：法のしくみと裁判のしくみ</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：医療従事者と民事責任</td> <td style="text-align: right;">長谷川 智華</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：医療従事者と刑事責任・行政処分</td> <td style="text-align: right;">長谷川 智華</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：犯罪被害者及び犯罪者に対する法律と医療</td> <td style="text-align: right;">長谷川 智華</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：医療安全</td> <td style="text-align: right;">佐久間 由美</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：医療関連死</td> <td style="text-align: right;">長谷川 弘太郎</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：医事紛争</td> <td style="text-align: right;">藤井 輝</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：医療従事者と裁判・まとめ</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：法のしくみと裁判のしくみ	熊澤 武志	第 2 回：医療従事者と民事責任	長谷川 智華	第 3 回：医療従事者と刑事責任・行政処分	長谷川 智華	第 4 回：犯罪被害者及び犯罪者に対する法律と医療	長谷川 智華	第 5 回：医療安全	佐久間 由美	第 6 回：医療関連死	長谷川 弘太郎	第 7 回：医事紛争	藤井 輝	第 8 回：医療従事者と裁判・まとめ	熊澤 武志
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																		
第 1 回：法のしくみと裁判のしくみ	熊澤 武志																		
第 2 回：医療従事者と民事責任	長谷川 智華																		
第 3 回：医療従事者と刑事責任・行政処分	長谷川 智華																		
第 4 回：犯罪被害者及び犯罪者に対する法律と医療	長谷川 智華																		
第 5 回：医療安全	佐久間 由美																		
第 6 回：医療関連死	長谷川 弘太郎																		
第 7 回：医事紛争	藤井 輝																		
第 8 回：医療従事者と裁判・まとめ	熊澤 武志																		

アクティブ ラーニング	授業ではリアクションペーパーの作成のほか、ディスカッションなども取り入れながら進めます。				
授業内の ICT 活用	WebClass を活用したリアクションペーパーの作成・提出、レポートの提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。				
評価方法	平常点 (50%) とレポート (50%) を総合的に評価します。平常点にはリフレクション課題の提出と記述内容が含まれます。なお、レポートの評価法にはルーブリックは使いません。				
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付しますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では、リアクションペーパー作成事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	熊澤武志 (看護学部 1716 研究室: takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。				
実務経験に 関する記述	本科目は看護師、医師、弁護士、法医鑑定や医療訴訟の実務経験を有する講師陣が実務の観点を踏まえて教授します。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	教育原理
科目責任者	太田 知実
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2 Semester
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	「教育」と聞いて、最初に思い浮かぶのは学校ではないだろうか。しかし、学校教育が成立したのは、人類の長い歴史に照らせば比較的最近のことである。この講義では、教育の基礎的な概念や教育の歴史と思想を理解することで、今、私たちが当たり前と思っている「教育」を問い直し、現代教育の意義と課題を考察することを目的とする。
到達目標	1. わが国と欧米諸国における教育の歴史・思想を理解する。 2. 教育とは何か、その意義と目的を理解し、説明できるようになる。 3. 現代の学校教育の長所・短所について、自分の考えを述べられるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：教育学の基礎① 教育学の基礎概念</p> <p>第3回：教育学の基礎② 子どもたちの育ちの現状</p> <p>第4回：発達と教育① 前思春期における家庭環境と発達・教育</p> <p>第5回：発達と教育② 思春期における友達関係と発達・教育</p> <p>第6回：発達と教育③ 思春期における人格再統合</p> <p>第7回：教育の歴史① 形成と教育</p> <p>第8回：教育の歴史② 近代学校の誕生</p> <p>第9回：教育の歴史③ 日本における公教育制度の成立と展開</p> <p>第10回：教育の思想① 宗教と教育</p> <p>第11回：教育の思想② 子どもの発見</p> <p>第12回：教育の思想③ 新教育の思想と制度</p> <p>第13回：現代教育の意義と課題① 戦後日本の教育改革の理想と展開</p> <p>第14回：現代教育の意義と課題② 情報化社会における学校への期待と課題</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	各講義内で提出する小レポート 60% 期末レポート 40%				
課題に対する フィード バック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。				
指定図書	木村元・汐見稔幸『アクティベート教育学01 教育原理』ミネルヴァ書房、2020年。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理 第三版』有斐閣アルマ、2016年。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：テキストの該当箇所を目を通しておく。(2回～15回) ・事後学修：テキストを再度読んだり、追加で関連文献・資料を調べたりして、授業内容について理解を深める(2～15回) <p>※毎回の事前・事後学修の目安時間は40分です。</p>				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	太田知実(1210研究室) tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は初回の授業で提示する。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	教育心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2 Semester
DP 番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	学校における児童生徒の主体的な学習を支えるために知っておくべき学習過程、動機づけ、対人関係、適応・不適応などに関する基本的事項を説明し、児童生徒の発達を踏まえた指導や関わりの基礎となる考え方を修得できるようにする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童生徒の学習の形態や概念及びその過程についての基本的な知識・理論を理解する。 2. 児童生徒の主体的な学習を支える動機づけ、集団 (対人関係)、教育評価等の基本的事項とその意義について理解する。 3. 児童生徒の主体的な学習活動を支えるために、学校における適応・不適応の基本的事項について理解し、児童生徒に対する指導と関わりについて考える。
授業計画	<p>第 1 回： 教育心理学を学ぶことの意義</p> <p>第 2 回： 動機づけ・やる気を高める 1 (内発的/外発的動機づけ)</p> <p>第 3 回： 動機づけ・やる気を高める 2 (原因帰属、学習性無力感)</p> <p>第 4 回： 記憶について 1 (短期記憶、長期記憶)</p> <p>第 5 回： 記憶について 2 (再生・再認、忘却)</p> <p>第 6 回： 学習理論について 1 (古典的/道具的条件づけ)</p> <p>第 7 回： 学習理論について 2 (観察学習、代理強化)</p> <p>第 8 回： 学習の形態・教授方法・教育評価</p> <p>第 9 回： 性格について 1：性格の基本</p> <p>第 10 回： 性格について 2： 性格検査について</p> <p>第 11 回： 児童生徒－教師関係(ピグマリオン効果)</p> <p>第 12 回： 学級という集団(集団規範、集団圧力、凝集性)</p> <p>第 13 回： 学校における適応と不適応 1 (総論)</p> <p>第 14 回： 学校における適応と不適応 2 (いじめ)</p> <p>第 15 回： 学校における適応と不適応 3 (不登校)</p>

アクティブ ラーニング	授業で扱うトピックの関する問いについてグループで議論して、全体で共有する。				
授業内の ICT 活用	WebClass のクリッカー機能を使って理解度の確認などを行う双方向型授業を実施する。				
評価方法	定期試験 70%, 授業への取り組み状況 30% (リアクションペーパー等)				
課題に対する フィード バック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	長峰伸治 (看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	教育制度論
科目責任者	太田 知実
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP番号と科目領域	DP1 教養基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>本講義は、教育制度の導入背景や概要を理解し、教員として諸制度にどう向き合うかを考えることを目的とする。</p> <p>制度という言葉からは固い印象を受けるが、子どもたちが公平に安定して教育を受けるために必要かつ重要である。またそれは、私たちが受け身で従うべきものというより、知恵や工夫を凝らして能動的に向き合うことで初めて高い効果を発揮するものである。</p> <p>本講義では、今の教育課題も踏まえながら、教育の制度に関する知識の習得を目指すとともに、教育の思想や実践を効果的に実現できるような、教員としての力量を培うことを目指す。とくに、学校と地域の連携や、安全と安心の学校づくりなど、現代的な課題にも焦点をあてる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職に必要な教育制度に関する基礎概念、諸学説、基本的論点、課題に関する理解を深める。 2. 子どもや青年の学び・アイデンティティ形成と、それをめぐる教育制度との関係について、積極的・能動的に探究する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：現代教育の制度① 公教育の原理と理念</p> <p>第3回：現代教育の制度② 教育法制の概要</p> <p>第4回：現代教育の制度③ 教育行政と教育政策</p> <p>第5回：地方教育政策の展開① 学校と地域の連携をめぐる論点</p> <p>第6回：地方教育政策の展開② 教育委員会制度の理念</p> <p>第7回：地方教育政策の展開③ 教育委員会制度の仕組み</p> <p>第8回：学校経営の原理と展開① 学校経営の基本理念・組織と過程</p> <p>第9回：学校経営の原理と展開② 「学力」「生きる力」と教育経営</p> <p>第10回：学校経営の原理と展開③ 日米における教員評価</p> <p>第11回：開かれた学校づくり① 学校を基盤とした地域連携の展開と課題</p> <p>第12回：開かれた学校づくり② コミュニティ・スクールと地域学校協働本部</p> <p>第13回：教育制度の現代的課題① 安心・安全の学校づくり</p> <p>第14回：教育制度の現代的課題② 格差社会と教育</p> <p>第15回：講義のまとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	各講義内で提出する小レポート 60% 期末レポート 40%				
課題に対する フィード バック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。				
指定図書	古田薫・山下晃一編著『法規で学ぶ教育制度』ミネルヴァ書房、2020年。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：テキストの該当箇所を目を通しておく。(2回～15回) ・事後学修：テキストを再度読んだり、追加で関連資料・文献を調べたりして、授業内容について理解を深める(2～15回) <p style="text-align: center;">※毎回の事後学修の目安時間は40分です。</p>				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	太田知実(1210研究室) tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は初回の授業で提示する。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	物理学
科目責任者	津森 伸一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	人間は物理法則に従って動いているため、人体や人間の運動を深く理解するためには物理学に関する知識が不可欠である。本科目は、特にバイオメカニクス分野の前提となる力学の基礎を習得することを目的とする。高等学校において「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生向けの内容とする。
到達目標	1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる。 2. 法則の数式的意味を理解し、物理現象を数式として表現できる。 3. 物理法則や数式の持つ意味を言語や図等を用いて分かり易く説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 津森 伸一</p> <p>第 1 回：物理量の表し方，変位・速度</p> <p>第 2 回：加速度，等速直線運動，等加速度直線運動</p> <p>第 3 回：力の合成と分解，ニュートンの第 1 法則（慣性の法則）</p> <p>第 4 回：ニュートンの第 2 法則（運動の法則）</p> <p>第 5 回：問題演習(1)</p> <p>第 6 回：力のつり合い，ニュートンの第 3 法則（作用反作用の法則）</p> <p>第 7 回：重力，垂直抗力</p> <p>第 8 回：問題演習(2)</p> <p>第 9 回：摩擦力</p> <p>第 10 回：仕事，エネルギー（位置エネルギー，運動エネルギー，食物エネルギー）</p> <p>第 11 回：問題演習(3)</p> <p>第 12 回：重心，力のモーメント</p> <p>第 13 回：重心の合成</p> <p>第 14 回：問題演習(4)</p> <p>第 15 回：総まとめ</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、動画閲覧による反転授業を取り入れて実施します。				
授業内の ICT 活用	パソコンと WebClass を用いて、授業用コンテンツの閲覧、レポート提出、リアクションペーパーの作成や返信を行います。				
評価方法	筆記試験 80%、レポート 20%、計 100%で評価します。ルーブリックを用いた評価は行いません。				
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは WebClass を用いて提出を行い、教員より個別に質問の回答やコメントを返信します。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	高等学校「物理基礎」「物理」教科書				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	授業前に指定された動画教材を閲覧し WebClass に提示させる主教材に目を通すこと (40 分)。 授業後に(授業で提示する)演習問題を解いてみる (40 分)。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	NHK 高校講座「物理基礎」が公開するライブラリ (https://www.nhk.or.jp/kokokoza/library/tv/butsurikiso/) を用いた反転学習を行います。				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 9 時～12 時 上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取って下さい。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	化学
科目責任者	有信 哲哉
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生命現象を分子レベルで理解するための基盤となる有機立体化学・反応有機化学の基本を学び、生体分子の機能などを分子レベルで理解できることを学ぶ。また、今後も発展する看護学・医学・生命科学に対して生涯に渡って自律的に学び続けるための学力的な基盤をつくる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 有機化合物の立体構造を表記できる。 2. 重要な有機化合物の性質・反応性を説明できる。 3. 生体を構成する分子の構造的特徴について述べることができ、その役割を説明できる。
授業計画	<p>第1回：原子の構造，安定同位体，放射性同位体，第一周期・第二周期の元素の電子式</p> <p>第2回：第三周期の元素の電子式，周期律，共有結合</p> <p>第3回：結合角，VSEPA 理論</p> <p>第4回：結合角と分子の形，非共有電子対を持つ分子の結合角</p> <p>第5回：極性結合，分子全体の極性</p> <p>第6回：ファンデルワールス力，双極子・双極子相互作用，水素結合</p> <p>第7回：イオン結合，金属結合</p> <p>第8回：官能基の種類，骨格構造式（1）</p> <p>第9回：骨格構造式（2）</p> <p>第10回：鏡像異性体，RS 配置（CIP 順位則），絶対配置</p> <p>第11回：RS 配置の演習，化合物の命名法</p> <p>第12回：立体配座</p> <p>第13回：立体配座と安定性</p> <p>第14回：単糖類・二糖類</p> <p>第15回：多糖類，デンプン，アミノ酸</p>

アクティブラーニング	その他（分子模型を用いたアクティブラーニング） 基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中に学生自身が分子模型を組み立てることで、分子の構造や安定性について考えてもらう。				
授業内のICT活用	特になし				
評価方法	筆記試験（90%）、課題提出物（確認テスト）（10%）、計100%で総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	講義中に行う確認テストに関しては、授業において詳細な解説を行う。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	HGS分子構造模型A型セット	丸善出版	丸善出版	2017	9784621301265
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	事前学習では、授業計画の該当項目、キーワードについて調べること（40分）。 事後学習では、講義ノートを読み返し、さらに関連する演習問題を解き、理解を深めること（40分以上）。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	生命科学																																
科目責任者	熊澤 武志																																
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2 Semester																																
DP 番号と科目領域	DP2 教養基礎																																
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																																
科目概要	生命科学は、生命の営みを細胞や分子レベルで研究し、生物学や化学だけでなく、あらゆる分野から総合的に研究しようとする学問です。本科目では、生命の基本単位である細胞や生命体の複製を中心とした生命基礎現象のしくみを学び、生殖、がん、ストレス、依存症、性、老化、死などの生命のメカニズムを理解しつつ、看護学を学ぶ上で必要となる生命科学の発展的知識を身につけることを目的とします。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体のリズムについて説明できる。 2. 細胞の基本機能と細胞周期について説明できる。 3. 遺伝子と遺伝子操作技術について理解できる。 4. 遺伝子多型と個人差の関係について説明できる。 5. 生命活動に影響を及ぼす諸因子について説明できる。 6. 生命科学を基礎とする医療の進歩について具体的に述べることができる。 7. 生命への関心を深め、問題意識を高めることができる。 																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：生体のリズム</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：細胞と細胞周期</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：がんの生物学</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：フリーラジカルとストレス</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：放射線生物学</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：薬物依存</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：血液型の科学</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：中間のまとめとテスト</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：遺伝子の発現とその制御</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：遺伝子操作技術と遺伝子治療</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：DNA 鑑定と個人識別</td> <td style="text-align: right;">黒崎 久仁彦</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：性の科学～LGBTs について</td> <td style="text-align: right;">津田 聡子</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：出生前診断</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：生命科学の倫理</td> <td style="text-align: right;">長谷川 智華</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：生命と死・まとめ</td> <td style="text-align: right;">熊澤 武志</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：生体のリズム	熊澤 武志	第 2 回：細胞と細胞周期	熊澤 武志	第 3 回：がんの生物学	熊澤 武志	第 4 回：フリーラジカルとストレス	熊澤 武志	第 5 回：放射線生物学	熊澤 武志	第 6 回：薬物依存	熊澤 武志	第 7 回：血液型の科学	熊澤 武志	第 8 回：中間のまとめとテスト	熊澤 武志	第 9 回：遺伝子の発現とその制御	熊澤 武志	第 10 回：遺伝子操作技術と遺伝子治療	熊澤 武志	第 11 回：DNA 鑑定と個人識別	黒崎 久仁彦	第 12 回：性の科学～LGBTs について	津田 聡子	第 13 回：出生前診断	熊澤 武志	第 14 回：生命科学の倫理	長谷川 智華	第 15 回：生命と死・まとめ	熊澤 武志
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回：生体のリズム	熊澤 武志																																
第 2 回：細胞と細胞周期	熊澤 武志																																
第 3 回：がんの生物学	熊澤 武志																																
第 4 回：フリーラジカルとストレス	熊澤 武志																																
第 5 回：放射線生物学	熊澤 武志																																
第 6 回：薬物依存	熊澤 武志																																
第 7 回：血液型の科学	熊澤 武志																																
第 8 回：中間のまとめとテスト	熊澤 武志																																
第 9 回：遺伝子の発現とその制御	熊澤 武志																																
第 10 回：遺伝子操作技術と遺伝子治療	熊澤 武志																																
第 11 回：DNA 鑑定と個人識別	黒崎 久仁彦																																
第 12 回：性の科学～LGBTs について	津田 聡子																																
第 13 回：出生前診断	熊澤 武志																																
第 14 回：生命科学の倫理	長谷川 智華																																
第 15 回：生命と死・まとめ	熊澤 武志																																

アクティブ ラーニング	授業では小テストやリフレクション課題などに取り組んでもらいます。				
授業内の ICT 活用	WebClass を活用したリアクションペーパーの作成、レポートの提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。				
評価方法	中間テスト (30%)、定期試験 (40%)、平常点 (30%) を総合的に評価します。平常点には小テストの成績、レポートの提出、リフレクション課題への記述内容などが含まれます。なお、レポートの評価法にはルーブリックは用いません。また、レポート未提出の場合は単位を修得できないことがあります。				
課題に対する フィード バック	小テストは試験実施後、模範解答を配付し、必要に応じて解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次の授業で回答したり紹介したりします。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。また、2~7 回目の授業で前回の授業範囲の中から簡単な小テストを実施しますので、理解度の評価に役立ててください。なお、この授業では、事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	熊澤武志 (1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了~18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	基礎演習
科目責任者	隆 朋也
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	大学生活や学修習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけ、主体的に学ぶ姿勢とそのため の技能を修得することは、大学在学中はもとより、生涯のさまざまな場面で学び・成長するた めに欠かせないスタディ・スキルである。本科目では、大学での学修に必要な基礎技能を修得 し、自ら学ぶ姿勢、自分に適した学修方法を確立することを目的とする。
到達目標	1. 大学での学修方法が理解できる。 2. 多様なものの見方や異なる価値観を理解できる。 3. 根拠に基づき、自分の意見や主張を明確に述べることができる。 4. 文献、雑誌、インターネットなどからテーマに沿った情報や資料を収集・整理できる。 5. 科学的、論理的な視点でレポートを作成できる。 6. 能動的で自律的・自立的な学習態度を身に付けることができる。
授業計画	<p><担当教員名>隆朋也、神崎江利子、山本智子、長峰伸治、安田智洋、吉里心希、熊澤武志、 早川ゆかり、有村優範、太田知実、岩瀬美保、松本有希、加藤貴子、水田明子、 和田由樹、夏目麻理、江口晶子</p> <p>第 1 回 ガイダンス／大学で学ぶ意義 第 2 回 大学での学修方法 ・主体的学修、事前・事後学修の必要性、学修資源の活用など</p> <p>第 3 回 PC の活用法と情報倫理(1) ・授業や演習における PC の活用法や留意事項について</p> <p>第 4 回 PC の活用法と情報倫理(2) ・レポート・プレゼンテーション作成やグループワークにおける PC の活用法や留意事項につ いて</p> <p>第 5 回 図書館の活用、資料の探し方 ・図書館の利用方法を学ぶ</p> <p>第 6 回 文章を要約する ・論文や書籍に書かれた内容を理解しやすくまとめる</p> <p>第 7 回 レポートの組み立て方 ・アウトライン・パラグラフ・トピックセンテンスについて</p> <p>第 8 回 文献・資料の使い方 ・引用・参考文献の扱い方、文献・資料の探し方を理解する</p> <p>第 9 回 プレゼンテーションのポイント、グループワークオリエンテーション ・パワーポイントを用いた口頭発表の方法、注意点など ・グループワークの課題提示と今後の進め方について</p> <p>第 10・11 回 グループワーク ・テーマについての情報収集・ディスカッション ・グループ発表の準備、プレゼンテーションの資料作り</p> <p>第 12・13 回 グループ発表 ・パワーポイントを用いた口頭発表 ・ルーブリックを活用した他者評価、教員からのフィードバック</p> <p>第 14 回 伝えるための文章の書き方 ・文章の構成の仕方の基本を理解する</p> <p>第 15 回 学生相互のレポート添削 ・作成したレポートを学生間で相互評価しフィードバックを得る</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です。講義形式の授業・演習の他に、グループワークを行います。				
授業内の ICT 活用	WebClass を活用して授業ごとのリアクションペーパー、レポート提出、グループワークの進捗・成果報告等を行います。 授業では必要に応じて PC を活用した演習を行います。グループワークでは PC を活用して情報収集や資料作成を行います。				
評価方法	リアクションペーパー (30%)、レポート (40%)、グループ発表資料と発表内容 (30%) を総合的に評価します。 なお、レポート・グループ発表は、ルーブリックを用いて評価します。				
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは WebClass を利用して提出し、質問等は必要に応じて全体にフィードバックします。その他の提出物についても、担当教員が確認した後に WebClass 上で対応します。グループ発表は、会場で教員が口頭でフィードバックを行います。				
指定図書	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
看護学生のためのよく わかる大学での学び方 (第2版)	前原澄子	金芳堂	2018	9784765317689	
大学生 学びのハンド ブック [5訂版]	世界思想社編集部	世界思想社	2021	9784790717492	
事前・ 事後学修	事前学修：各講義に事前学修課題が提示される。文献を調べたり、自分の考えをまとめたりして授業に臨む (30分程度)。 事後学修：授業の学びをまとめ、記録する (30分程度)。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	科目責任者 (看護学部：隆) の研究室は 1605 です。 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール (tomoya-t@seirei.ac.jp) で連絡をしてください。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	講義形式の授業においては 2 教室間での同時双方向型メディア授業を行う。講義担当教員が 1 教室で対面授業を行い、その様子を別教室に TV 会議システムで配信する形で行う。メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教員を 1 名以上配置し、教育の質を維持する。また授業時間に講義担当教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる機会も設ける。グループワーク等の演習が中心となる授業では、それぞれの教室に担当教員を配置した対面形式の授業を行う。				

科目名	キャリアデザイン																								
科目責任者	藤浪 千種																								
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 3 セメスター																								
DP 番号と科目領域	DP4 教養基礎																								
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。																								
科目概要	看護専門職の多様なキャリアコースを理解するとともに、看護専門職として活躍するために必要な社会人基礎力を身に着ける。また、キャリアデザインの考え方を広げながら、社会人基礎力とキャリアデザインとの関連性を踏まえ、自分のキャリアデザインを描く。																								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアデザインとは何かについて多様な考え方を理解することができる。 2. 社会人として必要なマナー・コミュニケーション能力・ストレスコーピング方法を理解することができる。 3. 看護専門職を目指す自身のキャリアデザインを描くことができる。 																								
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th>【授業回】</th> <th>【授業内容】</th> <th>【担当者】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>キャリアデザイン、社会人基礎力とは</td> <td>藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>看護専門職の多様なキャリアコースとその選択</td> <td>小出芙美子</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>社会人として必要なマナーとコミュニケーション力</td> <td>特別講師・藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>身近な人のキャリアデザインとストレスマネジメント</td> <td>村松美恵・小出芙美子</td> </tr> <tr> <td>第5・6回</td> <td>先輩看護専門職のキャリアデザイン 特別講師①・特別講師②・小出芙美子・村松美恵</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>社会を知ることで見えてくるキャリアデザイン</td> <td>藤浪千種</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>まとめ、自身のキャリアデザイン</td> <td>藤浪千種</td> </tr> </tbody> </table>	【授業回】	【授業内容】	【担当者】	第1回	キャリアデザイン、社会人基礎力とは	藤浪千種	第2回	看護専門職の多様なキャリアコースとその選択	小出芙美子	第3回	社会人として必要なマナーとコミュニケーション力	特別講師・藤浪千種	第4回	身近な人のキャリアデザインとストレスマネジメント	村松美恵・小出芙美子	第5・6回	先輩看護専門職のキャリアデザイン 特別講師①・特別講師②・小出芙美子・村松美恵		第7回	社会を知ることで見えてくるキャリアデザイン	藤浪千種	第8回	まとめ、自身のキャリアデザイン	藤浪千種
【授業回】	【授業内容】	【担当者】																							
第1回	キャリアデザイン、社会人基礎力とは	藤浪千種																							
第2回	看護専門職の多様なキャリアコースとその選択	小出芙美子																							
第3回	社会人として必要なマナーとコミュニケーション力	特別講師・藤浪千種																							
第4回	身近な人のキャリアデザインとストレスマネジメント	村松美恵・小出芙美子																							
第5・6回	先輩看護専門職のキャリアデザイン 特別講師①・特別講師②・小出芙美子・村松美恵																								
第7回	社会を知ることで見えてくるキャリアデザイン	藤浪千種																							
第8回	まとめ、自身のキャリアデザイン	藤浪千種																							

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された事前課題に主体的に取り組み、授業に参加してください。 ・リアクションペーパーの質問や意見には、授業時またはWebClassなどで回答します。 ・第4・5・6・8回はグループワークを行います。 				
授業内の ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でインターネットを用いた情報検索を行います。 ・ICT機器を用いて、意見交換を行う双方向型授業を実施します。 				
評価方法	評価は各授業で提出するリアクションシート（40%）とレポート（60%）で行います。なお、レポートはルーブリックの評価を用いません。				
課題に対する フィード バック	授業に関する質問・意見には、授業内またはWebclassで回答します。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「就職ガイドブック」、「キャリアガイドブック」 本学キャリア支援センター作成資料 その他下記参照 				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
大学生のためのキャリア デザイン入門	岩上真珠	有斐閣	2014	9784641174009	
事前・ 事後学修	<p>1コマあたりの事前事後学修時間の目安はそれぞれ20分（合計40分）を目安とします。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業で提示された課題に取り組み授業に参加してください。また、授業テーマに関連する文献や資料等を探して目を通しておくことをお勧めします。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、わからなかったこと、知りたいと思ったことを調べてください。 				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・聖隷クリストファー大学 キャリア支援センターHP：https://www.seirei.ac.jp/career/ ・日本看護協会 HP：https://www.nurse.or.jp/ ・日本看護系大学協議会 HP：https://www.janpu.or.jp/ ・日本看護協会 ナースストリート https://nurse-st.jp/ ・近くナビ https://chikaku-navi.com/ 				
オフィス アワー	<p>事前にメールでアポイントを取った後に訪室してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤浪千種（1208研究室）：chigusa-f@seirei.ac.jp ・小出扶美子（2713研究室）：fumiko-k@seirei.ac.jp ・村松美恵（2711研究室）：mie-t@seirei.ac.jp 				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	英語Ⅲ（看護英語）
科目責任者	渥美 陽子
単位数他	1 単位（30 時間） 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	英語学習を通して「異文化看護（Transcultural Nursing）」の概念に触れ、看護職者に求められる多言語・多文化への対応力を養う。対象者の多様性を理解し、英語での看護コミュニケーションに慣れることを目指す。前半では、講義と視聴覚教材を活用して「看護英語」の世界に親しむと同時に、語彙力やロールプレイに必要な対話力の基礎を養う。後半では、異文化看護の視点から特定の疾患や障害に関する適切なケアを英語で提供できるよう、グループワークを通じて学修し、プレゼンテーション（英語）を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の専門用語、ケアに関する語句を英語で 300 語以上覚える。 2. 基本的な看護ケアに必要なコミュニケーションを英語で実践できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・患者さんへの問診、アセスメントが英語で実施できる。 ・バイタルの測定、気分や症状、心配事などを聞くことができる。 ・与薬時の説明、安全確認ができる。 3. 多様な文化的背景を持つ地域住民の保健医療について考え、グループワークを通して「異文化看護」への理解を深める。
授業計画	<p><担当教員名> 渥美陽子、パターンソン・ドナルド、クラモト・クリスティーン</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：Introduction to the course 履修説明、Body Parts 身体の部位</p> <p>第 2 回：Meeting Patients 初診時の患者登録と生活習慣に関する質問の仕方</p> <p>第 3 回：Taking a Medical History 病歴および健康状態の把握</p> <p>第 4 回：Assessing Patients' Symptoms 患者の病状や症状のアセスメント</p> <p>第 5 回：Taking Vital Signs バイタルサインの測定</p> <p>第 6 回：発表会</p> <p>第 7 回：まとめ、中間テスト</p> <p>第 8 回：Assessing Pain 疾病・負傷による痛みのアセスメント</p> <p>第 9 回：Advising about Medication 薬の服用方法、副作用、薬の種類など</p> <p>第 10 回：Improving Patients' Mobility 運動機能の回復に向けた援助</p> <p>第 11 回：Caring for Inpatients 入院患者のケア</p> <p>第 12 回：グループワーク①</p> <p>第 13 回：グループワーク②</p> <p>第 14 回：グループ発表会</p> <p>第 15 回：期末テスト、まとめ</p>

アクティブラーニング	前半では、授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は、地域在住の外国人保健医療に関する課題を取り上げ、問題解決型プロジェクトをグループで行い、発表する。				
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ICT機能を利用して、授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する。 事前・事後学習、授業内で利用するマルチメディア教材を提供する。 Google機能を用いてグループ発表の準備、発表を共同編集・同時参加型にする。 Quizlet（オンライン単語学習ツール）を活用し、授業外の学習を促進する。 				
評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業参加度）10%、小テスト20%、中間テスト20%、発表・課題30%、期末テスト20%				
課題に対するフィードバック	小テスト・課題・中間/最終テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）				
指定図書	書名：『Caring for People』、著者： Michiko Mayuzumi/ Tamiko Miyatsu/ Philip Hinder、出版社：CENGAGE LEARNING、出版年：2014年				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
参考図書	なし				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
事前・事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べて確認し（発音を含む）、不明な点・課題を明らかにする。音声ファイルを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）、暗唱練習を行う。表現の定着、内容の理解を深める。学修時間の目安：事前学修30分～1時間、事後学修30分～1時間程度。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	時間については初回授業時に提示する。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	保健統計学
科目責任者	隆 朋也
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	根拠に基づく看護の実践において、さまざまなデータを正しく理解し適切に活用するための統計学の知識は必要不可欠である。この科目では、看護専門職者に求められる統計学について、基礎的な理論と分析手法を系統的に学修することを目的とする。単なる暗記ではなく、論理的に考えて結論を導き出す過程に重点を置く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データの特徴を知り、図および表で適切に示すことができる。 2. データの特徴を、指標を用いて適切に表すことができる。 3. 母集団の平均値を推定し、二群を比較できる。 4. 相関係数の意味および算出方法を説明し、検定および推定ができる。 5. クロス表を作成し、検定ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： データの性質、母集団と標本</p> <p>第 2 回： 分布を描く</p> <p>第 3 回： 分布の代表値</p> <p>第 4 回： 分布の散布度</p> <p>第 5 回： 正規分布</p> <p>第 6 回： 母集団での平均値の推定</p> <p>第 7 回： 割合に関する分布</p> <p>第 8 回： 検定</p> <p>第 9 回： 2 グループの母平均値の差の検定</p> <p>第 10 回： 1 変数についての解析まとめ</p> <p>第 11 回： 相関図と相関係数</p> <p>第 12 回： 相関係数の検定と推定、クロス集計</p> <p>第 13 回： クロス表の検定、関連係数</p> <p>第 14 回： 2x2 のクロス表について</p> <p>第 15 回： 2 変数についての解析まとめ</p>

アクティブ ラーニング	WebClass を用いて授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行います。				
授業内の ICT 活用	資料配布、演習問題の提示、リアクションペーパー提出等に WebClass を活用します。				
評価方法	小テスト 30%、定期試験 70%				
課題に対する フィード バック	演習問題や演習課題の解説、リアクションペーパーに対するコメントなど、口頭や資料配布、WebClass への提示などによって行います。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	【第2版】ナースのた めの統計学	高木広文／著	医学書院	2009	9784260007726
参考図書	必要に応じて随時紹介します。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	事前学修：次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと（40分）。 事後学修：教科書・配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義のポイントを整理しておくこと（40分）。前回までの授業内容を習得していることが受講の前提となります。 授業で使用するスライドデータや関連資料を随時 WebClass に掲載します。事前・事後学修に活用してください。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	隆朋也：看護学部，1605 研究室（1 号館 6 階） 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール（tomoya-t@seirei.ac.jp）で連絡をしてください。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	疫学
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	集団における健康問題の現状を明らかにするために、問題としている健康問題の発生の程度であるリスクとそのリスクを変化させる要因を探し、両者の因果関係を立証する方法である疫学についてその概念と方法論、実際の場面における適用方法を習得する。具体的には疫学の歴史的背景、調査・研究方法、リスクの算出方法、因果関係立証の条件とその阻害要因、疫学で用いられる指標、健康政策への活用、臨床疫学への応用までを、身近な健康に関する事例に基づいて学修する。
到達目標	人間集団を対象に健康に関連する様々な事象の頻度と分布を観察、分析する方法を理解し、疫学的アプローチの考え方を習得することを目標とする。 1. 疫学の概念について理解する。 2. 疫学的因果関係について理解する。 3. 疫学的研究法について理解する。 4. 疫学指標を算出できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 ガイダンス・疫学の概念と歴史 第2回 疫学の専門用語 第3回 疫学指標 指標の比較・年齢調整 第4回 疫学的因果論① 因果関係の立証 第5回 疫学研究法① 記述疫学、横断研究、地域相関研究 第6回 疫学研究法② コホート研究 第7回 疫学研究法③ 症例対照研究 第8回 関連の指標① 相対危険・寄与危険 第9回 関連の指標② オッズ比 第10回 疫学的因果論② バイアス・交絡要因 第11回 疫学研究法④ 介入研究、臨床試験 第12回 疫学の実例① 臨床疫学 第13回 疫学の実例② 感染症の疫学、疾病登録 第14回 スクリーニング検査① 原理と方法 第15回 スクリーニング検査② 検査精度の評価</p>

アクティブ ラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。				
授業内の ICT 活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など				
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)				
課題に対する フィード バック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。				
指定図書	はじめて学ぶやさしい疫学、日本疫学会 監修、南江堂、2024 年 3 月刊行予定				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
参考図書	下記参照				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
【第4版】基礎から学 ぶ楽しい疫学	中村好一／著	医学書院	2020	9784260042277	
事前・ 事後学修	<p>公衆衛生学についての十分な学力を備えていることが受講の要件です。これについては各自復習(自己学習)してください。</p> <p>前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約 30 分です。</p> <p>事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約 60 分です。事前・事後学修では結果や方法を単に暗記するだけではなく、理論や考える</p>				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	公衆衛生学
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 必修 1 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	公衆衛生学は人間集団を対象とした健康を保持、増進、予防するための実践的科学であり、同時に社会集団や組織における人々の健康課題を総合的に把握するための学問でもある。そのような公衆衛生学の現状を理解し、健康問題解決のための手段を学修する。具体的には、予防の概念とその種類、地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、産業衛生、関係法規等、健康に影響する様々な社会環境要因とその対策についての理解を深める。
到達目標	集団における健康問題の実態と原因を明らかにし、保健・医療・福祉の現状を理解する。 1. 人間集団における健康問題とその予防策について理解する。 2. わが国における公衆衛生活動について学ぶ。 3. 社会問題化している健康問題について理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 公衆衛生の概念 第2回 疾病予防① (予防医学、健康増進、公衆衛生活動) 第3回 疾病予防② (対象別アプローチ) 第4回 人口統計① (人口静態統計、国勢調査、人口3区分) 第5回 人口統計② (平均余命、人口ピラミッド) 第6回 人口統計③ (人口動態統計) 第7回 保健統計① (健康指標、死亡統計) 第8回 保健統計② (疾病統計、衛生統計調査) 第9回 生活習慣病の予防① (健康増進、健康づくり) 第10回 生活習慣病の予防② (食生活、栄養) 第11回 生活習慣病の予防③ (運動、休養、その他) 第12回 感染症とその対策① (感染症予防法、検疫、その他) 第13回 感染症とその対策② (予防接種、その他) 第14回 食品衛生 (食中毒、食品汚染) 第15回 産業保健・環境衛生</p>

アクティブ ラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。			
授業内の ICT 活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など			
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)			
課題に対する フィード バック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。			
指定図書	シンプル衛生公衆衛生学 2021 小山洋・辻一郎 監修 南江堂 2024.2 刊行予定			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
国民衛生の動向 2023/2024		厚生労働統計協会	2023	
参考図書	公衆衛生がみえる 2024-2025 医療情報科学研究所 編集 メディックメディア 2024.3 刊行予定			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
わかる公衆衛生学・た のしい公衆衛生学	丸井 英二	弘文堂		9784335760242
事前・ 事後学修	<p>前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約 30 分です。</p> <p>事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約 60 分です。事前・事後学修では定義や法令、計算方法等を単に暗記するだけではなく、理論や考える過程を修得することが重要です。</p>			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。			
実務経験に 関する記述	なし			
メディア 授業の実施 について	なし			

科目名	保健医療行政論
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	健康で文化的な最低限度の生活を営むことは憲法に保障された国民の権利である。そのために必要であり、用意されている保健医療行政の目的、保健行政と地方自治制度・地方分権の意義や保健行政の役割と制度の仕組みとその財源である国と地方自治体の財政と医療経済を学修する。また、保健医療政策の必要性を理解し、住民参画による策定のプロセス、推進と評価の方法について教授し、政策能力の向上をはかる。
到達目標	わが国における保健医療行政および保健医療サービスの基礎的知識を学ぶ。また、地方公共団体における保健医療行政施策に関する基礎的知識を学ぶ。 1. 我が国における保健医療政策の現状を把握する。 2. 保健医療行政のしくみを学ぶ。 3. 社会保障制度のしくみを学ぶ。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 イントロダクション、保健医療行政の概念と仕組み (行政組織、地方自治体)</p> <p>第2回 保健医療財政の仕組み① 国と地方自治体における制度</p> <p>第3回 保健医療財政の仕組み② 財政基盤、医療費</p> <p>第4回 医療提供体制 医療法、医療計画</p> <p>第5回 医療保険制度① 医療保険制度の概要、国民健康保険</p> <p>第6回 医療保険制度② 被用者保険、後期高齢者医療保険</p> <p>第7回 社会保険制度 雇用保険、労働者災害補償保険</p> <p>第8回 年金保険制度① 年金保険制度の概要</p> <p>第9回 年金保険制度② 国民年金、厚生年金、その他</p> <p>第10回 介護保険制度① 介護保険制度の概要</p> <p>第11回 介護保険制度② 介護認定の仕組み</p> <p>第12回 社会福祉① 社会福祉の概要、生活保護</p> <p>第13回 社会福祉② 障害者福祉、高齢者福祉、児童福祉、その他</p> <p>第14回 保健医療分野における政策と動向① 疾病対策、災害対策、その他</p> <p>第15回 保健医療分野における政策と動向② 国際保健、国際協力</p>

アクティブ ラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。			
授業内の ICT 活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など			
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)			
課題に対する フィード バック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。			
指定図書	系統看護学講座-専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 改訂版 福田 素生 他著 医学書院 2024.3 刊行予定			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	保険と年金の動向 2023/2024 厚生労働統計協会			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
国民の福祉と介護の動 向 2023/2024		厚生労働統計協会	2023	
保健医療福祉行政論 第 5 版	藤内 修二	医学書院		9784260042222
保健医療福祉行政論 [改訂版]	府川 哲夫	ミネルヴァ書房	2022	9784623093434
事前・ 事後学修	公衆衛生学の基礎知識と前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約 30 分です。 事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約 60 分です。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。			
実務経験に 関する記述	なし			
メディア 授業の実施 について	なし			

科目名	社会福祉概論
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2単位 (30時間) 必修 2 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	前半では、現代社会における社会福祉問題について社会情勢をふまえて解説していきます。また、社会福祉の理念と実際、歴史等を学びます。後半では、社会福祉の様々な領域の現状を、事例をまじえて学習していきます。
到達目標	1. 社会福祉の基礎概念を説明できる。 2. 社会福祉に関連するサービスの現状や課題を説明できる。 3. 医療と社会福祉の協働の在り方を説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>佐々木正和、佐藤順子、福田俊子、川向雅弘</p> <p>第1回：社会福祉の基礎概念 現代社会における社会福祉とは (佐々木) 第2回：社会福祉をとりまく状況 貧困問題等 (佐々木) 第3回 社会福祉の歴史と展開 戦前の社会福祉の歴史 (佐々木) 第4回 社会福祉の仕組みと経営 法律・サービスについて (佐々木) 第5回 社会福祉の機関と施設 各福祉機関について (佐々木) 第6回 社会福祉と援助と方法 ソーシャルワーク・グループワーク (福田) 第7回 社会保障制度 (健康保険、高齢者医療、労災等) (佐々木) 第8回 公的扶助制度 (生活保護、手当等) (佐々木) 第9回 子ども家庭福祉 子どもへの支援(事例紹介) (佐々木) 第10回 高齢者福祉 高齢者への支援 (事例紹介) (佐々木) 第11回 障がい者福祉 障がい者への支援 (事例紹介) (川向) 第12回 地域福祉 地域連携・地域包括ケアシステム (佐藤) 第13回 これからの社会福祉の課題 現在ある社会福祉の課題について (佐藤) 第14回 社会福祉を支える人たち 様々な社会福祉職 (佐々木) 第15回 まとめ (佐々木)</p>

アクティブラーニング	反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、Webclassを活用し双方向の情報提供を行います。				
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、授業進度に応じた双方向授業を行います。 ・毎回の授業でWebclassを活用します。 				
評価方法	・リアクションペーパー (10%)、テスト (90%)				
課題に対するフィードバック	webclassにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	よくわかる社会福祉 [第11版]	山縣 文治	ミネルヴァ書房		9784623076765
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	<p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書の単元を読み込んでおくこと (1～15回) ・講義前に前回資料の復習をしておくこと (2～14回) <p>事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後にWebClass内のリアクションペーパーに回答すること (1～15回) <p>(事前・事後学修 目安時間 40分)</p>				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	社会福祉学部所属の佐々木正和研究室 (2605 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。				
実務経験に関する記述	本科目は「精神保健福祉士・社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	家族関係論																																				
科目責任者	佐藤 弘明																																				
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター																																				
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																																				
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																																				
科目概要	現代家族の中の人間関係を社会学観点から理解し、医療従事者として必要な家族を見る目を養う。また現代家族をめぐるさまざまな問題や人間関係について、心理学的立場から理解を深める。																																				
到達目標	1. 自ら経験する現実の家族を社会的観点から相対化することによって家族および家族関係について理解を深める。																																				
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></th> <th style="text-align: right;"><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>少子化を通してみる家族の中の人間関係</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 1 回：</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (1) 少子化とは何か？</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (2) 日本の家族 (過去と現在)</td> <td style="text-align: right;">佐藤弘明</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (2) 日本の家族 (過去と現在)</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (3) 少子化を通してみる夫と妻・①</td> <td style="text-align: right;">佐藤弘明</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (3) 少子化を通してみる夫と妻・②</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (4) 少子化を通してみる親と子・①</td> <td style="text-align: right;">佐藤弘明</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (4) 少子化を通してみる親と子・②</td> <td></td> </tr> <tr> <td> (5) 少子化を通してみる祖父母と孫</td> <td style="text-align: right;">佐藤弘明</td> </tr> <tr> <td>第 5 回： 夫婦関係とその危機 (1) / 夫婦関係の形成と発達</td> <td style="text-align: right;">柴田俊一</td> </tr> <tr> <td>第 6 回： 夫婦関係とその危機 (2) / 事例を通して</td> <td style="text-align: right;">柴田俊一</td> </tr> <tr> <td>第 7 回： 親子関係とその危機 (1) / 子どもが育つ場としての家族</td> <td style="text-align: right;">柴田俊一</td> </tr> <tr> <td>第 8 回： 親子関係とその危機 (2) / 事例を通して</td> <td style="text-align: right;">柴田俊一</td> </tr> </tbody> </table>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	少子化を通してみる家族の中の人間関係		第 1 回：		(1) 少子化とは何か？		(2) 日本の家族 (過去と現在)	佐藤弘明	第 2 回：		(2) 日本の家族 (過去と現在)		(3) 少子化を通してみる夫と妻・①	佐藤弘明	第 3 回：		(3) 少子化を通してみる夫と妻・②		(4) 少子化を通してみる親と子・①	佐藤弘明	第 4 回：		(4) 少子化を通してみる親と子・②		(5) 少子化を通してみる祖父母と孫	佐藤弘明	第 5 回： 夫婦関係とその危機 (1) / 夫婦関係の形成と発達	柴田俊一	第 6 回： 夫婦関係とその危機 (2) / 事例を通して	柴田俊一	第 7 回： 親子関係とその危機 (1) / 子どもが育つ場としての家族	柴田俊一	第 8 回： 親子関係とその危機 (2) / 事例を通して	柴田俊一
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																				
少子化を通してみる家族の中の人間関係																																					
第 1 回：																																					
(1) 少子化とは何か？																																					
(2) 日本の家族 (過去と現在)	佐藤弘明																																				
第 2 回：																																					
(2) 日本の家族 (過去と現在)																																					
(3) 少子化を通してみる夫と妻・①	佐藤弘明																																				
第 3 回：																																					
(3) 少子化を通してみる夫と妻・②																																					
(4) 少子化を通してみる親と子・①	佐藤弘明																																				
第 4 回：																																					
(4) 少子化を通してみる親と子・②																																					
(5) 少子化を通してみる祖父母と孫	佐藤弘明																																				
第 5 回： 夫婦関係とその危機 (1) / 夫婦関係の形成と発達	柴田俊一																																				
第 6 回： 夫婦関係とその危機 (2) / 事例を通して	柴田俊一																																				
第 7 回： 親子関係とその危機 (1) / 子どもが育つ場としての家族	柴田俊一																																				
第 8 回： 親子関係とその危機 (2) / 事例を通して	柴田俊一																																				

アクティブ ラーニング	なし			
授業内の ICT 活用	なし			
評価方法	(佐藤) 定期試験 (100%) の結果で評価する。ただし、授業中の質疑応答を加点要素とする。 (柴田) レポート 100% で評価する。			
課題に対する フィード バック	定期試験の解答例を提示します。			
指定図書	なし			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	授業中、適宜提示します。			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	(佐藤) 講義内容をよりよく理解するには質問が必須です。質問のためには授業前後にノート の再読が必要です。少なくとも 40 分はかけてください。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。			
実務経験に 関する記述	なし			
メディア 授業の実施 について	なし			

科目名	養護概説	
科目責任者	池永 理恵子	
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	養護教諭の職務に関心を持ち、養護教諭の役割と活動内容を理解する。成長発達過程の児童生徒の課題解決に必要な知識、技術、対人援助スキルを習得する。養護活動の理論を講義によって理解し、養護教諭としての基礎的専門性を身につける内容とする。	
到達目標	<p>養護教諭の職務内容に関する基礎的な知識及び指導・支援の方法を修得できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健の対象である児童生徒等の特性と発育発達課題を述べるができる。 2. 児童生徒等の心身の健康と安全に関する実態と課題について理解を深めることができる。 3. 学校における養護教諭の役割と校内組織との関連を考慮することができる。 4. 養護教諭の専門性として必要な知識・技術・態度を身につけることができる。 5. 学校内外の保健関係組織との連携及び協働活動の必要性と養護教諭の役割を説明できる。 	
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、養護教諭の職務と専門性</p> <p>第2回 児童生徒の健康実態の把握と課題</p> <p>第3回 保健室経営と学校経営、養護活動の評価</p> <p>第4回 学校保健計画・学校安全計画、組織活動</p> <p>第5回 保健管理－健康診断（健康診断と疾病管理）①</p> <p>第6回 保健管理－健康診断（健康診断と事後措置）②</p> <p>第7回 保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成①</p> <p>第8回 保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成②</p> <p>第9回 保健管理－学校安全と危機管理</p> <p>第10回 保健管理－学校救急処置</p> <p>第11回 保健管理－感染症の予防</p> <p>第12回 保健管理－学校環境衛生活動</p> <p>第13回 特別支援教育における養護活動</p> <p>第14回 健康相談の進め方と実際</p> <p>第15回 保健教育－保健教育指導案の発表と討議、まとめ</p>	<p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p> <p>池永理恵子</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、毎回、グループワーク、ディスカッションを取り入れて実施する。 ・第6回では、健康診断の演習を行い、児童生徒の健康状態・発達発達の評価を行う。 ・第10回では、保健室等の場面における救急処置の事例についての実習・演習を行う。 ・第14回では、健康相談の演習を行う。 ・第15回では、作成した指導案に基づく模擬授業を行う。 	

授業内のICT活用	・対面授業においてはプレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。 グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行う。				
評価方法	リアクションペーパー・課題提出物 20% グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加、態度 (演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示します。) 20% 筆記試験 60% 計100%				
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題はコメントを添えて返却する。 ・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気付き、理解を深めたことを書く。なお、記載内容で重要なものは、次回の授業で回答したり紹介する。 ・毎回実施する小テストについては、講義の中で解説を行う。 ・個人課題(保健室経営計画の作成他)、グループ課題(保健指導案の作成、保健だよりの作成、)については、授業の中で解説を行い、各個人・グループの内容について共有する。 				
指定図書	養護教諭養成講座 学校における養護活動の展開改訂第11版 編集代表：池波志乃、ふくろう出版、				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
参考図書	なし				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
事前・事後学修	<p>1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則40分とする。学修方法については、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書(テキスト)の箇所を読んでから講義に臨むこと。 ・授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付するので、事前・事後学修に活用する。 ・指示する指導案・保健だよりを作成等を行うこと ・授業範囲の中から簡単な小テストを実施するので、理解度の評価に役立つ。 ・講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、各授業において紹介した図書やインターネットなどで自ら積極的に 				
オープンエデュケーションの活用	<p>講義内容の参考資料として、次のホームページを参照してください。</p> <p>1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm ・小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・特別支援教育 https://www.mext.go.jp/ 				
オフィスアワー	<p>科目責任者：池永理恵子(研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします)</p> <p>オフィスアワーは、原則、講義日の講義終了後から18時までとします。</p> <p>講義日以外でも対応できますが、会議等で研究室を不在にする場合もありますので、事前にメールで予約を入れていただくと、確実に時間をとって対応できます。</p> <p>メールでの相談は随時受け付けています。</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	生涯発達心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位 (30時間) 必修 1 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	この授業では、人間のライフサイクルの各発達段階(乳児期～高齢期)における発達課題とその意味について、エリクソンなどのいくつかの発達理論や最新の研究知見を用いて、特に対人関係や自己の発達に焦点をあてて説明する。また、発達障害の基本的な特徴についても説明する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護専門職に必要な「乳幼児期から高齢期に至るまでの各発達段階の発達課題や心理的特徴」および「発達障害に関する定義や特徴」の基本的事項について理解する。 2. 1の知識を得ることで、これまでにどのような発達の道筋を経てきたのか、今の発達段階での課題をどのように乗り越えているのかなど、発達の観点から自分や他者を理解する。
授業計画	<p>第1回： ライフサイクルにおける発達とは・発達における「遺伝」と「環境」</p> <p>第2回： 胎生期・乳児期の発達（愛着の形成）</p> <p>第3回： 乳児期の発達（基本的信頼感）</p> <p>第4回： 幼児期前半の発達1（第1次反抗期、言語能力の発達）</p> <p>第5回： 幼児期前半の発達2（自律性、トイレトレーニング）</p> <p>第6回： 幼児期後半の発達（積極性、遊びの発達）</p> <p>第7回： 児童期の発達（勤勉性、ギャングエイジ）</p> <p>第8回： 思春期の発達（親離れ・子離れ、友人関係）</p> <p>第9回： 青年期の発達：（アイデンティティの形成）</p> <p>第10回： 初期成人期の発達（親密性、キャリア発達）</p> <p>第11回： 中年期の発達1（中年期危機）</p> <p>第12回： 中年期の発達2（アイデンティティの再体制化）</p> <p>第13回： 高齢期の発達（エイジング）</p> <p>第14回： 発達障害の理解と支援1（学習障害、注意欠如多動症）</p> <p>第15回： 発達障害の理解と支援2（自閉スペクトラム症）</p>

アクティブラーニング	アイデンティティ尺度を実際に回答・結果の整理をして、自らの状況の理解を通して青年期の発達課題を学ぶ。				
授業内のICT活用	WebClass のクリッカー機能を使って理解度の確認などを行う双方向型授業を実施する。				
評価方法	定期試験 70%, 授業への取り組み状況 30%(リアクションペーパー等)				
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	長峰伸治 (看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	臨床心理学
科目責任者	松瀬 留美子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	臨床心理学は心の問題を抱えるクライアントの理解と心理的援助の方法について研究・実践する学問である。本講では、臨床心理学の概念と心理的援助の方法について学び、精神医学的な知見も取り入れ、発達障害や人格病理、精神障害、依存症などについて基礎的な知識と心理的支援の方法を理解する。また、学校教育現場で取り上げられることの多い課題から、いじめや不登校、虐待について現状を理解し、映像資料や絵本を用いて心の世界と支援方法を検討する。本科目で学ぶ臨床心理学の理論、アセスメントや関係者との連携に関する知識は、養護教諭が行う健康相談に活用できる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理臨床的なアセスメントについて理解する。 2. 学校におけるいじめ、不登校の現状の理解と心理支援、児童虐待の心理と対応、発達障害、性別違和、ゲーム依存などの心理問題と児童青年期を中心としたメンタルヘルスについて理解する。 3. 養護教諭が行う健康相談活動に必要な臨床心理学の理論、アセスメント・連携の方法について理解する。【養護教諭課程履修者】
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：生きる力と臨床心理学—臨床心理学の目的と方法</p> <p>第2回：心理療法の概観① クライアント中心療法、精神分析、芸術療法</p> <p>第3回：心理療法の概観② 内観療法、森田療法、行動療法、支持的精神療法</p> <p>第4回：心理検査の概観と自己理解</p> <p>第5回：不登校の理解と学校における支援</p> <p>第6回：いじめ問題 いじめの構造と学校における支援</p> <p>第7回：発達障害①自閉スペクトラム症の診断基準と青年期の状態像</p> <p>第8回：発達障害②注意欠如多動症の状態像、発達障害生徒・学生への対応</p> <p>第9回：虐待と学校臨床、こどもの障害と虐待問題</p> <p>第10回：思春期に起こりやすい課題—摂食障害、リストカットと学校での対応</p> <p>第11回：性同一性の課題—性別違和、性的指向の理解と学校での対応</p> <p>第12回：神経症的問題と精神障害—恐怖症、うつ病、統合失調症、</p> <p>第13回：依存症、ゲーム障害、クレプトマニア</p> <p>第14回：認知症の理解と支援</p> <p>第15回：心理臨床の在り方を考える、授業のまとめ</p>

アクティブ ラーニング	適応に困難をきたしているクライアントの理解と支援のために必要な面接の知識は、事例検討とディスカッションにより、臨床場面で生かせる確かな実践力を身につける。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	筆記試験 60%、授業内課題（リアクションペーパー）40%、計 100%				
課題に対する フィード バック	レポート・リアクションペーパーのフィードバックは授業で全体に総評することで対応する。 期末試験は解答のポイントと採点基準を明示する。				
指定図書	テキストは基礎的知識として読むことを薦める。授業では適宜、資料を配布し、シラバスに沿って、心理的問題の現状と事例を中心に進行する。この他、各自で読みやすい「臨床心理学」関連の図書を読むことを推奨する。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	医療系のための臨床心理学	竹森 元彦	講談社サイエンティフィック	2023	9784065303894
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	絵本に学ぶ臨床心理学序説	松瀬 喜治 著	ナカニシヤ出版	2013	9784779507342
事前・ 事後学修	①予習として次回授業分の教科書の要約（20分）2～15回目 ②復習として配布資料のまとめもしくは授業内容のミニレポートの作成（20分）2～10回目				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	衛星放送 BS 放送テレビ 放送大学 「心理学」「臨床心理学」「精神医学」関連の講義 東大テレビ https://today.tv/ 「心」「精神医学」関連の講座				
オフィス アワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に 関する記述	本科目は「公認心理師」「臨床心理士」「学校心理士」の有資格者で実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	カウンセリング
科目責任者	柴田 俊一
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター
DP番号と科目領域	DP3 専門基礎
科目の位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	日常生活における相談が個人の考えや経験をもとに行われることが多いのに対して、カウンセリングは臨床心理学の考え方を基盤に「クライアント(相談に訪れた人)をどのように理解し、いかに関わるのか」を吟味しながら行われる。本講義の目的は、カウンセリングの基礎知識の学習を通して、看護における心理的援助のあり方を考えることである。また、本科目で学ぶカウンセリングの基本理論・技法は、養護教諭が行う健康相談活動にも有用である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの基本姿勢と基本技法を理解する。 2. カウンセリングにおける「聴く」ことの意義を理解する。 3. カウンセリングのプロセスを理解する。 4. カウンセリングにおける心理アセスメントの意義と方法を理解する。 5. カウンセリングの基盤となる臨床心理学の理論の要点を理解する。 6. 健康相談活動を行う上で基礎となるカウンセリングの理論と技法を理解する。 <p>[養護教諭課程履修者]</p>
授業計画	<p>第1回： カウンセリングとは何か</p> <p>第2回： カウンセリングの基本姿勢</p> <p>第3回： カウンセリングの基本技法 聞き上手とは？</p> <p>第4回： クライアント中心療法</p> <p>第5回： 非言語的メッセージとカウンセリング</p> <p>第6回： カウンセリングの流れ</p> <p>第7回： 心理アセスメント(1)</p> <p>第8回： 心理アセスメント(2)</p> <p>第9回： 精神分析療法の視点から</p> <p>第10回： 自己理解を深める演習</p> <p>第11回： 家族療法の視点から(1)</p> <p>第12回： 家族療法の視点から(2)</p> <p>第13回： 遊戯療法・芸術療法の視点から</p> <p>第14回： 行動療法・認知行動療法の視点から</p> <p>第15回： 自己表現について学ぶ演習</p>

アクティブ ラーニング	なし				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	レポート100%で評価する。				
課題に対する フィード バック	なし				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	各回の後に、テキストの該当箇所に目を通すこと。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	解剖学 I
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	解剖学は医学の最も基礎になる学問のひとつである。実際、正しい解剖の知識が無ければ、正しい医療は望むべくもないであろう。解剖学 I では下記の内容について要点を講義するが、授業を通して、人体の正常な構造の知識を身につけ、看護専門科目履修のための基礎を築く
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構成について述べることができる。 2. 消化器系の構造上の特徴を述べることができる。 3. 呼吸器系の構造上の特徴を述べることができる。 4. 心臓血管系の構造上の特徴を述べることができる。 5. 泌尿器系の構造上の特徴を述べることができる。 6. 内分泌に関与する臓器の構造上の特徴を述べることができる。 7. 神経系の構造と主な機能を述べることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション、解剖学総論（解剖学用語、人体の構成）、 第 2 回：組織学総論（細胞、組織）、 第 3 回：消化器系（消化管の管壁、口、咽頭、食道） 第 4 回：消化器系（胃、小腸、大腸、肝臓） 第 5 回：消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜） 第 6 回：呼吸器系（上気道、下気道、胸膜・縦隔） 第 7 回：脈管系（心臓の構造、心臓の血管） 第 8 回：脈管系（刺激伝道系、血管の構造、循環路） 第 9 回：脈管系（循環路、リンパ系、中間テスト） 第 10 回：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道） 第 11 回：自律神経系、内分泌器系（下垂体、甲状腺、上皮小体、膵島、副腎） 第 12 回：神経系（神経組織、神経系の構成） 第 13 回：神経系（脊髄、脳幹、小脳、間脳） 第 14 回：神経系（間脳、大脳、脳室、脳脊髄膜） 第 15 回：まとめ、テスト</p> <p>*浜松医科大学解剖実習見学：6月13日（木 午前）希望者のみ</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習などを取り入れて実施する。			
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・アプリ(Visible Body など) ・DVD などの活用を取り入れて実施する。			
評価方法	テスト (60%)、中間テスト・小テスト (40%) を総合的に評価する。			
課題に対する フィード バック	テストの解説、リアクションペーパーのコメント、授業時間外の質問対応など			
指定図書	系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版	坂井 建雄	医学書院		9784260046879
参考図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
トートラ人体解剖生理 学 原書 11 版	佐伯 由香	丸善出版	2020	9784621305393
ネッター解剖学アト ラス [電子書籍付] (原書 第7版)	相磯 貞和	南江堂	2022	9784524230082
【改訂20版】日本人 体解剖学 上 解剖学 総論・骨格系・筋系・ 神経系	金子丑之助/原著 金 子勝治/監修 穂田真 澄/編著	南山堂	2020	9784525101008
【改訂20版】日本人 体解剖学 下 循環器 系・内臓学・感覚器系	金子丑之助/原著 金 子勝治/監修 穂田真 澄/編著	南山堂	2020	9784525101107
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」「目で見える医学の基礎」の受講を勧める。			
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。			
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について				

科目名	解剖学Ⅱ
科目責任者	顧 寿智
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	解剖学Ⅱは、解剖学Ⅰに引き続き、運動器系、感覚器系、生殖器系、神経系について学修し、人体の構造をさらに深く理解することを目指す。解剖学Ⅱの授業を通して、看護学に必要な人体の正常な構造の知識を身につけ、看護専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系の構造上の特徴を述べることができる。 2. 感覚器系、生殖器系の構造と特徴を述べることができる。 3. 神経系の構造と主な機能を述べることができる。 4. 神経系病理との繋がりを述べることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：前期のまとめ、運動器系（基本構造、骨の連結）</p> <p>第 2 回：運動器系（全身の骨）</p> <p>第 3 回：運動器系（主な骨格筋）</p> <p>第 4 回：感覚器系（視覚器、平衡聴覚器、皮膚）</p> <p>第 5 回：生殖器系（男性生殖器、女性生殖器）</p> <p>第 6 回：神経系（脊髄神経）</p> <p>第 7 回：神経系（脳神経、伝導路）、</p> <p>第 8 回：解剖実験、まとめ、テスト</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習などを取り入れて実施する。			
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・アプリ (Visible Body など) ・DVD などの活用を取り入れて実施する			
評価方法	テスト (60%)、小テスト (40%) を総合的に評価する。			
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント、授業時間外の質問対応など			
指定図書	系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版	坂井 建雄	医学書院		9784260046879
参考図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
トートラ人体解剖生理 学 原書 11 版	佐伯 由香	丸善出版	2020	9784621305393
【改訂20版】日本人 体解剖学 上 解剖学 総論・骨格系・筋系・ 神経系	金子丑之助/原著 金 子勝治/監修 穂田真 澄/編著	南山堂	2020	9784525101008
【改訂20版】日本人 体解剖学 下 循環器 系・内臓学・感覚器系	金子丑之助/原著 金 子勝治/監修 穂田真 澄/編著	南山堂	2020	9784525101107
ネッター解剖学アト ラス [電子書籍付] (原書 第7版)	相磯 貞和	南江堂	2022	9784524230082
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として、図書館にあるDVD「目で見える解剖・生理」「目で見える医学の基礎」の受講を勧める。			
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。			
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について				

科目名	生理学 I
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる基礎力を身に付けることを目的とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化・吸収の意義とその機能について説明できる。 2. 呼吸運動とガス交換について説明できる。 3. 循環系の意義、心臓の機能、心電図、血管系の機能、循環調節について説明できる。 4. 血液と体液の組成とその機能について説明できる。 5. 腎臓の機能、尿の生成、排尿ならびに体液の調節機構について説明できる。 6. 神経系の機能について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：ガイダンス・栄養の消化と吸収-1 第 2 回：栄養の消化と吸収-2 第 3 回：栄養の消化と吸収-3 第 4 回：呼吸の生理学-1 第 5 回：呼吸の生理学-2 第 6 回：心臓・循環の生理学-1 第 7 回：心臓・循環の生理学-2 第 8 回：血液と体液-1 第 9 回：血液と体液-2 第 10 回：尿の生成とその排泄-1 第 11 回：尿の生成とその排泄-2 第 12 回：神経機能の基礎・自律神経系 第 13 回：脊髄と脳-1 第 14 回：脊髄と脳-2 第 15 回：脳の高次機能・まとめ</p>

アクティブ ラーニング	小テストやリフレクション課題への取り組みのほか、教室の状況によっては、グループワークやペアワークを取り入れながら授業を実施します。				
授業内の ICT 活用	WebClass を活用したリフレクション課題の作成・提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。				
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（30%）、リフレクション課題への記述内容（10%）を総合的に評価します。				
課題に対する フィード バック	小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答えは次回の授業で返却します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版	坂井 建雄	医学書院		9784260046879
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	カラー図解人体の正常 構造と機能 [全10巻 縮刷版] 改訂4版	坂井 建雄	日本医事新報社	2021	9784784931811
	解剖生理学 第5版	武田 裕子	メディカ出版	2023	9784840478311
事前・ 事後学修	小テストやリフレクション課題の作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	熊澤武志（1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	生理学Ⅱ
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる基礎力を身に付けることを目的とします。
到達目標	生体防御システムについて説明できる 体温の調節機構について説明できる。 ホルモンの種類およびその作用・調節機構について説明できる。 生殖、発生、成長、老化、それぞれのメカニズムについて説明できる。 感覚系の機能について説明できる。 筋系の機能および筋収縮について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：生体の防御機構 第 2 回：体温とその調節 第 3 回：内分泌系の機能と調節－1 第 4 回：内分泌系の機能と調節－2 第 5 回：生殖と発生 第 6 回：成長と老化 第 7 回：感覚の生理学 第 8 回：筋肉の機能・まとめ</p>

アクティブ ラーニング	小テストやリフレクション課題への取り組みのほか、教室の状況によっては、グループワークやペアワークを取り入れながら授業を実施します。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	定期試験 (60%)、小テスト (30%)、授業への取り組み (10%) を総合的に評価します。				
課題に対する フィード バック	小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答案は次回の授業で返却し解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版	坂井 建雄	医学書院		9784260046879
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	カラー図解人体の正常 構造と機能 [全10巻 縮刷版] 改訂4版	坂井 建雄	日本医事新報社	2021	9784784931811
	解剖生理学 第5版	武田 裕子	メディカ出版	2023	9784840478311
事前・ 事後学修	小テスト、リアクションペーパー作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	熊澤武志 (1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	栄養生化学
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	2単位 (30時間) 必修 2セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	栄養生化学は生命活動と体内に取り入れた栄養素との相互作用を化学的・栄養学的に研究する学問です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、栄養素の生化学的基礎を学び、分子や細胞レベルでの代謝・調節機構、生活習慣病の予防やライフステージに沿った栄養管理のポイント等を理解することを目的とします。本科目で学ぶ用語や名称は、医療における共通言語であり、その理解は看護を学修する上での基盤となります。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における栄養生化学の役割について述べることができる。 2. 酵素、ビタミン・補酵素について説明できる。 3. 糖質の構造、機能、代謝について説明できる。 4. 脂質の構造、機能、代謝について説明できる。 5. タンパク質の構造、機能、代謝について説明できる。 6. ポルフィリン代謝と異物代謝について説明できる。 7. 遺伝子発現の仕組みについて説明できる。 8. ライフステージごとの栄養の特徴について述べることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：ガイダンス・栄養生化学の基礎知識 第2回：生体の構成成分と栄養素 第3回：酵素の特徴とはたらき 第4回：糖質の構造と性質 第5回：糖質の代謝 第6回：脂質の構造と性質 第7回：脂質の代謝 第8回：タンパク質の構造と性質 第9回：タンパク質の代謝 第10回：ビタミン・ミネラルの種類とはたらき 第11回：エネルギー代謝 第12回：遺伝子の生化学 第13回：代謝の異常 第14回：栄養状態の評価と判定 第15回：ライフステージと栄養</p>

アクティブ ラーニング	整理問題を用いた自主学修やリフレクション課題に取り組むほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れながら授業を進めます。				
授業内の ICT 活用	WebClass を活用したリフレクション課題の作成・提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。				
評価方法	定期試験（80%）、リフレクション課題への記述内容（20%）を総合的に評価します。				
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	人体の構造と機能[3] 栄養学 第13版	小野 章史	医学書院		9784260038614
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	人体の構造と機能[2] 生化学 第14版	畠山 鎮次	医学書院		9784260035569
事前・ 事後学修	リアクションペーパー作成や整理問題を解く等して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業ではリアクションペーパーの作成も含めて、事前学修に40分程度、事後学修に40分程度を費やします。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	熊澤武志（1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	微生物・感染
科目責任者	永田 年
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	感染症にかかった患者を看護する立場にある人々は感染症についての知識はもちろん、感染症の原因である病原微生物について十分な知識を持ち、これに基づいた適切な処置が必要である。また、感染症と深く関連性のある免疫学についての十分な知識も必要である。これらのことを学習目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の体系的な基礎知識とその特徴を学び、病原微生物と感染及び発病の概念が理解できるようにする。 2. 生体の種々の防御機構(特に免疫)を学び、病原微生物に対する適切な対応処置に関する知識を修得できるようにする。 3. 現在、問題になっている、院内感染、日和見感染について十分な知識を得る。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： 微生物・感染を学ぶ意義、微生物・感染の基礎知識、微生物の種類</p> <p>第 2 回： 細菌・真菌・原虫・ウイルスの性質</p> <p>第 3 回： 感染と感染症</p> <p>第 4 回： 感染に対する生体防御機構</p> <p>第 5 回： 滅菌と消毒、感染症の検査・診断・治療、感染症の現状と対策</p> <p>第 6 回： 病原細菌と細菌感染症</p> <p>第 7 回： 病原真菌と真菌感染症、病原原虫と原虫感染症</p> <p>第 8 回： 病原ウイルスとウイルス感染症</p>

アクティブ ラーニング	なし				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	筆記試験 100% (定期試験)				
課題に対する フィード バック	なし				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	講義内容に比べ講義時間が少ないため、予習・復習をすること。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	<p>2 教室間での遠隔授業を基本とする。コロナウイルス感染状況によってはオンライン授業を検討する。</p> <p>2 教室の場合、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。</p>				

科目名	病理・病態
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	<p>病理学とは病気の原因や病変の成り立ち、その経過など疾病の本質について学んでいく分野である。「すりむいた傷が自然に治ってしまった」といった日常よくある現象は、病理学では「組織修復と再生」で説明することができ、臨床の現場でしばしば遭遇する「褥瘡」については、病理学で学ぶ皮膚の「循環障害」が基本的な原因となっている。脳卒中や心筋梗塞も脳、心臓の「循環障害」である。また、現在死亡原因の第1位である「がん」に関しては、病理学ではその発生原因、その後の経過について多くの研究がなされている。このように病理学では、病理学総論の「細胞障害と細胞増殖」「組織、細胞の修復と再生」「循環障害」「炎症」「腫瘍」「代謝異常」「遺伝と先天異常」を通じて、多くの疾患の発生機序や経過などを理解することができる。また、実際に病院で行なわれている病理診断、病理解剖についても紹介したい。講義資料を配布し、質問しながら講義を進める。授業中の講義はパワーポイントで作成したスライドを用いて行う。</p>
到達目標	様々な疾患についての病理・病態を理解する。
授業計画	<p>第1回：病理学とは何か？ 細胞障害と細胞増殖<第1, 2章参照> 安見和彦 第2回：組織細胞の修復と再生（再生，化生，創傷治癒，異物の処理について） <第3章参照> 安見和彦 第3回：循環障害1（循環障害って何？ 心臓の循環障害）<第4, 12章参照> 安見和彦 第4回：循環障害2（高血圧症と動脈硬化症，脳の循環障害） <第4, 12章及び、第22章の脳血管障害の項目参照> 安見和彦 第5回：炎症1（炎症とは？ 急性炎症と慢性炎症）<第5章参照 安見和彦 第6回：炎症2（様々な臓器における炎症） <第5章及び、第13, 14章の炎症の項目参照> 安見和彦 第7回：腫瘍1（腫瘍の形態，癌の発育と転移，良性腫瘍と悪性腫瘍，腫瘍の分化度） <第8章参照> 安見和彦 第8回：腫瘍2（細胞増殖，腫瘍発生の要因と癌遺伝子について）<第2, 8章参照> 山田英孝 第9回：老化と再生（老化と遺伝子，遺伝子修復，組織・細胞の再生について） <第2, 3章参照> 山田英孝 第10回：腫瘍3（癌の疫学，摘出された様々な腫瘍）<第8章参照> 安見和彦 第11回：骨（骨の吸収と形成，骨折の治癒，筋肉の萎縮と炎症，骨・軟部腫瘍） <第19章参照> 安見和彦 第12回：遺伝と先天異常（遺伝病，染色体異常症，遺伝子診断法について） <第9章参照> 山田英孝 第13回：代謝異常1（タンパク質・脂肪・糖質代謝異常の実際） <第10章参照> 安見和彦 第14回：代謝障害2（タンパク質・脂質・糖質の代謝異常のメカニズム） <第10章参照> 山田英孝 第15回：病理組織細胞診断（病理組織診断，細胞診断，病理解剖の実際） <第23章参照> 安見和彦</p>

アクティブ ラーニング	なし				
授業内の ICT 活用	リアクションペーパーについて webclass を用いる。				
評価方法	リアクションペーパー（10%）、定期試験（90%）にて評価する。 必要に応じてレポートを課すことがある。				
課題に対する フィード バック	授業の中で対応する。				
指定図書	下記を参照する				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	シンプル病理学 改訂 第8版	笹野 公伸 編集	南江堂	2020	9784524249343
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	予習・復習をすること。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	疾病・治療学Ⅰ
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	健康障害によっておこる疾患には、全身的にあるいは臓器や器官別にさまざまな種類がある。「疾病・治療学Ⅰ」では、健康の保持・増進、疾病の予防、疾病時における看護援助の必要性を理解するために、臓器・器官系統別に病態生理、診断、治療、予防について学習する。「疾病・治療学Ⅰ」では、臨床と診断に加え、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、造血器系、消化器系の代表的な疾患、および麻酔法、治療とリハビリテーションについて学習する。
到達目標	1. 疾患の病態生理を説明できる。 2. 疾患に特有な症状について説明できる。 3. 疾患の診断、治療に必要な検査について説明できる。 4. 疾患の治療について説明できる。 5. 健康障害の予防について説明できる。
授業計画	1. 臨床推論と診断 (渡邊 卓哉 1回) <ul style="list-style-type: none"> 1) 疾患とは何か／診断とは何か 2) 総合的診療科の専門性、その役割と機能について 2. 呼吸器系の疾患 (橋本 大 2回) <ul style="list-style-type: none"> 1) 呼吸器系の基礎知識 (肺の構造と生理機能、呼吸器系障害の症状と病態生理) について 2) 呼吸器系の重要疾患と、呼吸器系疾患に対する検査、診断、治療法 (特に 感染症 (肺炎、抗酸菌感染を中心に)、気道疾患 (喘息、COPD を中心に)、間質性肺疾患、肺がん等) 3. 循環器系の疾患 (岡俊明 2回) <ul style="list-style-type: none"> 1) 循環器系基礎知識 (解剖、生理、血液循環のしくみ) について (特に①血液の役割 (白血球、赤血球、血小板) ②心臓の解剖 (心室、心房、肺動脈、大動脈心臓弁) ③心臓のポンプ作用 ④全身の血液循環、動脈と静脈の役割) 2) 循環器系障害の症状と主要な循環器系疾患に対する検査・診断・治療 (特に血圧の異常 (高血圧)、心不全、心臓弁膜症、不整脈、虚血性心疾患、先天性心疾患 等) 4. 腎・泌尿器系の疾患 (三崎太郎 2回) <ul style="list-style-type: none"> 1) 腎・泌尿器系の基礎知識 (構造と機能、腎泌尿器系障害の症状と病態生理) について 2) 腎・泌尿器系の主要疾患と、主な腎泌尿器疾患に対する検査、診断、治療法 5. 血液・造血器系疾患 (土屋紘子 2回) <ul style="list-style-type: none"> 1) 血液・造血器系の基礎知識 2) 血液・造血器系の主要疾患と、検査・診断・治療 6. 消化器系の疾患 (細田佳佐 3回) <ul style="list-style-type: none"> 1) 消化器系の基礎知識 (消化器系の構造・解剖と働き、消化器系障害の症状と病態生理) について 2) 上部・下部消化管の主要疾患と、検査・診断・治療 3) 肝胆膵 (肝臓を中心に) の疾患と、検査・診断・治療 7. 手術と麻酔 (鳥羽好恵 2回) <ul style="list-style-type: none"> 1) 麻酔の基礎知識 (意義と種類、観察方法) 2) 麻酔の臨床応用、麻酔の注意点と合併症 8. 治療とリハビリテーション (俵 祐一 1回) <p>各種疾患・治療プロセスにおけるリハビリテーション専門職の役割と機能について</p>

アクティブ ラーニング	なし			
授業内の ICT 活用	なし			
評価方法	リアクションペーパー（10%）、定期試験（90%）にて評価する。 必要に応じてレポートを課すことがある。			
課題に対する フィード バック	質問は、webclass 等で受け付けます。			
指定図書	以下参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
疾患と看護(1)：呼吸器	讃井 将満	メディカ出版	2020	9784840468978
疾患と看護(2)：循環器	野原 隆司	メディカ出版	2020	9784840468985
疾患と看護(3)：消化器	三原 弘	メディカ出版	2020	9784840468992
疾患と看護(4)：血液/ アレルギー・膠原病/ 感染症	薊 隆文	メディカ出版	2020	9784840469005
疾患と看護(8)：腎/泌 尿器/内分泌・代謝	繪本 正憲	メディカ出版	2020	9784840469043
参考図書	なし			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 各単元において、1年次に履修した生理学、解剖学は、本科目の前提となるので十分に復習して臨むこと。 授業前に、指定図書の対応する巻の巻頭：構造と機能の部分を読み、理解しておくこと 授業後は、指定図書の対応する巻について学習しておくこと 			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。			
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について	対面授業で実施する			

科目名	疾病・治療学Ⅱ
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	「疾病・治療学Ⅱ」は「疾病・治療学Ⅰ」に引き続き、健康の保持・増進、疾病の予防、疾病時における看護援助の必要性を理解するために、臓器・器官系統別に病態生理、診断、治療、予防について学習する。「疾病・治療学Ⅱ」では、内分泌・代謝系、骨・筋・運動器系、脳・神経系、自己免疫・アレルギー、乳腺、女性生殖器、耳鼻咽喉・頭頸部、さらに小児について代表的な疾患を取り上げて学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の病態生理を説明できる。 2. 疾患に特有な症状について説明できる。 3. 疾患の診断、治療に必要な検査について説明できる。 4. 疾患に対する治療について説明できる。 5. 健康障害の予防について説明できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌・代謝系 (柏原裕美子 2回) <ol style="list-style-type: none"> 1) 内分泌臓器/内分泌・代謝の機能と障害/検査・診断と治療 2) 代表的内分泌疾患とその治療 /糖尿病の最新の治療 2. 骨関節・筋肉・運動器系の疾患 (計3回) <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動器総論 (佐々木寛二 1回) 運動器の構造と機能、病態生理について 2) 外傷・四肢の疾患と治療 (吉水隆貴 1回) 外傷/上肢・下肢の関節疾患の診断と治療 3) 脊椎疾患と治療 (水野哲太郎 1回) 脊椎の構造と機能、脊椎の主要疾患と診断と治療 3. 脳・神経系の疾患 (内山 剛 2回) <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳神経系の基礎知識 (構造と機能、機能障害について) 2) 脳・神経系の代表疾患と検査・診断・治療 <ul style="list-style-type: none"> ・神経変性疾患 (アルツハイマー病、パーキンソン病、脊髄小脳変性症など) ・その他の脳・脊髄疾患 (感染、脱髄、代謝性など) ・末梢神経疾患、神経筋接合部の疾患、筋疾患 4. 自己免疫・アレルギー疾患 (大村 晋一郎 1回) <ol style="list-style-type: none"> ①免疫反応、アレルギーの仕組み ②自己免疫疾患とその機序 ③主な膠原病疾患とその治療 5. 乳腺疾患 (吉田 雅行 1回) <ol style="list-style-type: none"> ①乳腺の構造・機能と疾患 ②乳がんの検査・診断・治療 ③今日の乳がんの最新の動向 6. 女性生殖器疾患 (安達 博 1回) <ol style="list-style-type: none"> ①女性生殖器の疾患 ②女性生殖器疾患の検査・診断・治療 ③今日の女性生殖器疾患の最新の動向 7. 耳鼻咽喉・頭頸部疾患 (岡村 純 1回) <ol style="list-style-type: none"> 1) 耳鼻咽喉・頭頸部の構造と機能について 2) 耳鼻咽喉・頭頸部の主要疾患と検査・診断・治療

	8. 子どもの疾患 (大呂 陽一郎 4回) 1) 子どもの代謝性疾患・内分泌疾患 2) 子どもの感染症 3) 子どもの呼吸器疾患・アレルギー疾患 4) 子どもの循環器疾患・悪性新生物			
アクティブ ラーニング	なし			
授業内の ICT 活用	なし			
評価方法	リアクションペーパー (10%)、定期試験 (90%) にて評価する。 必要に応じてレポートを課すことがある。			
課題に対する フィード バック	質問に対しては、Webclass 等で対応いたします。			
指定図書	以下を参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
疾患と看護(5):脳・神経	永廣 信治	メディカ出版	2020	9784840469012
疾患と看護(6):眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚	永井 由巳	メディカ出版	2020	9784840469029
疾患と看護(7):運動器	萩野 浩	メディカ出版	2020	9784840469036
疾患と看護(9):女性生殖器官	苛原 稔	メディカ出版	2020	9784840469050
小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版	奈良間 美保	医学書院		9784260038669
参考図書	なし			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 各単元において、1年次に履修した生理学、解剖学は、本科目の前提となるので十分に復習して臨むこと。 授業前は、対応する指定図書の巻頭の1 基礎知識(構造と機能)の部分を学修しておくこと 授業後は、指定図書の対応する巻について学修しておくこと 			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。			
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」「専門看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について	対面授業で実施する			

科目名	薬理
科目責任者	川村 和美
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	<p>薬理では、医薬品の作用機序を中心に、体内動態、副作用、相互作用などを学習します。本科目の学習を通じて、国家試験に合格するための知識を身につけるだけでなく、それぞれの医薬品の特徴や使用例を具体的に説明し、配薬、服薬介助などの臨床で医薬品に興味を持てるように、授業を進めたいと思います。広範囲を限られた時間数で終えなければならないため、スピード間のある授業です。医薬品の名前は多い上にカタカナだらけでややこしく、最初は取っ付きにくいと感じられると思いますが、皆さんが自信を持って臨床で活かせるよう、できる限りわかりやすく薬に親しみが持てるように解説しますので、積極的に参加してください。ともに楽しく、学びの多い授業時間にしましょう！</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な薬剤の作用機序を理解する。 2. 特徴的な薬の代表的な副作用を理解する。
授業計画	<p>臨床で薬に触れたときにどんな薬かわかる、それぞれの薬に興味を持てるように、下記のスケジュールで幅広い領域を網羅した授業を行います。</p> <p>第1回：第1章 薬を知ろう 第2回：第2、3章 循環器内科、代謝・内分泌内科で主に使われる薬 第3回：第4、5章 消化器内科、呼吸器内科・アレルギー科で主に使われる薬 第4回：第6、7章 腎臓内科・泌尿器科・生殖器科、整形外科で主に使われる薬 第5回：第8、9章 精神科・心療内科、神経内科で主に使われる薬 第6回：第10、11章 感染症科、腫瘍内科・緩和医療科で主に使われる薬 第7回：第12、13章 救命救急科・麻酔科、感覚器科で主に使われる薬 第8回：国家試験&定期試験対策問題解説</p>

アクティブ ラーニング	なし			
授業内の ICT 活用	授業内の質問はリアクションペーパーやWeb Class で随時、受け付けます。			
評価方法	評価はマークシート式の筆記試験を実施します。 100 点満点とし、点数配分を定期試験 90%、学習態度 10%（出席点）とします。合計点が 60 点に満たない場合は、再試を実施します。なお、本試験に欠席をした学生も再試験の対象となります。 インフルエンザやコロナ等による罹患で出席停止になった場合、レポートの提出で出席の代替といたします。			
課題に対する フィード バック	なし			
指定図書	なし 発刊を予定しているテキスト（薬事日報）の原案（レジュメ）に従って授業を行います。			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	日本医薬品集、治療薬マニュアル（医学書院）などの医薬品集			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
治療薬マニュアル 2023	高久 史麿	医学書院		9784260050548
事前・ 事後学修	Web Class にアップロードしてある試験対策問題を実施すると、授業の復習と国家試験対策になります。 講義時に配布する資料は、随時、情報を更新し、Web Class 上に PDF をアップロードするので、必要に応じてご活用ください。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	授業に関する質問は主にリアクションペーパーに記載してください。 次の授業時に回答します。			
実務経験に 関する記述	本科目は、病院ならびに保険薬局における実務経験と、薬科大学、看護大学、企業における授業経験が豊富な薬剤師が教授します。			
メディア 授業の実施 について	授業は対面で行いますが、担当教員は教育設計の専門家『インストラクショナルデザイナー』であるとともに、e ラーニングによる授業設計者の資格（eLP シニアマネージャー/eLP シニアラーニングデザイナー/eLP シニアコンサルタント）を有するため、感染症対策でオンラインとなった場合には、e ラーニング教材に近い講義コンテンツを提供します。			

科目名	看護学原論 I
科目責任者	檉原 理恵
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	「看護とは何か」「看護職者は何をするのか」「看護学とはどのような学問のか」などの原理を探究し、看護学の本質的な理解を深め、看護学の発展を担う創造性豊かな看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護の本質や歴史を学修し、看護を構成する人・健康・環境について理解を深める。看護実践のための理論的根拠や看護技術について学修し、看護実践の基盤を構成する要素について理解を深める。看護の専門性への道程を理解し、看護・看護学のこれからの展望と課題について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践と看護の変遷を理解する 2. 看護の対象、健康、環境をとらえる視点を理解する 3. 看護実践のための理論的根拠を理解する 4. 看護実践に必要な技術を理解する 5. 保健・医療・福祉のシステムの中で果たす看護の役割について自分の考えを述べることができる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 看護とは何か</p> <p>第2回 看護実践と看護の変遷</p> <p>第3回 看護に求められる教育</p> <p>第4回 看護の対象とその理解 統合体としての人間</p> <p>第5回 看護の対象とその理解 健康障害をもつケアの対象の理解</p> <p>第6回 健康・病気の捉え方・健康に影響する要因</p> <p>第7回 ライフサイクルと健康</p> <p>第8回 看護実践のための理論的根拠</p> <p>第9回 看護実践のための理論的根拠 (ナイチンゲール、ヘンダーソン)</p> <p>第10回 看護実践のための理論的根拠 (反転授業)</p> <p>第11回 看護における倫理と価値</p> <p>第12回 看護技術とは</p> <p>第13回 看護実践における看護過程の展開</p> <p>第14回 保健・医療・福祉システム</p> <p>第15回 専門職としての看護のあり方</p>

アクティブ ラーニング	事前課題を基に授業を展開します。 授業内で毎回グループディスカッションを実施します 第10回は学生による反転授業、第15回はグループワークをもとにpptを活用し学修内容をプレゼンします				
授業内の ICT活用	WebClassを用いて出席確認、ミニテスト、リアクションを入力します。また反転授業、グループワーク時にはpptを作成します				
評価方法	授業参加度(20%)、ミニテスト(20%)、定期試験(60%)				
課題に対する フィード バック	*事前課題のミニテストについては、授業で解説をします *リアクションカードの質問には、次回授業で回答します				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	看護学概論 第7版	志自岐 康子	メディカ出版	2022	9784840475358
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	看護覚え書	フロレンス・ナイチン ゲール	現代社	2011	9784874741429
	看護の基本となるもの	ヴァージニア・ヘンダ ーソン 著 湯楨ます・ 小玉香津子 訳	日本看護協会出版会	2016	9784818019966
	【第2版】看護理論家 の業績と理論評価	筒井真優美/編集	医学書院	2020	9784260039611
	看護覚え書き	フロレンス・ナイティ ンゲール 著 小玉香津 子・尾田葉子 訳	日本看護協会出版会	2019	9784818022140
事前・ 事後学修	【事前学修】 *单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読んでください。第2～14回には授業中にミニテストを実施します。 【事後学修】 *授業内容、テキストの振り返りをします。ディスカッションした内容を個人学修で振り返ります				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	榎原理恵：1616 研究室 連絡先 rie-k@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	看護学原論Ⅱ
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	1単位（15時間） 必修 2 Semester
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	社会と看護学に関する基礎となる知識を学修して、社会に求められる看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護における法的根拠を理解するとともに、看護実践における倫理的課題や医療安全についての理解を深め、看護の専門性について理解を深める。チーム医療や保健・医療・福祉における協働について基礎的な知識や考え方を学修する。さらに、社会から求められる看護の役割の拡大への展望と課題について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における法的根拠を理解する 2. 看護の対象となる人々の多様性を理解し、看護の継続性を理解する 3. 看護実践における倫理的課題を認識し、対応力の基盤をみにつける 4. 看護とその責務、今後の展望と課題について自己の考えを述べることができる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 看護における法的側面 法の概念と看護実践の職業的法的規則</p> <p>第2回 多職種で取り組む地域包括ケアシステム</p> <p>第3回 看護の展開と継続性 川村佐和子</p> <p>第4回 医療安全への取り組み</p> <p>第5回 倫理的課題への対応 ディベート</p> <p>第6回 災害看護と国際看護</p> <p>第7回 看護とその責務</p> <p>第8回 今後の展望と課題</p>

アクティブ ラーニング	事前課題を基に授業を展開します。 授業内で毎回グループディスカッションを実施します。 第5回は学生によるディベート、第8回はグループワークをもとにpptを活用し学修内容をプレゼンします。				
授業内の ICT活用	WebClassを用いて出席確認、ミニテスト、リアクションを入力します。また反転授業、グループワーク時にはpptを作成します。				
評価方法	授業参加度 (20%)、ミニテスト (20%)、定期試験 (60%)				
課題に対する フィード バック	*事前課題のミニテストについては、授業で解説をします。 *リアクションカードの質問には、次回授業で回答します。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	看護学概論 第7版	志自岐 康子	メディカ出版	2022	9784840475358
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	看護をめぐる法と制度 第4版	平林 勝政	メディカ出版	2023	9784840478380
事前・ 事後学修	【事前学修】 *单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読んでください。第2～7回には授業中にミニテストを実施します。 【事後学修】 *授業内容、テキストの振り返りをします。グループワークに必要な内容を個人学修で振り返ります。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	榎原理恵：1616 研究室 連絡先：rie-k@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	基礎看護技術 I	
科目責任者	田口 実里	
単位数他	2 単位 (60 時間) 必修 1 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、療養生活支援の専門家として、療養者の生活の質を向上するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく援助方法を学び修得する。本科目では、看護場面に共通する技術としてコミュニケーション、感染予防、バイタルサイン測定、療養環境の調整、活動と休息を援助する技術について学び修得する。また、演習では看護者と対象者の両者を経験することによって援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を修得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に共通する技術の原理・原則、根拠について理解できる 2. 看護に共通する技術を修得できる 3. 看護の対象となる人の療養環境について理解し、必要な技術について学修し修得できる 4. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる 5. 実施した看護技術について、グループで意見交換し、安全・安楽の視点で評価できる 6. 能動的な学修態度を身に着けることができる 	
授業計画	<p><担当教員>田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、炭谷正太郎、佐久間佐織、橋積 亜希子、夏目麻里、樫原理恵</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 科目ガイダンス・看護技術とは</p> <p>第2回 コミュニケーションの意義と構成要素</p> <p>第3回 関係構築のためのコミュニケーションの基本</p> <p>第4回 感染予防に必要な技術 I ①</p> <p>第5回 感染予防に必要な技術 I ②・実習室オリエンテーション</p> <p>第6回 【演習】感染予防に必要な技術①</p> <p>第7回 【演習】感染予防に必要な技術②</p> <p>第8回 環境調整に必要な技術①</p> <p>第9回 環境調整に必要な技術②・ボディメカニクス</p> <p>第10回 【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメイキング、シーツ交換①</p> <p>第11回 【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメイキング、シーツ交換②</p> <p>第12回 活動と休息の基本的な知識</p> <p>第13回 活動と休息の援助の実際</p> <p>第14回 【演習】体位変換</p> <p>第15回 【演習】体位保持</p> <p>第16回 【演習】車いす移乗・移送</p> <p>第17回 【演習】ストレッチャー移乗・移送</p> <p>第18回 【演習】技術の確認：ベッドメイキング</p> <p>第19回 バイタルサインの観察①</p> <p>第20回 バイタルサインの観察②</p> <p>第21回 【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定①</p> <p>第22回 【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定②</p> <p>第23回 効果的なコミュニケーション技術</p> <p>第24回 コミュニケーション障害への対応</p> <p>第25回 【演習】効果的なコミュニケーション技術①</p>	<p>単元責任者</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里</p> <p>有村優範</p> <p>有村優範</p> <p>有村優範 他</p> <p>有村優範 他</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里 他</p> <p>田口実里 他</p> <p>早川ゆかり</p> <p>早川ゆかり</p> <p>早川ゆかり 他</p> <p>早川ゆかり 他</p> <p>早川ゆかり 他</p> <p>早川ゆかり 他</p> <p>田口実里 他</p> <p>吉里心希</p> <p>吉里心希</p> <p>吉里心希 他</p> <p>吉里心希 他</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里 他</p>

	第26回【演習】効果的なコミュニケーション技術② 第27回【演習】技術の確認：バイタルサイン 第28回【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅰ① 第29回【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅰ② 第30回【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅰ③・まとめ *授業計画の詳細については、科目ガイダンスで説明します。	田口実里 他 田口実里 他 田口実里 他 田口実里 他 田口実里 他			
アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修、事前課題をもとに授業を進行します。 講義ではディスカッションがあります。 演習はグループで進めます。実施者および患者、観察者としてロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをします。 				
授業内の ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> 授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがあります。 授業の出席、リアクションペーパーやミニテストはWebClassを使用します。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験（または確認テスト）65% 課題提出物 15% 事前課題（ミニテストなど）、事後課題（演習の振り返り） 技術の確認 20% …合格が単位認定の必須条件 				
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> 課題に関するミニテストについては、授業で解説をします。 リアクションペーパーの質問には、次回授業またはWebClassで回答します。 				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第19版	茂野 香おる	医学書院		9784260049924
	基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第18版	有田 清子	医学書院		9784260042123
参考図書	ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン) その他、下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版	坂井 建雄	医学書院		9784260046879
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】 (講義) 单元ごとに提示された課題 (WebClass) に取り組む 学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する (演習) テキスト・講義資料を熟読し、ナーシングスキルなどの動画を視聴する 演習計画書を熟読し、演習ノートを作成する、教科書や動画で学修した内容を書き込む</p> <p>【事後学修】 (講義) テキストや授業資料等で授業内容を振り返る (演習) 課題 (演習の振り返り: WebClass) に取り組む ※演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う</p>				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	※必要時、随時授業内で紹介します				
オフィス アワー	1号館6階1619研究室 メールアドレス: misato-t@seirei.ac.jp 随時: 事前にメールで問い合わせいただくとスムーズです。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	2教室間での遠隔授業を行う場合があります。その場合、单元責任者のファシリテーションのもと、担当教員・準教員が各教室に分かれて授業を進行します。				

科目名	基礎看護技術Ⅱ	
科目責任者	田口 実里	
単位数他	2単位 (60時間) 必修 2セメスター	
DP番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、療養生活支援の専門家として、療養者の生活の質を向上するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく援助方法を学び修得する。本科目では、療養生活を援助する基本的技術として、身体の清潔、食事・栄養、排泄を援助する技術について学び修得する。また、演習では看護者と対象者の両者を経験することによって援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を修得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に共通する技術の原理・原則、根拠について理解できる 2. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる 3. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる 4. 対象に合わせた看護援助を考ることができる 5. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける 	
授業計画	<p><担当教員名> 田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、佐久間佐織、炭谷正太郎、橋積 亜希子、夏目麻里、樫原理恵</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 科目ガイダンス</p> <p>第2回 清潔・衣生活の基本的な知識</p> <p>第3回 清潔・衣生活の援助の実際</p> <p>第4回 【演習】寝衣交換①</p> <p>第5回 【演習】寝衣交換②</p> <p>第6回 【演習】洗髪①</p> <p>第7回 【演習】洗髪②</p> <p>第8回 【演習】清拭・寝衣交換①</p> <p>第9回 【演習】清拭・寝衣交換②</p> <p>第10回 食事に関する基本的な知識、栄養状態の評価</p> <p>第11回 食事の援助の実際（食事介助、口腔ケア）</p> <p>第12回 栄養（経管栄養・中心静脈栄養）</p> <p>第13回 【演習】技術の確認：寝衣交換</p> <p>第14回 【演習】食事介助、口腔ケア①</p> <p>第15回 【演習】食事介助、口腔ケア②</p> <p>第16回 排泄の援助の基本的な知識</p> <p>第17回 排泄の援助の実際（自然排尿、自然排便の介助の実際、浣腸）</p> <p>第18回 【演習】便器・尿器を用いた床上排泄①</p> <p>第19回 【演習】便器・尿器を用いた床上排泄②</p> <p>第20回 【演習】おむつ交換</p> <p>第21回 【演習】陰部洗浄</p> <p>第22回 感染予防に必要な技術Ⅱ</p> <p>第23回 排尿困難への援助（導尿）</p> <p>第24回 【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ①</p> <p>第25回 【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ②</p> <p>第26回 【演習】一時導尿①</p>	<p>単元責任者</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里</p> <p>田口実里 他</p> <p>田口実里 他</p> <p>有村優範 他</p> <p>有村優範 他</p> <p>田口実里 他</p> <p>田口実里 他</p> <p>吉里心希</p> <p>吉里心希</p> <p>吉里心希</p> <p>田口実里 他</p> <p>吉里心希 他</p> <p>吉里心希 他</p> <p>早川ゆかり</p> <p>早川ゆかり</p> <p>早川ゆかり 他</p> <p>早川ゆかり 他</p> <p>早川ゆかり 他</p> <p>早川ゆかり 他</p> <p>有村優範</p> <p>田口実里</p> <p>有村優範 他</p> <p>有村優範 他</p> <p>田口実里 他</p>

	第27回【演習】一時導尿② 第28回【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ① 第29回【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ② 第30回【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ③・まとめ *授業計画の詳細については、科目ガイダンスで説明します。	田口実里 他 田口実里 他 田口実里 他 田口実里 他			
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修、事前課題をもとに授業を進行します 講義ではディスカッションがあります 演習はグループで進めます。実施者及び患者、観察者役よりロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをします 				
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> 授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがあります。 授業の出席、リアクションペーパーやミニテストはWebClassを使用します。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験（または確認テスト）65% 課題提出物 15% 事前課題（ミニテストなど）、事後課題（演習の振り返り） 技術の確認 20%（寝衣交換）…合格が単位認定の必須条件 				
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 課題に関するミニテストについては、授業で解説をします リアクションカードの質問には、次回授業またはWebClassで回答します 				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第19版	茂野 香おる	医学書院		9784260049924
	基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第18版	有田 清子	医学書院		9784260042123
参考図書	ナーシングスキル (https://www.nursingskills.jp/) エルゼビアジャパン その他、下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版	坂井 建雄	医学書院		9784260046879
事前・事後学修	【事前学修】 (講義) 单元ごとに提示された課題 (WebClass) に取り組む 学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する (演習) テキスト・講義資料を熟読し、ナーシングスキルなどの動画を視聴する 演習計画書を熟読し、演習ノートを作成する、必要な動画を視聴しポイントを書き込む 【事後学修】 (講義) テキストや授業資料等で授業内容を振り返る (演習) 課題 (演習の振り返り: WebClass) に取り組む ※演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う				
オープンエデュケーションの活用	※必要時、随時授業内で紹介します				
オフィスアワー	1号館6階1619研究室 メールアドレス: misato-t@seirei.ac.jp 随時: 事前にメールで問い合わせいただくとスムーズです				
実務経験に関する記述	・本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です				
メディア授業の実施について	2教室間での遠隔授業を行う場合があります。その場合、单元責任者のファシリテーションのもと、担当教員・準教員が各教室に分かれて授業を進行します。				

科目名	基礎看護技術Ⅲ																																																																											
科目責任者	佐久間 佐織																																																																											
単位数他	2単位 (60時間) 必修 3セメスター																																																																											
DP番号と科目領域	DP2 専門																																																																											
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																																																																											
科目概要	療養生活支援の専門家として、療養者の生命と生活を適切にとらえ、個々に合わせた看護を実践するために必要となる「フィジカルアセスメント」と「看護過程」の基礎的知識を学修する。さらに、グループワークを通して、学修した知識や技術、論理的思考を用いて、事例に起こっている状況を判断し、評価する力を培う。																																																																											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの目的を説明できる 2. 人体の構造と機能をふまえた正しい身体診査技術の方法を説明できる 3. 学んだ知識を用いて、問診および基本的な診査技術を正しく安全に実践できる 4. 観察したことを記録し、他者へ報告できる 5. 看護過程の意義を説明できる 6. 看護過程を構成する要素、プロセスについて説明できる 7. 事例を用いて看護過程を展開することができる 8. 看護過程についてクリティカルに議論することができる 																																																																											
授業計画	<p><担当教員名>佐久間佐織、炭谷正太郎、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、夏目麻理、榎原理恵 他</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>科目ガイダンス ヘルスアセスメント</td> <td>単元責任者 佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>フィジカルアセスメントの基本技術、問診</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>呼吸器系のフィジカルアセスメント</td> <td>早川 ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>循環器系のフィジカルアセスメント</td> <td>早川 ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>呼吸のフィジカルアセスメント【演習】</td> <td>早川 ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>循環のフィジカルアセスメント【演習】</td> <td>早川 ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>筋・骨格系のフィジカルアセスメント</td> <td>有村 優範</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>脳・神経系（運動機能・感覚機能）のフィジカルアセスメント</td> <td>有村 優範</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>脳・神経系（意識・脳神経）のフィジカルアセスメント</td> <td>有村 優範</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>外皮系のフィジカルアセスメント</td> <td>有村 優範</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>運動機能のフィジカルアセスメント【演習】</td> <td>有村 優範 他</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>意識のフィジカルアセスメント【演習】</td> <td>有村 優範 他</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>消化器系（腹部）のフィジカルアセスメント</td> <td>吉里 心希</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>腹部のフィジカルアセスメント①【演習】</td> <td>吉里 心希 他</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>腹部のフィジカルアセスメント②【演習】</td> <td>吉里 心希 他</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第17回</td> <td>アセスメントとは</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第18回</td> <td>看護問題の明確化、看護計画、実施、評価</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>機能的健康パターン（健康知覚-健康管理パターン）</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>機能的健康パターン（身体的側面）①</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>機能的健康パターン（身体的側面）②</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>機能的健康パターン（心理・社会的側面）</td> <td>佐久間 佐織</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>在宅療養者の看護過程の展開</td> <td>川村 佐和子</td> </tr> <tr> <td>第24回</td> <td>紙上事例の看護過程の展開 ①</td> <td>佐久間 佐織 他</td> </tr> <tr> <td>第25回</td> <td>紙上事例の看護過程の展開 ② グループワーク</td> <td>佐久間 佐織 他</td> </tr> </table>	第1回	科目ガイダンス ヘルスアセスメント	単元責任者 佐久間 佐織	第2回	フィジカルアセスメントの基本技術、問診	佐久間 佐織	第3回	呼吸器系のフィジカルアセスメント	早川 ゆかり	第4回	循環器系のフィジカルアセスメント	早川 ゆかり	第5回	呼吸のフィジカルアセスメント【演習】	早川 ゆかり 他	第6回	循環のフィジカルアセスメント【演習】	早川 ゆかり 他	第7回	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	有村 優範	第8回	脳・神経系（運動機能・感覚機能）のフィジカルアセスメント	有村 優範	第9回	脳・神経系（意識・脳神経）のフィジカルアセスメント	有村 優範	第10回	外皮系のフィジカルアセスメント	有村 優範	第11回	運動機能のフィジカルアセスメント【演習】	有村 優範 他	第12回	意識のフィジカルアセスメント【演習】	有村 優範 他	第13回	消化器系（腹部）のフィジカルアセスメント	吉里 心希	第14回	腹部のフィジカルアセスメント①【演習】	吉里 心希 他	第15回	腹部のフィジカルアセスメント②【演習】	吉里 心希 他	第16回	看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方	佐久間 佐織	第17回	アセスメントとは	佐久間 佐織	第18回	看護問題の明確化、看護計画、実施、評価	佐久間 佐織	第19回	機能的健康パターン（健康知覚-健康管理パターン）	佐久間 佐織	第20回	機能的健康パターン（身体的側面）①	佐久間 佐織	第21回	機能的健康パターン（身体的側面）②	佐久間 佐織	第22回	機能的健康パターン（心理・社会的側面）	佐久間 佐織	第23回	在宅療養者の看護過程の展開	川村 佐和子	第24回	紙上事例の看護過程の展開 ①	佐久間 佐織 他	第25回	紙上事例の看護過程の展開 ② グループワーク	佐久間 佐織 他
第1回	科目ガイダンス ヘルスアセスメント	単元責任者 佐久間 佐織																																																																										
第2回	フィジカルアセスメントの基本技術、問診	佐久間 佐織																																																																										
第3回	呼吸器系のフィジカルアセスメント	早川 ゆかり																																																																										
第4回	循環器系のフィジカルアセスメント	早川 ゆかり																																																																										
第5回	呼吸のフィジカルアセスメント【演習】	早川 ゆかり 他																																																																										
第6回	循環のフィジカルアセスメント【演習】	早川 ゆかり 他																																																																										
第7回	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	有村 優範																																																																										
第8回	脳・神経系（運動機能・感覚機能）のフィジカルアセスメント	有村 優範																																																																										
第9回	脳・神経系（意識・脳神経）のフィジカルアセスメント	有村 優範																																																																										
第10回	外皮系のフィジカルアセスメント	有村 優範																																																																										
第11回	運動機能のフィジカルアセスメント【演習】	有村 優範 他																																																																										
第12回	意識のフィジカルアセスメント【演習】	有村 優範 他																																																																										
第13回	消化器系（腹部）のフィジカルアセスメント	吉里 心希																																																																										
第14回	腹部のフィジカルアセスメント①【演習】	吉里 心希 他																																																																										
第15回	腹部のフィジカルアセスメント②【演習】	吉里 心希 他																																																																										
第16回	看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方	佐久間 佐織																																																																										
第17回	アセスメントとは	佐久間 佐織																																																																										
第18回	看護問題の明確化、看護計画、実施、評価	佐久間 佐織																																																																										
第19回	機能的健康パターン（健康知覚-健康管理パターン）	佐久間 佐織																																																																										
第20回	機能的健康パターン（身体的側面）①	佐久間 佐織																																																																										
第21回	機能的健康パターン（身体的側面）②	佐久間 佐織																																																																										
第22回	機能的健康パターン（心理・社会的側面）	佐久間 佐織																																																																										
第23回	在宅療養者の看護過程の展開	川村 佐和子																																																																										
第24回	紙上事例の看護過程の展開 ①	佐久間 佐織 他																																																																										
第25回	紙上事例の看護過程の展開 ② グループワーク	佐久間 佐織 他																																																																										

	第26回 紙上事例の看護過程の展開 ③ グループワーク	佐久間 佐織 他		
	第27回 紙上事例の看護過程の展開 ④ グループワーク	佐久間 佐織 他		
	第28回 紙上事例の看護過程の展開 ⑤ グループワーク	佐久間 佐織 他		
	第29回 紙上事例の看護過程の展開 ⑥ グループワーク	佐久間 佐織 他		
	第30回 紙上事例の看護過程の展開 ⑦、まとめ	佐久間 佐織 他		
アクティブ ラーニング	事前学修、事前課題をもとに授業を進行する 講義にはディスカッションが含まれる 演習はグループで進める。ロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをする 事例の展開は個人ワークののちグループワークを行う			
授業内の ICT 活用	授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがある 授業のリアクションペーパーや事前・事後課題はWebClass を使用する			
評価方法	確認テスト 50% (フィジカルアセスメント) ※再試験までに 60%以上を点数することが単位認定の条件 課題 50% (フィジカルアセスメント 26%、看護過程 24%)			
課題に対する フィード バック	事前課題については、授業またはWebClass で解説する リアクションカードの質問には、次回授業またはWebClass で回答する			
指定図書	下記参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第18版	茂野 香おる	医学書院		9784260042116
ヘルスアセスメント (Web 動画付) 改訂第2版 臨床実践能力を高める	三上 れつ 編集	南江堂	2017	9784524257485
参考図書	授業で紹介する			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
看護がみえる vol. 3 フィジカルアセスメント	医療情報科学研究所 編集	メディックメディア	2019	9784896327816
看護がみえる vol. 4 看護過程の展開	医療情報科学研究所 編集	メディックメディア	2020	9784896328011
事前・ 事後学修	事前学修：学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する (各 20 分) 單元ごとに提示された課題に取り組む (各 20 分) 事後学修：授業内容を振り返り、課題に取り組む (各 20 分) 演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う ※詳細は、初回ガイダンスで説明する			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	授業内や事前・事後学修で、下記の URL のオンライン教材を利用する ナーシングスキル https://nursingskills.jp (エルゼビアジャパン)			
オフィス アワー	看護学部 1 号館 6 階 1618 研究室 随時 ※不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください			
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です			
メディア 授業の実施 について	授業は 2 ～3 の教室や実習室間での同時双方向メディア授業を行う。單元責任者のファシリテーションのもと担当教員【佐久間佐織】【樫原理恵】【炭谷正太郎】【田口実里】【吉里心希】【早川ゆかり】【有村優範】【夏目麻理】と準教員が、各実習室に分かれて授業を進行する。			

科目名	基礎看護技術Ⅳ
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	2単位 (60時間) 必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、療養生活支援の専門家として生命と生活を守るために必要な診療にともなう看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく援助方法を学び、修得する。本科目では、医療安全、検査・検体の採取、与薬、安楽な呼吸への援助、罨法、創傷管理に関する専門的知識と技術について学修する。さらに、既習の知識と技術を用いて根拠を追及し、看護の対象にあわせた援助について能動的に考え、議論できる態度を培う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象に対する診療に必要な基礎知識・技能を修得できる。 2. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる。 3. フィジカルアセスメントにより、対象に合わせた看護援助を考え、看護援助の実施あるいは実施場面の観察を基に、より良い看護実践について多面的に考察できる。 4. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける。
授業計画	<p>担当教員:炭谷正太郎、榎原理恵、佐久間佐織、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、夏目麻里 他</p> <p>第1回:授業ガイダンス、医療安全に必要な基礎知識(誤薬、チューブ類の抜去、患者誤認、転倒転落、薬剤・放射線暴露)(講義:炭谷)</p> <p>第2・3回:検査・検体採取の援助ー検査・検体採取の援助に必要な基礎知識(講義:炭谷)</p> <p>第4・5回:検査・検体採取の援助の実際ー静脈血採血(演習:*)</p> <p>第6回:与薬の技術ー点滴静脈内注射に必要な基礎知識(講義:炭谷)</p> <p>第7回:与薬の技術ー筋肉注射に必要な基礎知識(講義:炭谷)</p> <p>第8回:与薬の技術ー経口与薬、吸入、点眼、経皮的与薬、直腸内与薬に必要な基礎知識 (講義:炭谷)</p> <p>第9・10回:与薬の技術の実際ー点滴静脈内注射(演習:*)</p> <p>第11・12回:与薬の技術の実際ー筋肉注射(演習:*)</p> <p>第13・14回:安楽な呼吸への援助ー吸引・酸素吸入に必要な基礎知識(講義:炭谷)</p> <p>第15・16回:安楽な呼吸への援助の実際ー吸引・酸素吸入(演習:*)</p> <p>第17回:安楽の技術ー罨法(講義:早川)</p> <p>第18回:静脈血採血の練習(演習:*)</p> <p>第19回:静脈血採血の技術確認(演習:*)</p> <p>第20・21回:創傷管理(創傷処置、包帯法)および褥瘡ケア(講義:早川)</p> <p>第22回~29回:事例の展開(講義:炭谷・有村、シミュレーション演習:*)</p> <p>第30回:まとめ(講義:炭谷)</p> <p>*:炭谷正太郎、榎原理恵、佐久間佐織、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、夏目麻里 他</p>

アクティブ ラーニング	本授業はディスカッション、グループワーク、シミュレーション教育を取り入れて実施します。				
授業内の ICT 活用	講義では、WebClass を使用してミニテストを行います。				
評価方法	定期試験 50%、課題提出物 20%、ミニテスト10%、技術確認 20%、計 100%				
課題に対する フィード バック	講義内容等の質問の回答を WebClass もしくは次の講義・演習内にて行います。 演習の最後に担当教員から講評します。				
指定図書	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2022。 任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2022。 三上れつ・小松万喜子編集：看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント（改訂第2版）臨床実践能力を高める、南江堂、2021。				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
参考図書	授業中に随時連絡				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
事前・ 事後学修	受講前には1時限あたり20分程度、関連知識の予習を必ず行って下さい。また、学修した知識は次回を受講に活用できるよう1時限あたり20分程度、事後学修して下さい。 講義の前にテキストの該当箇所を読み学修して下さい。ミニテストは第1、2、6、13、17回で実施します。 演習前に配付資料を基に事前課題に取り組んでください。看護技術の修得には繰り返し実施することが必要です。学修計画を立て、セルフトレーニングをしてください。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	ナーシングスキル： https://nursingskills.jp/ , エルゼビアジャパン				
オフィス アワー	炭谷正太郎：1610 研究室 syoutarou-s@seirei.ac.jp 月曜日 11時～13時ですが、予約は不要です。この時間以外でも、在室していればいつでも訪問してください。会議などで不在になる場合がありますが、メールなどでご連絡いただければ調整します。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	2 教室間の遠隔授業が基本です。 担当教員【炭谷正太郎】【樫原理恵】【佐久間佐織】【田口実里】【吉里心希】【早川ゆかり】【有村優範】【夏目麻里】が各教室に分かれて授業を進行します。				

科目名	地域在宅看護学概論 I	
科目責任者	山村 江美子	
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	地域で暮らす人々が、看護の対象であることを理解する科目である。 様々な年代、様々な健康レベルの人々が暮らす地域・暮らしの場を理解し、地域に暮らす人々を支える看護について学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象を、地域で暮らす人々として捉え、その多様性を理解し説明することができる。 2. 地域で暮らす人々の「健康」について理解し、自分の考えを説明することができる。 3. 地域で暮らす人々に関わる看護職の実践の場が、多様であることを理解する。 4. 暮らしの場で提供される看護の 1 つである、訪問看護の実際を理解することができる。 5. 地域で暮らす人々を支える地域在宅看護について、1 年次における自身の考えを説明することができる。 	
授業計画	第 1 回：暮らしの基盤である地域を理解する ・地域とは：エリアとコミュニティ ・地域に暮らす人々に関わる看護職 ・看護職の倫理綱領 日本看護協会 ・事例学修：事例の住む地域を図式化してみよう	山村江美子
	第 2 回：人々の暮らしの理解 ・暮らしとは何か、暮らしを取り巻く環境 ・人口、世帯の変化	山村江美子
	第 3 回：地域在宅看護の対象 ・地域による多様性 ・ライフステージによる多様性 ・健康レベルの多様性 ・地域在宅看護における家族の理解	山村江美子
	第 4 回：暮らしを支える地域在宅看護 ・医療モデルから生活モデルへ ・地域で暮らす人々に関わる看護の実際場の多様性 ・多様なニーズに対応する看護 ・地域における家族への看護 ・看護師に求められる態度・知識・姿勢	山村江美子
	第 5 回：地域で暮らす人々の健康を考える ・健康の定義、健康に関する法的根拠 ・障害の定義 ・健康増進に向けた看護の役割 ・事例を通して：健康・安全に生活を続けるために必要なこと	檜原理恵
	第 6 回：暮らしの場で提供される看護の実際 シヨン所長 ・地域在宅看護を担う看護職の 1 つである、訪問看護師の役割と実際	訪問看護ステー
	第 7 回：地域で暮らす人々・環境を可視化しよう ・個人ワーク（事前課題）について他者との共有	山村江美子
	第 8 回：さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし ・住まいで提供される看護 ・医療機関で提供される看護 ・施設サービスで提供される看護	山村江美子

アクティブ ラーニング	第7回の授業では、事前学修として調べてきたことを学生間で共有を行い、ディスカッションを行います。地域において健康をサポートする施設を把握し、健康を維持しながら生活するということを学修します。			
授業内の ICT活用	リアクションペーパー、課題レポートの提出は、Web Class を使用して行います。講義時間内に、各自のPCを使用して探索的に課題を実施していきます。			
評価方法	課題レポート80%、リアクションペーパー20%			
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーにおいて対応が必要な内容へのフィードバックは、次回の講義の中で説明します。			
指定図書	系統看護学講座 専門分野 「地域・在宅看護の基盤」 地域・在宅看護論1 医学書院			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第6版	河原 加代子	医学書院		9784260046893
参考図書	授業の中で説明します。			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	事前事後学修については、講義時間内に説明し提示します。リアクションペーパー記述時には、事後学修を行ってから取り組んでください。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	講義後の休憩時間に研究室で待機します。その後は、実習指導のため実習施設へ移動することがあります。メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 山村江美子 3412 研究室：emiko-y@seirei.ac.jp、櫻原理恵 1616 研究室：rie-k@seirei.ac.jp			
実務経験に 関する記述	本科目担当の山村は、「看護師・保健師」の実務経験を有します。実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について				

科目名	地域在宅看護学概論Ⅱ	
科目責任者	山村 江美子	
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	人々の暮らしを支える地域在宅看護における療養移行支援、在宅療養、かかわる法制度について理解し、在宅療養者とその家族を支える訪問看護について学ぶ。地域在宅看護は、地域で暮らす人々の健康レベル・ライフステージに合わせて、多様な実践の場において看護が提供されていることを理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域在宅看護における在宅療養者と家族を支える訪問看護の目的と機能、その特徴について説明できる 2. 地域在宅看護にかかわる法制度と、訪問看護制度とその機能を説明できる 3. 地域在宅看護の基本となるケアマネジメントや、多職種連携について理解し説明できる 4. 地域在宅看護における意思決定支援と倫理的課題を理解し説明することができる 5. 地域で暮らす人々を支える地域在宅看護について、自分の考えを説明できる 	
授業計画	<p>第1回：地域在宅看護における時期別の看護 ・療養移行支援の意義、目的、療養移行支援のプロセス ・在宅療養について ・在宅療養者と家族を支える訪問看護の目的・機能・特徴 ・暮らしの場で看護を行うための心構え</p> <p>第2回：地域在宅看護にかかわる制度とその活用① ・医療保険制度、介護保険制度 ・地域在宅看護にかかわる医療提供体制</p> <p>第3回：地域在宅看護にかかわる制度とその活用② ・訪問看護の制度と機能 ・訪問看護に関する制度（医療保険、介護保険、公費負担制度） ・訪問看護ステーション（仕組み、運営、個人情報保護）</p> <p>第4回：地域在宅看護における訪問看護師の実践と多職種連携 ・訪問看護の実際 ・多職種連携、支援のネットワークづくり</p> <p>第5回：地域在宅看護におけるケアマネジメント ・ケアマネジメントの定義と目的 ・多様な場における地域在宅看護マネジメント ・介護保険制度における地域在宅ケアマネジメント・介護支援専門員の業務</p> <p>第6回：地域在宅看護支援の特徴 意思決定支援と倫理的課題</p> <p>第7回：地域在宅看護における看護過程 ・地域在宅看護における看護過程の基本 ・地域在宅看護過程の特徴 ・看護過程の展開に必要な枠組み</p> <p>第8回：地域在宅看護における安全をまもる看護 ・地域での暮らしにおけるリスクの理解 ・地域での暮らしにおける災害対策</p>	<p>山村江美子</p> <p>小池武嗣</p> <p>山村江美子</p> <p>訪問看護師</p> <p>岩瀬美保</p> <p>酒井昌子</p> <p>山村江美子</p> <p>山村江美子</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、学生間のディスカッション等を取り入れて実施します。				
授業内の ICT 活用	Web Class を利用して、リアクションペーパーの提出等を行います。				
評価方法	定期試験 80%、リアクションペーパー 20%、計 100%				
課題に対する フィード バック	事前事後学習およびリアクションペーパーにおいて、必要な内容について次回の講義の中で説明します。				
指定図書	系統看護学講座 専門分野 「地域・在宅看護の実践」 地域・在宅看護論 2 医学書院				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第 6 版	河原 加代子	医学書院		9784260047142
参考図書	授業の中で説明します。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	授業後に Web Class に掲載したリアクションペーパーの内容について、事後学修を実施して復習を行うこと（各 40 分 8 回）。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	講義終了後の休憩時間に研究室に待機します。臨地実習指導の実習施設へ移動することが多くなるのでメールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 山村江美子（3412 研究室） emiko-y@seirei.ac.jp、酒井昌子（3410 研究室） masako-s@seirei.ac.jp、小池武嗣（1607 研究室） takeshi-k@seirei.ac.jp、岩瀬美保（3413 研究室） miho-i@seirei.ac.jp				
実務経験に 関する記述	本科目は「地域・在宅看護、臨床看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について					

科目名	地域包括ケア看護論
科目責任者	酒井 昌子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるようにするための地域包括ケアシステムについて、その概念や実際の生活・支援について学び、地域に暮らす生活者の視点から看護の役割・機能について考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムの概念や基本的な考えを理解できる。 2. 健康上のニーズを抱えながら地域で暮らす人々における多様な生活を理解できる。 3. 住み慣れた地域で今後も自分らしく暮らし続けるための自助・互助・共助・公助について理解できる。 4. 今後も地域で暮らし続けることを希望する事例について、生活者の視点から地域包括ケアについての理解を深め、その中での看護の役割・機能について考えることができる。
授業計画	<p><担当教員名>酒井昌子、宮谷 恵、小平朋江、黒野智子、岩瀬美保、河野貴大、加藤貴子</p> <p>第1回：科目オリエンテーション 地域包括ケアシステムのとは <酒井></p> <p>第2回：地域で暮らす人々の多様な生活① (健康課題を持つ成人) <岩瀬・河野></p> <p>第3回：地域で暮らす人々の多様な生活② (妊産婦・障がい児) <黒野・宮谷></p> <p>第4回：地域で暮らす人々の多様な生活③ (精神障がい者・認知症高齢者) <小平・加藤></p> <p>第5回：地域で暮らす人々の多様な生活④ (地域共生社会) <酒井></p> <p>第6回：地域包括ケアの実際 ① ゲストスピーカー 池谷直士 ・身体障害を抱えながらの生活・社会活動について</p> <p>第7回：地域包括ケアの実際 ② ゲストスピーカー 滝川八千代 ・高次脳機能障害を抱えながらの生活・家族支援について</p> <p>第8回：地域包括ケアの実際 ③ ゲストスピーカー 久保田 翠 ・知的障がい者自立支援について</p> <p>第9回：地域包括ケアにおける事例学習 (PBL) <担当教員全員> ・オリエンテーション (PBLによる事例学習のすすめ方) ・中間テスト</p> <p>第10・11回：地域包括ケアにおける事例学習 (PBL) ①② <担当教員全員> ・事例の生活の理解1 ・事例の生活の理解2</p> <p>第12・13回：地域包括ケアにおける事例学習 (PBL) ③④ <担当教員全員> ・支援についての理解1 ・支援についての理解2</p> <p>第14回：地域包括ケアにおける事例学習 (PBL) ⑤ 学びの発表 <担当教員全員></p> <p>第15回：地域包括ケアシステムにおける看護の機能と役割 ゲストスピーカー ケアマネジャー ・まとめ <担当教員全員></p>
アクティブラーニング	本授業は、ディスカッションやPBLによる課題解決学習を取り入れて実施します。
授業内のICT活用	WebClass を用いて、投票や質問・疑問への回答など双方向で授業を行います。 地域包括ケアにおける事例学習 (PBL) では ICT を活用して自ら課題への学習を進めたり、グループの事例学習の共有をします。
評価方法	第1～5回授業の事後提出物 20%、第6～8回、15回のゲストスピーカーによる講義の小レポート 20%、

	第10～14回PBLへの取り組みと最終レポート50%、中間テスト10%、地域包括ケアにおける事例学習(PBL)および小レポートは、ルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します(WebClassに掲載)。				
課題に対するフィードバック	毎回の授業での質問については、WebClass 掲示板への記載や次回授業で全体に対して回答します。また資料等も随時WebClass にアップします。 PBLにおいては、各グループの担当教員がその都度、質問に対応します。事例学習の発表においても講評を述べ、全体にフィードバックします。				
指定図書	地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第6版：河原加代子、医学書院(2022)。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第6版	河原 加代子	医学書院		9784260046893
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> よくわかる社会福祉士 第11版：ミネルヴァ書房。(社会福祉概論 指定図書) 標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論【第5版】：医学書院(公衆衛生看護概論 指定図書) 保健学講座 5 保健医療福祉行政論：野村陽子・加藤典子 編集，メジカルフレンド社(保健医療行政論 指定図書) 国民の福祉と介護の動向 2022/2023 厚生統計協会(保健医療行政論 参考図書) 国民衛生の動向 2022/2023 厚生統計協会(保健医療行政論 参考図書) 				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	よくわかる社会福祉 [第11版]	山縣 文治	ミネルヴァ書房		9784623076765
	【第5版】標準保健師 講座 1 公衆衛生看 護学概論	・	医学書院	2019	9784260035606
事前・事後学修	<p>【1～5回目の授業】</p> <p>事前学修内容を、WebClass タイムラインに提示するので各自取り組んで授業に臨んでください。関連する科目として、1年次の地域在宅看護学概論Ⅰ、家族関係論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学実習Ⅰ、2年次春semesterに同時進行する社会福祉概論、保健医療行政論の学修が役立ちます。各科目の講義資料、テキストを参考にしてください。事後学修は、配布資料等を見直し、わからなかったことを調べて学びを定着させて下さい。また、第1回の授業で提示した「基本用語学習」について、各自、課題に取り組むよう</p>				
オープンエデュケーションの活用	事前事後学修やグループ学習の教材として厚生労働省、浜松市、日本看護協会等の公的機関のホームページ、ゲストスピーカーが紹介された活動に関するURLを紹介します。				
オフィスアワー	<p>詳細は初回授業時に提示します。実習や会議により変更の可能性もあるため、事前にe-mailで連絡してください。</p> <p>科目責任者：酒井昌子(看護学部・在宅看護学) 3410 研究室：masako-s@seirei.ac.jp (月曜12-13時は比較的在室)</p> <p>科目担当者：</p> <p>宮谷 恵(看護学部・小児看護学) 1713 研究室：megumi-m@seirei.ac.jp</p> <p>黒野智子(看護学部・母性看護学) 1709 研究室：tomoko-k@seirei.ac.jp</p> <p>小平朋江(看護学部・精神看護学) 3401 研</p>				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師・保健師・助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	10～14回のグループ学習は3教室間で同時双方向型メディア授業を行います。				

科目名	地域在宅看護援助論	
科目責任者	小池 武嗣	
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 5・6 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	地域に暮らす「生活者」を支える看護の特性を理解するために、地域における様々な場において提供される看護を具体的に学ぶ。暮らしを支える看護技術を学び、事例演習を通して地域在宅看護過程の展開を理解する。地域在宅看護の対象である、生活者とその家族のセルフケア機能が発揮される看護援助のあり方を学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護過程の展開方法を学び、生活の場ならではの視点を理解し、説明することができる。 2. 生活の場における看護実践の特性と、訪問看護技術を理解し、説明することができる。 3. 療養者・家族の健康段階にあわせた看護職の支援のあり方と役割について理解し、説明することができる。 	
授業計画	<p>第 1 回：オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護における看護過程の特徴と展開方法 ・看護過程の展開に必要な枠組み (ICF、家族看護) ・情報収集とアセスメント <p>第 2 回：地域在宅看護における安全をまもる看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療養者の暮らしを取り巻くリスク ・暮らしの安全を確保するための方法 ・地域在宅看護実践におけるリスクマネジメント <p>第 3 回：在宅における基本的な生活行動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境を整える (住環境・生活行動) ・基本的ニーズの充足を支援する (食事、移動、排泄、清潔、睡眠 (休息)) ・楽しみをみつける・QOL を支える ・介護予防が必要な療養者の看護 (廃用症候群、褥瘡、脱水) <p>第 4 回：医療処置管理が必要な療養者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服薬管理・栄養管理・排泄ケア・呼吸管理 <p>第 5 回：慢性疾患を抱える在宅療養者のセルフケアを支える看護</p> <p>第 6 回：在宅における難病療養者への看護</p> <p>難病とは</p> <p>難病患者の特徴、制度、</p> <p>難病患者の支援のポイント</p> <p>事例) ALS</p> <p>第 7 回：医療的ケア児の看護</p> <p>第 8 回：エンド・オブ・ライフケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンド・オブ・ライフケアの概念 ・エンド・オブ・ライフケアの看護の原則 (または看護 (援助) のポイント, アプローチ) ・がん療養者のエンド・オブ・ライフケア ・非がん療養者のエンド・オブ・ライフケア ・事例) がんのターミナル期を自宅で過ごした〇さん 	<p>小池</p> <p>岩瀬</p> <p>小池</p> <p>小池</p> <p>小池</p> <p>岩瀬</p> <p>山村</p> <p>宮谷</p> <p>酒井</p>

アクティブ ラーニング	講義において積極的に事例を活用し、学生間のディスカッションを行います。ノートパソコンの持ち込みを認め、分からないこと等はその場で探求することも促します。				
授業内の ICT 活用	リアクションペーパーの提出は、Web Class を使用して行います。講義終了後の小テストも、Web Class を使用します。				
評価方法	◆各講義 小テスト 70% ◆リアクションペーパー30%				
課題に対する フィード バック	事前事後学修およびリアクションペーパーにおいて、対応が必要な内容へのフィードバックについては、次回の講義の中で説明します。				
指定図書	系統看護学講座 専門分野 「地域・在宅看護の実践」 地域・在宅看護論2 医学書院				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第6版	河原 加代子	医学書院		9784260047142
参考図書	授業中に随時提示します。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	講義後に webClass 内の事後学修 (小テスト) に取り組んでください。リアクションペーパーも、しっかり記述して事後学修に活かしましょう。(事前・事後学修 40 分程度になります)。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	講義・事例演習終了後の休憩時間に研究室で待機します。その後は実習指導のため実習施設へ移動することが多くあります。メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 小池 武嗣 (1214 研究室) : takeshi-k@seirei.ac.jp				
実務経験に 関する記述	本科目は「地域・在宅」看護の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	地域在宅看護援助論演習
科目責任者	岩瀬 美保
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。
科目概要	<p>本科目は、既習学修内容を基盤に、地域在宅看護援助論と連動して進められ、地域在宅看護学実習に繋がる科目です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域在宅看護学の既習した知識を統合し、在宅看護の実際に基づき、地域在宅看護に必要な知識・技術について演習を通して学修します。 ・地域在宅看護における看護過程の特徴を踏まえ、紙上事例を通し、情報収集・アセスメント・計画立案・実施評価の一連の流れを学修します。 ・シミュレーションを用いて事例に基づき生活の場で必要となる生活援助、医療的ケア、コミュニケーション、訪問マナーなど具体的な技術を学修します。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の展開において、多角的な視点から療養者とその家族をアセスメントすることができる 2. 看護過程の展開において、療養者や家族の望む生活を考慮した看護問題の優先順位を考慮することができる 3. 看護過程の展開において、療養者やその家族の生き方や将来への展望を理解し、強みをいかした目標を設定できる 4. 在宅での看護技術の特徴を理解し、在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を実践できる 5. 訪問看護のマナーを理解し、実習に必要な作法・コミュニケーション方法を身に付けること
授業計画	<p>【授業内容】 【担当教員】</p> <p>【演習室・看護過程の展開】 岩瀬・酒井・山村・小池 全15回担当</p> <p>第1回：事例演習オリエンテーション、看護過程の展開 ・5人のグループ編成 ・事例の提示(COPD)</p> <p>第2回：看護過程の展開① グループワーク</p> <p>第3回：看護過程の展開① グループワーク 事例について情報収集、課題整理、優先順位の決定</p> <p>第4回：看護過程の展開① グループワーク 小テスト1回目</p> <p>第5回：看護過程の展開② グループワーク 計画立案 目標設定、具体策の検討</p> <p>第6回：看護過程の展開② グループワーク 「看護過程の展開」グループ発表の準備</p> <p>第7回：看護過程の展開③ グループワークによる事例展開のまとめ・発表・ディスカッション</p> <p>第8回：看護過程の展開③ グループでの学び、個人の学びのまとめ 小テスト2回目</p> <p>【実習室においてシミュレーション演習】</p> <p>第9回：看護過程の展開をした事例で、必要となる看護技術を交え、各グループでロールプレイを実施</p> <p>第10回：在宅酸素使用中の療養者の看護</p> <p>第11回：コミュニケーション技術（正確な情報を導き出すためのコミュニケーション）意思決定支援など</p>

	第12回：デブリーフィング・学生間共有・まとめ 小テスト3回目 第13回：実習に即した実践演習 訪問マナー、コミュニケーションなどの実践 第14回：同上 第15回：総括・まとめ及び実習にむけての準備（実習目標の明確化）など			
アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション・グループワーク・シミュレーションを取り入れ実施します。			
授業内の ICT活用	ICTを利用してディスカッションおよびプレゼンテーションを行うことがあります。 Web class を利用し、出席管理および提出物管理をします。			
評価方法	在宅看護過程演習レポート 40%、リアクションペーパー10%、演習への参加姿勢・取り組み態度 20%、小テスト3回 30% グループワークによるアクティブラーニングはルーブリックを用いて評価します。 小テストは3回実施します。 ルーブリックは初回授業時に提示します。			
課題に対する フィード バック	看護過程レポートは、担当教員が内容を確認し、提出物へのコメント及び演習中の解説により フィードバック します。 授業へ寄せられた質問は Web class やメールを用いて回答します。			
指定図書	河原加代子著書代表（2022）系統看護学講座、専門分野、地域・在宅看護論 1.2、医学書院			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第6版	河原 加代子	医学書院		9784260047142
地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第6版	河原 加代子	医学書院		9784260046893
参考図書	演習内に随時提示します			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
強みと弱みからみた 地 域・在宅看護過程 第2 版	河野 あゆみ	医学書院		9784260050821
事前・ 事後学修	事前学修 訪問看護の実際、マナー、コミュニケーションに関する映像の視聴 在宅看護援助論の内容の復習 在宅看護学実習目標を記載してから演習にのぞむようにしましょう。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	科目責任者：岩瀬美保（3413 研究室） miho-i@seirei.ac.jp 学外での実習指導に従事して いることが多いため、メールでの連絡をお願い致します。 酒井昌子（3410 研究室）：masako-s@seirei.ac.jp 山村江美子（3412 研究室）：emiko-y@seirei.ac.jp 小池武嗣（1607 研究室）：takeshi-k@seirei.ac.jp			
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について	なし			

科目名	成人看護学概論
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	成人期の特徴をふまえ、家庭や職場・地域社会でさまざまな役割をもつ人々の生活および健康、健康障害に対する理解を深め、成人期にある人々を支援する看護について学修する。 また、見病期、急性期、慢性期、終末期という連続する健康レベルごとに、成人の身体的、心理的な反応について解剖学・生理学・疾病・治療学などと関連付けて理解を深める。急性期・慢性期を中心とした健康レベルごとに代表的な疾患を取り上げ、成人に及ぼされる影響・特徴的な看護問題と援助について学ぶ。
到達目標	1. 成人期にある人々の成長・発達過程および各期の特徴、発達課題を説明できる。 2. 成人期に生じやすい健康問題を人々の生活習慣と関連づけて説明できる。 3. 成人期の人々の心身の反応と健康や健康問題に対する看護の特徴について概念を用いて説明できる。 4. 健康レベルごとに成人の身体的、心理的反応について解剖学・生理学、疾病・治療学などと結びつけて説明し、成人に及ぼされる影響と、特徴的な看護問題と援助について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>【成人期の特徴と今日の社会】</p> <p>第1回：科目オリエンテーション／成人看護学の構成 成人の発達、成人の特徴 大石ふみ子 第2回：・成人を取り巻く社会環境と成人の生活 藤浪千種 ・成人の健康の動向と特徴的健康問題、保健・医療・福祉政策 ・成人を取り巻く社会環境と成人の生活</p> <p>【健康問題をもつ成人に係る際の視点・理論】</p> <p>第3回：患者・家族の意思決定を支える 大石ふみ子 第4回：健康の危機状態への適応 大石ふみ子 第5回：病みの軌跡・ケアリング 和田由樹 第6回：健康行動への行動変容 和田由樹</p> <p>【重篤な健康レベルにある人へのケア】</p> <p>第7回：侵襲的治療を受ける患者の生体反応・心理反応 藤浪千種 第8回：術前・術中看護 藤浪千種 第9回：術後看護① 術直後から急性期における看護 乾 友紀 第10回：術後看護② 回復期から社会復帰における看護 乾 友紀</p> <p>【慢性的な病とともに生きる人へのケア】</p> <p>第11回：慢性疾患を有する人への看護① セルフケアとセルフマネジメント 和田由樹 第12回：慢性疾患を有する人への看護② セルフマネジメント能力を高める看護 和田由樹 第13回：慢性疾患を有する人への看護③ 慢性疾患を有する人への心理的ケア 水島史乃</p> <p>【がん看護】</p> <p>第14回：がん疾患とがん治療の特徴：集学的治療 大石ふみ子 第15回：がん集学的治療を受ける人への看護 水島史乃</p>

アクティブ ラーニング	なし			
授業内の ICT 活用	出席確認、リアクションペーパー提出、および小テストはWeb Class を活用する。			
評価方法	定期試験 85%，リアクションペーパー15%で評価する。 授業過程における提出物不備（リアクションペーパー含む）や提出期限が遅れた場合、減点されます。			
課題に対する フィード バック	事前課題や授業中の提出物について、講義の中で解説します。意見や疑問は、適宜、授業中やリアクションペーパーで受け、授業中の解説やWebclass 上でフィードバックしていきます。 定期試験に関しては、試験結果公表後に個別に質問を受け付けます。			
指定図書	・鎌倉やよい、深田順子：周術期の臨床判断を磨く I 第2版，医学書院 その他は下記参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
成人看護学1 成人看護学概論・成人保健 7版	黒江 ゆり子	メヂカルフレンド社	2021	9784839233846
成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期看護 (改訂第4版)	林直子	南江堂	2023	9784524232314
成人看護学 慢性期看護 (改訂第4版)	鈴木久美	南江堂	2023	9784524234363
参考図書	なし			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	既習の生涯発達心理学や解剖学、生理学、代謝栄養等の授業内容を復習し、よく理解した上で授業に臨んで下さい。 予習として指定された教科書のページを読んでくること（約20分）、授業後には、学修した内容を成人期にある自分自身や家族の状況と照らし合わせ、講義で学んだことを具体的なイメージとして理解しながら授業内容のノートを整理（約25分）してその後の学修や実習で活かせるような学修を習慣としてください。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。 大石ふみ子：1219 研究室：fumiko-o@seirei.ac.jp 藤浪 千種：1208 研究室：chigusa-f@seirei.ac.jp 和田 由樹： 乾 友紀：1217 研究室：yuki-i@seirei.ac.jp 水島 史乃：			
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について	対面授業を原則とします。			

科目名	急性期看護援助論		
科目責任者	藤浪 千種		
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 5・6 セメスター		
DP 番号と科目領域	DP2 専門		
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。		
科目概要	手術療法が対象にもたらす身体・心理・社会的影響を理解し、周術期にある対象の予防的な看護や回復を促進する看護を学修する。また、集中治療を受ける患者や救急治療を受ける患者への看護を学修する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法（手術療法を中心とした集学的治療を含む）が対象にもたらす身体・心理・社会的影響が説明できる。 2. 手術療法をうける患者の生命維持、合併症予防、回復促進、生活を再構築するために必要な看護が説明できる。 3. 患者を支える医療チームやシステム、地域の多様な資源を活かした継続看護が説明できる。 4. 集中治療を受ける患者、救急治療を受ける患者の看護が説明できる。 		
授業計画	<p>【授業回】</p> <p>第1回 手術を受ける患者の看護①</p> <p>第2回 手術を受ける患者の看護②</p> <p>第3回 手術を受ける患者の看護③</p> <p>第4回 手術を受ける患者の看護④</p> <p>第5回 手術を受ける患者の看護⑤</p> <p>第6回 手術を受ける患者の看護⑥</p> <p>第7回 手術を受ける患者の看護⑦</p> <p>第8回 救急医療・救急看護、救命救急処置と生命維持</p>	<p>【授業内容】</p> <p>排泄機能の再確立（大腸・腎臓・前立腺）</p> <p>排泄機能の再確立（大腸、腎臓、前立腺）</p> <p>摂取機能の再確立（食道、胃、肝臓、膵臓）</p> <p>摂取機能の再確立（食道、胃、肝臓、膵臓）</p> <p>呼吸機能の再確立（肺、縦隔）、集中治療</p> <p>生殖機能の再確立（乳房、子宮、卵巣）</p> <p>運動機能の再確立（脊椎、股関節、膝関節）</p>	<p>【担当者】</p> <p>寺田康祐</p> <p>寺田康祐</p> <p>藤浪千種</p> <p>藤浪千種</p> <p>氏原恵子</p> <p>氏原恵子</p> <p>乾 友紀</p> <p>乾 友紀</p>

アクティブ ラーニング	ICT 機器を用いて、授業内の質問への対応や学生・教員間の情報共有・意見交換を行います。				
授業内の ICT 活用	ICT 機器を用いて、授業内での理解度確認や意見交換を行う双方向型授業を実施します。				
評価方法	評価は各授業で提出するリアクションシート (40%) と事後テスト (60%) で行います。				
課題に対する フィード バック	授業に関する質問・意見には、授業内または Webclass で回答します。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期看護 (改訂第4版)	林直子	南江堂	2023	9784524232314
	成人看護学 急性期看護 II クリティカルケア	佐藤まゆみ	南江堂	2023	9784524232888
参考図書	・鎌倉やよい, 深田順子: 周術期の臨床判断を磨く I 第2版, 医学書院 その他は下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	成人看護学 成人看護技 術 [Web 動画付] (改訂 第3版)	野崎真奈美	南江堂	2022	9784524229543
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】(各授業回 30 分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 『事前学修課題』を Webclass に掲載します。事前課題に取り組み講義に参加してください。 <p>【事後学修】(各授業回 30 分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容を再確認し理解が不十分な点を再学修してください 教科書の章やテーマの最後に提示されている「練習問題」に取り組みましょう。 教科書内の引用文献を調べたり、各自の課題や興味関心に沿った学修を主体的に行いましょう。 				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>事前事後学修として以下のオンライン教材を活用してください。</p> <p>①ビジュランクラウド (医学映像教育センター) https://seirei.visualearn.jp/p/php/login.php</p> <p>②成人看護学 成人看護技術, 南江堂 の Web 動画</p>				
オフィス アワー	<p>会議・実習など不在の場合がありますので、メールで事前に連絡をください。</p> <p>藤浪千種: chigusa-f@seirei.ac.jp (1208 研究室) 乾友紀: yuki-i@seirei.ac.jp (1217 研究室) 氏原恵子: keiko-u@seirei.ac.jp (1210 研究室) 寺田康祐: kousuke-t@seirei.ac.jp (1608 研究室)</p>				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	急性期看護援助論演習
科目責任者	乾 友紀
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。
科目概要	急性期にある患者（特に周術期）とその家族の特徴を理解したうえで、急性期における紙上事例を活用し、看護過程を展開する方法およびその看護実践についてアクティブラーニングやシミュレーションを活用した方法を中心に学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法を受ける患者とその家族の特徴を理解し、説明できる。 2. 周術期における紙上事例から系統的に情報収集し、情報の解釈・分析・統合によって看護上の問題を導くことができる。 3. 患者の個別性を踏まえた重点的なアセスメントから看護上の問題を明確化できる。 4. 看護上の問題を解決するための個別的で具体的な看護計画を立案できる。 5. 急性期場面における患者の看護問題に基づき、個別性を踏まえた必要な看護援助が実践できる。
授業計画	<p>担当教員：乾友紀、大石ふみ子、藤浪千種、氏原恵子、寺田康祐</p> <p>第1回 オリエンテーション、【講義】看護過程について（データベース、系統的アセスメント、関連図）</p> <p>第2回 【協働学修】情報の整理・解釈・統合（系統的アセスメント）</p> <p>第3回 【協働学修】関連図の作成、看護問題の抽出</p> <p>第4回 【講義】看護過程について （重点アセスメント、看護問題の優先順位、看護計画の立案）</p> <p>第5回 【協働学修】重点アセスメント</p> <p>第6回 【協働学修】看護計画の立案</p> <p>第7・8回 【シミュレーション演習①】術前オリエンテーション・術前訓練</p> <p>第9・10回 【シミュレーション演習②】術後の観察</p> <p>第11・12回 【協働学修】観察結果に基づくアセスメント、経過記録</p> <p>第13・14回 【シミュレーション演習③】離床への援助</p> <p>第15回 まとめ</p>
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の授業内容はアクティブラーニングやシミュレーションが中心であり、積極的な学修姿勢が求められます。 ・課題は授業の進行に伴い、適宜提示されます。各自に与えられた課題を十分に学修する必要があります。 ・適宜、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れて実施します。
授業内のICT活用	ICT 機器を利用した意見交換や発表を行うことがあります。具体的な方法は授業でお知らせします。
評価方法	<p>授業への参加度 20%、看護過程演習レポート 40%、シミュレーション課題・振り返りレポート 30%、事前学修課題（ワークブック）10%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての項目はルーブリックにより評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・寄せられた質問は授業中に解説を行うほか、適宜 WebClass やメールを用いて回答します。

指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉やよい, 深田順子: 周術期の臨床判断を磨く I 第2版, 医学書院 その他は下記参照 			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期看護 (改訂第4版)	林直子	南江堂	2023	9784524232314
成人看護学 成人看護技術 [Web 動画付] (改訂第3版)	野崎真奈美	南江堂	2022	9784524229543
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・三上れつ: 第2版実践に役立つ看護過程と看護診断, スーヴエルビカリ ・ナーシンググラフィカ EX シリーズ (呼吸器、循環器、消化器、運動器、腎/泌尿器/内分泌・代謝、女性生殖器) など メディカ出版 その他は下記参照 			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第19版	茂野 香おる	医学書院		9784260049924
エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 改訂版	阿部 俊子 監修	中央法規出版	2014	9784805839607
周術期看護げんぶガイド 急性期実習に使える! 必要な知識アセスメント技術 オールカラー	北島泰子/著 中村充浩/著	照林社	2020	9784796524988
成人看護学 急性期看護 II 救急看護・クリティカルケア改訂第3版	佐藤 まゆみ 編集	南江堂	2019	9784524241644
事前・事後学修	<p>本科目は、成人看護学概論、急性期看護援助論の学修内容を前提とし、次の急性期看護学実習とも連動する非常に重要な科目です。また、1・2年次に学修してきた知識、技術が基盤となります。看護過程演習にあたっては、事前学修課題を提示します。事例を理解するための知識の学修(4~5時間程度)や2年生で学修した看護過程の復習(2~3時間程度)を授業の進捗に合わせて計画的に取り組んでください。また、成人看護学概論で配布するワークブックを事前学修課題として取り組み、提出してください。その他、必要な事前課題は適宜アナウンスします</p>			
オープンエデュケーションの活用	<p>事前事後学修として以下のオンライン教材を活用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジュランクラウド (医学映像教育センター) https://seirei.visualearn.jp/p/php/login.php ・成人看護学 成人看護技術, 南江堂 のWeb 動画 			
オフィスアワー	<p>会議・実習など不在の場合がありますので、メールで事前に連絡をください。</p> <p>乾友紀: yuki-i@seirei.ac.jp (1217 研究室) 大石ふみ子: fumiko-o@seirei.ac.jp (1219 研究室) 藤浪千種: chigusa-f@seirei.ac.jp (1208 研究室) 氏原恵子: keiko-u@seirei.ac.jp (1210 研究室) 寺田康祐: kousuke-t@seirei.ac.jp (1608 研究室)</p>			
実務経験に関する記述	<p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>			
メディア授業の実施について	<p>対面授業を原則とします。</p>			

科目名	慢性看護援助論
科目責任者	和田 由樹
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	慢性疾患を有する人と家族が、セルフマネジメントを行いながらその人らしい生活を送るための援助の基盤となる、疾患と治療に関する知識および理論・概念を活用した基本的な看護について学修する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・成人慢性看護において重要な慢性疾患の病態・症状・治療と、それにより起こる身体・心理・社会的影響、日常生活上の変化について理解できる。 ・慢性疾患を有する人と家族へのセルフマネジメントを促進する基本的な援助方法について理解できる。 ・慢性疾患を有する人に関わる専門職とチーム医療の重要性について理解できる。
授業計画	<p>第 1 回：科目ガイダンス・導入 慢性疾患の特徴、慢性疾患を有する人と家族の身体・心理・社会的特徴、慢性疾患を有する人や家族への看護 和田由樹</p> <p>第 2 回：脳血管疾患でリハビリテーションを必要とする人への看護 和田由樹</p> <p>第 3 回：内分泌機能障害を有する人と家族への看護 水島史乃</p> <p>第 4 回：腎機能障害を有する人と家族への看護 和田由樹</p> <p>第 5 回：消化器系疾患(肝硬変)を有する人と家族への看護 水島史乃</p> <p>第 6 回：心・血管系障害(心不全)を有する人と家族への看護 和田由樹</p> <p>第 7 回：終末期にある人への看護：肺がんを有する終末期患者と家族への看護 水島史乃</p> <p>第 8 回：緩和ケア 疼痛を有する人への看護 水島史乃</p> <p>《キーワード》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増悪と寛解を繰り返す慢性疾患を有する人と家族への看護 ・進行性の慢性疾患を有する人と家族への看護 ・寛解を目指す慢性疾患を有する人と家族への看護 ・苦痛緩和が必要な患者と家族への看護 ・セルフマネジメント、症状マネジメント、教育的支援、自己効力感、日常生活再構築、

アクティブ ラーニング	講義の中で、ミニグループディスカッションや、問題解決思考を用いた学習を取り入れる。				
授業内の ICT 活用	webclass でのアンケートや、課題提出、出欠管理を取り入れる。				
評価方法	評価方法は、単元での小テスト・レポートで行う。				
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーをはじめとした質問への回答は Web Class を活用しフィードバックする。				
指定図書	以下を参照する				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	成人看護学 慢性期看護 (改訂第4版)	鈴木久美	南江堂	2023	9784524234363
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト，資料 ・生理学Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト，資料 ・疾病・治療学Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト，資料 ・薬理学で使用したテキスト，資料 ・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト，資料 他既習学修テキスト，資料 				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な事前学修については、WEBCLASS に提示します。 ・1 講義につき事前事後学修 40 分以上必要です。 				
オープンエ デュケーシ ョンの活用					
オフィス アワー	<p>和田由樹 水島史乃</p> <p>詳細は初回授業時に提示します。実習や会議により不在の可能性もあるため、事前に単元担当教員に E-mail でご連絡ください。</p>				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	慢性看護援助論演習
科目責任者	山崎 淑恵
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探索し、多面的に考察することができる。
科目概要	慢性疾患を有する人の特徴や対象のセルフマネジメント能力を高めるための看護について理解したうえで、臨床事例を用いた看護過程の展開と治療を受ける患者に対する看護実践をアクティブラーニングやシミュレーションによって学修する。
到達目標	1. 慢性疾患を有する人の看護過程に関わる基本的知識を理解できる。 2. 臨床事例を用いて、ゴードンの 11 機能的健康パターンで看護に必要な情報を系統的に収集・解釈・分析・統合ができる。 3. 対象の情報から解釈・分析・統合をした上で、看護問題を明確化できる。 4. 対象の状況をアセスメントした上で、具体的な看護計画の立案および評価・修正できる。 5. シミュレーション演習を通して、慢性疾患を有する人の治療や療養を支えるための看護技術を理解し、実施できる。
授業計画	第 1 回 オリエンテーション【講義：科目概要・慢性疾患を有する人への看護】 第 2 回 看護過程演習【講義：看護過程・COPD】 第 3・4 回 看護過程演習【系統別アセスメント・関連図・看護問題の抽出】 〈個人演習＋集団演習〉 第 5・6 回 看護過程演習【重点アセスメント・看護問題の明確化】〈個人演習＋集団演習〉 第 7～9 回 看護過程演習【看護計画立案】〈個人演習＋集団演習〉 第 10 回 看護過程演習【看護計画の評価／修正】〈集団演習〉 第 11 回 シミュレーション演習【教育的な関わり方（パートナーシップ構築のための技術）】 第 12 回 看護過程演習まとめ 第 13・14 回 シミュレーション演習【急性増悪をきたした患者観察】 第 15 回 慢性看護援助論演習まとめ
アクティブラーニング	・本科目はアクティブラーニングを取り入れた授業であり、各自に与えられた課題を十分に学修する必要性があります。受講に際して積極的な学修姿勢が求められます。 ・本科目ではディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れて学修を進めます。
授業内の ICT 活用	・ICT を利用してディスカッションおよびプレゼンテーションおよび学びのシェアリングを行うことがあります。具体的な具体的な方法は授業でお知らせします。 ・Web class を利用し、提出物管理や出欠確認をします。
評価方法	・アクティブラーニングへの参加 15%、看護過程演習レポート 65%、シミュレーション演習 10%、課題レポート 10% 〈計 100%〉 ・看護過程演習はルーブリックを用いて評価を行います。ルーブリックは授業内で提示します。
課題に対するフィードバック	・看護過程レポートは、担当教員が内容を確認し、提出物へのコメント等によりフィードバックします。 ・授業へ寄せられた質問は講義で解説を行うほか、適宜 Web class やメールを用いて回答します。

指定図書	下記参照。 (下記指定図書は2年次「成人看護学概論」で購入済み)			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
成人看護学 慢性期看護 (改訂第4版)	鈴木久美	南江堂	2023	9784524234363
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシンググラフィカ EX シリーズ (呼吸器、循環器、血液/アレルギー・膠原病・感染症、消化器、腎/泌尿器/内分泌・代謝、脳・神経など、メディカ出版) ・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②, 医学書院 (購入済) ・ビジュランクラウド(医学映像教育センター) 			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
根拠がわかる疾患別看護過程 (改訂第3版)	新見明子	南江堂	2021	9784524248391
実践に役立つ看護過程と看護診断 ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開 第2版	三上 れつ 著	ヌーヴェルヒロカワ	2001	9784902085549
成人看護学 成人看護技術 [Web 動画付] (改訂第3版)	野崎真奈美	南江堂	2022	9784524229543
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、既習学修内容を基盤に慢性看護援助論と連動して進められ、臨地看護学実習に繋がる非常に重要な科目です。 ・臨床事例を用いた看護過程の協働学修では、初回授業開始前までに事例提示します。 ・授業の進捗に合わせて、事例を理解するための知識の学修(4~5時間程度)や既習学修内容の復習(2~3時間程度)に計画的に取り組んでください。事前学修が不十分な場合は、協働学修・演習に参加できないことがあります。事後学修として、授業で理解が不十分な点の再学修をしてください。 ・他の科目でも課題が出されます。本科目 			
オープンエデュケーションの活用	なし			
オフィスアワー	<p>詳細は初回授業時に提示します。 実習や会議により不在の場合があります。事前に科目責任者の教員にG-mail で事前に連絡ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山崎淑恵： 看護学部 1216 研究室：yoshie-ya@ seirei. ac. jp ・和田由樹： 看護学部 ○○研究室： @seirei. ac. jp ・水島史乃： 看護学部 ○○研究室： @seirei. ac. jp ・河野貴大： 看護学部 1608 研究室：takahiro-k@seirei. ac. jp ・長山有香里 			
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア授業の実施について	なし			

科目名	老年看護学概論	
科目責任者	山田 紀代美	
単位数他	2単位 (30時間) 必修 4セメスター	
DP番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	老年期にある人の特徴を加齢変化から理解し、高齢者及び家族を取り巻く社会の動向や社会問題について知り、老年看護の役割について理解できることを目的とする	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある人の身体・心理・社会的特徴を生涯発達の視点、加齢変化から説明できる 2. 老年期にある人を取り巻く社会背景について述べられる 3. 老年看護の理念、役割、専門性について述べられる 4. 介護保険制度におけるサービスについて理解し、多職種との連携について考えることができる 5. 生活機能を重視した ICF モデルの考え方を学習し、高齢者・家族を対象とした看護過程を展開する為の基本的知識を学ぶ 6. 高齢者の人権と倫理的問題、尊厳について説明できる 	
授業計画	<p>第1回： 老いるということ 山田紀代美</p> <p>第2回： 人口の高齢化現象と課題 内藤智義</p> <p>第3回： 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向 木村暢男</p> <p>第4回： ライフステージとしての老年期の特徴 内藤智義</p> <p>第5回： 加齢変化と身体 (身体の特徴) 内藤智義</p> <p>第6回： 加齢変化と身体 (身体の特徴) 内藤智義</p> <p>第7回： 加齢変化とこころ (知能と記憶 老性自覚 死に対する見方) 山田紀代美</p> <p>第8回： 加齢変化と社会 (役割 経済的基盤 生活パターン) 山田紀代美</p> <p>第9回： 高齢者虐待・拘束 木村暢男</p> <p>第10回： 高齢者の人権と倫理問題 (成年後見制度) 木村暢男</p> <p>第11回： 高齢者との対話からの学びを小グループで意見交換 山田・木村</p> <p>第12回： 高齢者との対話からの学びについてグループ毎に発表 山田・木村</p> <p>第13回： 家族介護の多様化と家族支援 山田紀代美</p> <p>第14回： 介護保険制度とサービス 木村暢男</p> <p>第15回： 高齢者看護に必要な看護概念と理論 (ICFモデルの考えかた) 山田紀代美</p>	

アクティブ ラーニング	<p>1. 講義では、具体的事象を想起しやすいよう授業テーマに関連した時事問題や実習場での一場面を提示し、授業時に学生自身の感想・考えを述べる機会（または課題）を設定します。</p> <p>2. 高齢者を理解するために、学生の身近にいる高齢者にインタビューを行いレポートにまとめます。またその内容をグループ毎に発表し意見交換を行います。</p>				
授業内の ICT 活用	グループワークはGoogle driveを使用する。				
評価方法	定期試験 90% 課題提出物 10%				
課題に対する フィード バック	<p>1. 毎回の授業で、質問・感想・要望・改善点等についてリフレクションペーパーを記述してもらい、質問・要望・改善点について次回以降の授業での回答や対応に努めます。</p> <p>2. インタビューのレポートに対しては、発表会での意見交換時にコメントを述べフィードバックします。</p>				
指定図書	北川公子, 他. 系統看護学講座 専門分野 老年看護学, 医学書院, 2022.				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
老年看護学 第9版	北川 公子	医学書院		9784260031868	
参考図書	なし				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
事前・ 事後学修	<p><事前学習> 事前学習の具体的内容は、シラバスを確認し、テキストの関連部分を読み、概要を予習してください。(約20分)</p> <p><事後学修> 配布資料や教科書の指定ページを確認し授業内容を復習してください。(約20分)</p>				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	山田紀代美：看護学部 研究室：1615 e-mail: kiyomi-y@seirei.ac.jp 木村暢男：看護学部 研究室：2704 e-mail: nobuo-k@seirei.ac.jp 内藤智義：看護学部 研究室：1614 e-mail: tomoyoshi-n@seirei.ac.jp 時間については、各担当教員の授業や会議などで変更の可能性があります、 主に実習終了後の16時30分以降になります。 ※あらかじめメール予約をしてもらえれば確実です。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について					

科目名	老年看護援助論
科目責任者	木村 暢男
単位数他	1単位 (15時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	老年期に特徴的な疾患について学修すると共に、疾患や障害を有している高齢者の生活機能の視点から高齢者に必要な看護を修得する。また、エンド・オブ・ライフケアについて理解し、人生の終焉に向かう高齢者への看護を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期に特徴的な疾患や障害に関する基本的知識が理解できる。 2. 老年期に特徴的な疾患や障害を抱える高齢者への看護方法が理解できる。 3. エンド・オブ・ライフケアを理解し、高齢者のよりよい終末期の在り方を考えることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：高齢者の特徴的疾患と看護：聴覚・視覚・言語機能の低下のある高齢者の看護 (木村暢男)</p> <p>第2回：高齢者の特徴的疾患と看護：脳梗塞・脳出血の看護 (加藤貴子)</p> <p>第3回：高齢者の特徴的疾患と看護：骨折および骨格系疾患の看護 (山田紀代美)</p> <p>第4回：高齢者の特徴的疾患と看護：老人性肺炎・誤嚥性肺炎の看護 (内藤智義)</p> <p>第5回：高齢者の特徴的疾患と看護：神経疾患・高次脳機能障害の看護 (渡邊昌子)</p> <p>第6回：高齢者の特徴的疾患と看護：認知症の看護 (内藤智義)</p> <p>第7回：検査・薬物療法を受ける高齢者の看護 (木村暢男)</p> <p>第8回：高齢者の終末期看護 (エンド・オブ・ライフケア、終末期の看護実践) (渡邊昌子)</p>

アクティブ ラーニング	なし			
授業内の ICT 活用	なし			
評価方法	小テスト結果 90% (毎回の授業の最後に小テストを実施します)、授業への参加状況 10%。ルーブリックでの評価はしない。			
課題に対する フィード バック	小テストの結果等における、学生の皆さんの学習の進捗状況や理解状況に対し、適宜、フィードバックを行っていきます。			
指定図書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 2023			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 2023 「エンド・オブ・ライフを見据えた高齢者看護のキホン 日本看護協会出版会 2015			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	授業の前には、必ず、授業内容に関する教科書の当該箇所を読んでください。授業後は、小テスト結果を見直すと共に、授業内容に関して、教科書の該当箇所を確認しておいてください。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	オフィスアワーは初回授業で提示します。			
実務経験に 関する記述	本科目は、「看護師」の実務経験を有する講師が実務の経験を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について	なし			

科目名	老年看護援助論演習	
科目責任者	内藤 智義	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5・6 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。	
科目概要	<p>高齢者が疾患・障害を持ちながらも、その人らしく生活を営むことができるよう ICF (国際生活機能分類) の生活機能モデルなどから各生活機能の視点で強みをいかす目標志向型思考で課題を抽出する看護過程の展開を学修する。</p> <p>高齢者疑似体験演習・立案した看護計画の実践を通して、高齢者理解を深め高齢者の特徴に合わせた援助技術を習得し、老年看護学実習の準備を整えることができる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期に多くみられる疾患を抱える高齢者とその家族を対象とした日常生活を支える看護が理解できる。 2. 事例を用いて看護過程を展開し、生活機能の視点で強みをいかす目標志向型思考で課題を抽出できる。 3. 介護施設の援助場面を想定し、高齢者の個別性に踏まえた根拠に基づく看護援助を実践できる。 	
授業計画	<p>〈授業内容・テーマ等〉</p> <p>第 1 回：日常生活を支える看護：高齢者とのコミュニケーション (老人性難聴など含む)</p> <p>第 2 回：日常生活を支える看護：水分・食生活 (嚥下障害の援助を含む)</p> <p>第 3 回：日常生活を支える看護：排泄障害 (排尿・排便)</p> <p>第 4 回：日常生活を支える看護：清潔と個人衛生 (ドライスキン・褥瘡含む)</p> <p>第 5 回：日常生活を支える看護：移動と自立への援助 (転倒含む)</p> <p>第 6 回：日常生活を支える看護：活動と休息 (生活のリズム・睡眠障害含む)</p> <p>第 7 回：日常生活を支える看護：認知症看護 (パーソンセンタードケア・ユマニチュード含む)</p> <p>第 8 回：老年看護過程の展開 (事例紹介)</p> <p>第 9 回：事例演習 (情報の整理)</p> <p>第 10 回：事例演習 (情報の分析)</p> <p>第 11 回：事例演習 (課題の明確化)</p> <p>第 12 回：事例演習 (看護計画の立案)</p> <p>第 13 回：高齢者疑似体験・看護計画の実践に向けて自己学習 (演習環境の説明含む)</p> <p>第 14 回：高齢者疑似体験・看護計画の実践 (移動・食事・排泄の援助など)</p> <p>第 15 回：高齢者疑似体験・看護計画の実践 (移動・食事・排泄の援助など)</p>	<p>〈担当教員〉</p> <p>山田紀代美</p> <p>木村暢男 内藤智義</p> <p>山田紀代美 加藤貴子 渡邊昌子 木村暢男</p> <p>内藤智義 内藤智義</p> <p>内藤・山田・渡邊・木村・加藤</p> <p>内藤・山田・渡邊・木村・加藤</p> <p>内藤・山田・渡邊・木村・加藤</p> <p>内藤・山田・渡邊・木村・加藤</p> <p>内藤・山田・渡邊・木村・加藤</p> <p>内藤・山田・渡邊・木村・加藤</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・講義にはディスカッションが含まれます。 ・事例の展開は、個人ワークの後にグループワークを行います。 ・高齢者疑似体験・看護計画の実践は、グループで進めます。演習を実施し、グループで互いにディスカッションをします。 				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・講義ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがあります。 ・講義・演習のリアクションペーパーや事前・事後課題はWebClass を使用します。 				
評価方法	課題提出物 70%、リアクションペーパー 20%、グループワークへの参加状況・態度 10%。 なお、課題提出物やグループワークへの参加状況・態度の評価にはルーブリックを用いません。				
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の課題提出物は、実習担当教員は内容を確認し、コメント等によりフィードバックをします。 ・質問には、次回の授業またはWebClass で回答します 				
指定図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護学」医学書院				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	老年看護学 第9版	北川 公子	医学書院		9784260031868
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・ICFの理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか 上田敏／著 萌文社 ・ウェルネスの視点にもとづく 老年看護過程 第2版 生活機能に焦点をあてたアセスメント 奥宮暁子編著 医歯薬出版 				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	ICFの理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか	上田敏／著	萌文社	2005	9784894910966
	老年看護過程 第2版 生活機能に焦点をあ	奥宮暁子編著	医歯薬出版	2019	9784263237342
事前・ 事後学修	<p><事前学習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的内容は授業ごとにプリントを配布します。主に老年看護学概論や老年看護援助論で学んだ内容です。 ・Web Class で事前課題が出る場合は内容を予習して授業に臨んで下さい。(約20分) <p><事後学修></p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料や教科書の指定ページを確認し授業内容を復習してください。(約20分) 				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	内藤智義：看護学部 研究室：1614 研究室 e-mail：tomoyoshi-n@seirei.ac.jp 会議・実習で不在の場合は、メールで連絡をください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	母性看護学概論
科目責任者	藤本 栄子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	女性の生涯を通じたリプロダクティブ・ヘルスの観点から、母性看護学の対象特性および看護実践を理解するための基盤となる概念、および母性看護の役割と今後の課題について学修する。また、家族計画、性感染症とその予防および看護を中心に、リプロダクティブヘルスケアについて学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「母性・父性・親性」、「親になること」について理解する。 2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツおよび女性の健康における意志決定とセルフケアについて理解できる。 3. セクシュアリティ、性の多様性について理解できる。 4. 母性看護の理念と役割、倫理的看護実践について理解できる。 5. 妊娠・分娩・子育てに伴う女性（胎児・新生児を含む）の身体、心理・社会、日常生活の側面から対象の全体像を捉え、変化とその援助について理解できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員></p> <p>第1回：母性看護とは 藤本栄子</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) 母性とは？父性とは？ 3) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 産むこと・産まないこと・産めないこと（女性の意思決定について考える） 4) 女性の健康とセルフケア <p>第2回：母子関係と家族発達 室加千佳・藤本栄子</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 愛着・母子相互作用と母子関係の形成 2) 親になるとは？ 親子関係 一妊婦さんの体験談から学ぶー <p>第3回：「妊娠期」ってどんな時期？ 神崎江利子</p> <p>第4回：「胎児期～新生児期」ってどんな時期？一児からの視点ー 室加千佳</p> <p>第5回：「産む」ってどんなこと？ 神崎江利子</p> <p>第6回：「産褥期・育児期」ってどんな時期？ 神崎江利子</p> <p>第7回：セクシュアリティー性の自認と性的傾向等について 日高庸晴</p> <p>第8回：親になること及び妊娠期から産褥・育児期（新生児期を含む）までのまとめ (中間確認テスト) 神崎江利子・藤本栄子</p> <p>第9回：人間の性と生殖ー生命の誕生と性の分化について考えるー 村松美恵</p> <p>第10回：セクシュアリティー発達各期の性の特徴・健康障害及び看護ー 村松美恵</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 思春期・青年期の性の特徴と看護 2) 成熟期の性の特徴と看護（不妊の女性の看護を含む） <p>第11回：周産期の異常 成瀬寛夫</p> <p>第12回：ハイリスク新生児ー早産児の特徴ー 杉浦 弘</p> <p>第13回：産褥期の異常 成瀬寛夫</p> <p>第14回：性感染症 黒野智子</p> <p>第15回：「更年期」ってなに？、母性看護のまとめ 黒野智子・藤本栄子</p>

アクティブ ラーニング	事前学修や体験談、事例をもとに、グループ・ディスカッションを行い、全体での意見交換を行います。			
授業内の ICT 活用	個人やグループの意見（発表）をオンライン上で入力し、プロジェクターを用いてスクリーンに表示します。また、教員が作成した視聴覚教材や医学書院 e テキスト、Nursing Skills、ビジュラン等を使用します。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テスト（中間を含む）および定期試験 80%。確認テストは講義時間内に WebClass または紙面にて実施します。 ・事前・事後学修（WebClass 含む）、トピックスレポートへの参加度 20% ・不可の場合は 1 回の再試験をおこないます。 ・演習、レポートで評価しますがルーブリックは使いません。 			
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修に関しては、講義で説明します。 ・学生から質問があれば、時間の講義、または WebClass やリアクションシート等にてフィードバックします。 ・必要事、日程等調整の上、個別の疑問にも対応します。 			
指定図書	下記参照			
	書籍名	著者	出版社	ISBN
	母性看護学[1] 母性看護学概論 第 14 版	森 恵美	医学書院	9784260042253
参考図書	下記参照			
	書籍名	著者	出版社	ISBN
	母性看護学(1)：概論・リプロダクティブヘルスと看護 第2版	中込 さと子	メディカ出版	2022
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修は、WebClass または授業の最後に、次回授業までの課題を提示します。 ・事後学修は、授業の最後または WebClass でその日の授業内容に関する課題などを出題します。（事前学修は 60 分程度、事後学修は 30～40 分程度の時間を要する） ・WebClass の利用や提出の際には、日時制限がありますので、各自で必ず確認するようにしてください（WebClass への掲載や入力は、決められた時間以外にはできません） <p>※詳細は、第 1 回のオリエンテーションで説明します。 ※母性看護学概論のお知らせは we</p>			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>自主学习として、指定図書巻末の動画視聴を勧めます。</p> <p>『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 動画一覧 ナーシング・スキル（日本版） https://www.nursingskills.jp/ ビジュラン https://seirei.visualearn.jp/p/（使用日時を厳守のこと）</p>			
オフィス アワー	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学部 1714 研究室 時間については、オリエンテーション時に提示します。 ・臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前に下記のメールアドレスを利用して確認してください。 <p>藤本栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp) 黒野智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp), 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp) 村松美恵 (mie-t@seirei.ac.jp) 室加千佳 (chika-mu@seirei.c.jp)</p>			
実務経験に 関する記述	本科目は「助産師」の資格および実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について	WebClass での学生の皆さんの回答を集計し、必要に応じて同時双方向メディアで共有する場合があります。			

科目名	母性看護援助論
科目責任者	神崎 江利子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	母性看護学概論で学んだ知識に加えて、対象の特徴や健康状態をアセスメントするための知識と技術・態度を段階を追って学んでいけるよう、事例（家族を含む）の提示や特徴的な場面の設定を通して、身体、心理・社会、日常生活の側面から対象の全体像をアセスメントすることを学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を通して、リプロダクティブ・ヘルスの観点から女性を支える支援（セルフケアの支援・意思決定支援等）を理解する。 2. 妊産婦および家族の身体・心理・社会および日常生活についてアセスメントを実施する。 3. 『親になること』のプロセスのアセスメントを実施する。 4. 退院後の子どものいる生活を描きアセスメントを実施する。 5. 新生児のアセスメントのための基本的観察技術を理解し、実施する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名>神崎、黒野、室加、村松</p> <p>第 1 回：オリエンテーション／性周期とセクシュアリティ グループワーク</p> <p>第 2 回：妊婦(胎児を含む)の特徴と健康状態のアセスメント 各事例の特徴をグループで共有する</p> <p>第 3 回：産婦(胎児・新生児を含む)の特徴と健康状態のアセスメント グループワーク</p> <p>第 4 回：褥婦の特徴と健康状態のアセスメント グループワーク</p> <p>第 5 回：退院後の生活をイメージする～赤ちゃんのいる生活～ グループワーク 地域における子育て世代の母子及び家族の健康状態のアセスメント</p> <p>第 6 回：新生児の特徴と健康状態のアセスメント グループワーク</p> <p>第 7 回：正常から逸脱した妊産婦のアセスメント（ハイリスク妊産婦）</p> <p>第 8 回：ハイリスク新生児の特徴と健康状態のアセスメント グループワーク</p> <p>※母性看護援助論では、母性看護学概論で学んだ知識に加えて、対象の特徴や健康状態をアセスメントするための知識と技術・態度を段階を追って学んで行けるよう、事例（家族を含む）の提示や特徴的な場面を設定をしながら、授業展開を行います。</p>
アクティブラーニング	母性看護概論で修得した知識や課題学修（事前学修）を基にグループワークを実施した後に、全体での発表等をおこない、母性看護援助論演習につなげます。
授業内の ICT 活用	個人やグループの意見（発表）をオンライン上で入力し、スクリーンまたは電子黒板に表示します。授業内での理解度確認を行うため ICT 教材を利用して双方向型授業を行うこともあります。また、教員が作成した視聴覚教材や医学書院 e テキスト、Nursing Skills、ビジュラン等を使用します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の確認テスト（80％）：講義時間内に紙面またはwebにて実施します。 ・課題レポート、事前・事後学修（webclass 含む）グループワークへの参加度等で評価します（20％）。課題レポートは、ルーブリックを用いて評価をおこなうものもあります。

課題に対する フィード バック	事前学修に関しては、講義で説明します。 学生から質問があれば、講義（母性看護援助論含む）、またはWebClass やリアクションシート等にてフィードバックします。また、必要時には個別面談で対応します。				
指定図書	『系統看護学講座 専門 24 母性看護学[1]』森恵美編、医学書院 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 ※母性看護学概論と同じテキストを使用いたします。				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
母性看護学[1] 母性看護学概論 第14版	森 恵美	医学書院		9784260042253	
母性看護学[2] 母性看護学各論 第14版	森 恵美	医学書院		9784260042239	
参考図書	『病気がみえる vol.10 産科 第4版』医療情報科学研究所、メディックメディア 『新生児学入門 第5版』仁志田博司、医学書院 ※その他の参考図書については、随時、講義にてお知らせいたします。				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
病気がみえる vol.10 産科 第4版	医療情報科学研究所 編集	メディックメディア	2018	9784896327137	
【第5版】新生児学入門	仁志田博司／編集	医学書院	2018	9784260036252	
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修は、WebClass または授業の最後にて、次回授業までの課題を提示します。 事後学修は、授業の最後または WebClass で、その日の授業内容に関する課題等を出題します。（事前学修は60分程度、事後学修は30～40分程度の時間を要する） WebClass の利用に際し、日時制限のあるものがありますので、各自で必ず確認するようにしてください。（WebClass への掲載、入力や提出は、決められた期間以外にはいたしません。） <p>自主学習として、下記の動画の閲覧をお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『系統看護学 				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	看護援助のイメージ化やアセスメント力を高めるために、下記の動画の視聴をお勧めします				
	<ul style="list-style-type: none"> 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 図書巻末の動画一覧 ナースング・スキル（日本版） https://www.nursingskills.jp/ 看護 roo 動画でわかる看護シリーズ https://www.kango-roo.com/mv/ VISUALEARN クラウド https://seirei.visualearn.jp/p/（使用時間厳守のこと） 				
オフィス アワー	看護学部 1710 研究室。時間については、オリエンテーション時に提示します。 講義内容に関わらず質問があれば、いつでも気軽に e-mail 等で連絡ください。 神崎江利子（ eriko-k@seirei.ac.jp ）、黒野 智子（ tomoko-k@seirei.ac.jp ） 室加 千佳（ chika-mu@seirei.ac.jp ）、村松 美恵（ mie-t@seirei.ac.jp ）				
実務経験に 関する記述	本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	WebClass に掲載する指定期間内に事例のアセスメントを行い、必要に応じて同時双方向メディアでの演習をおこない学びを共有する。				

評価方法	各事例に関する事前・事後学修、課題レポート、グループワークへの参加度等で評価します。			
課題に対するフィードバック	演習の事前学修や演習後のディスカッション後などにフィードバックします。 学生から質問があれば、次回の演習またはWebClass やリアクションシート等にてフィードバックします。また、必要時には個別面談で対応します。			
指定図書	『系統看護学講座 専門 24 母性看護学[1]』森恵美編、医学書院 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 ※母性看護学概論、母性看護援助論と同じテキストを使用いたします。			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
母性看護学[1] 母性看護学概論 第14版	森 恵美	医学書院		9784260042253
母性看護学[2] 母性看護学各論 第14版	森 恵美	医学書院		9784260042239
参考図書	『病気がみえる vol.10 産科 第4版』医療情報科学研究所、メディックメディア 『新生児学入門 第5版』仁志田博司、医学書院 自主学习として、下記の動画視聴を勧めます。 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 巻末動画一覧 ナーシング・スキル (日本版) https://www.nursingskills.jp/ ビジュラン https://seirei.visualearn.jp/p/ (使用日時を厳守のこと) その他、NHK ハートネットテーマ別情報HP http			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
病気がみえる vol.10 産科 第4版	医療情報科学研究所 編集	メディックメディア	2018	9784896327137
【第5版】新生児学入門	仁志田博司/編集	医学書院	2018	9784260036252
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修は、WebClass または母性看護援助論の授業の前等に、演習の準備の課題を提示します。 事後学修は、授業の最後またはWebClass でその日の演習内容に関する課題等を出題します。(事前学修は60分程度、事後学修は30~40分程度の時間を要する) 必ず決められた時刻までに、リアクションペーパー等をWebClass に入力してください。 WebClass の利用や提出の際には、日時制限がありますので、各自で必ず確認するようにしてください。(WebClass への掲載や入力、決められた期間以外) 			
オープンエデュケーションの活用	<p>自主学习として、下記の動画視聴を勧めます。</p> <p>『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 巻末動画一覧 ナーシング・スキル (日本版) https://www.nursingskills.jp/ ビジュラン https://seirei.visualearn.jp/p/ (使用日時を厳守のこと) その他、NHK ハートネットテーマ別情報HP https://www.nhk.or.jp/heart-net/topics/ など ※その他の参考図書については、随時、講義にてお知らせい</p>			
オフィスアワー	看護学部 1709 研究室。時間については、オリエンテーション時に提示します。 講義内容に関わらず質問があれば、いつでも気軽に e-mail 等で連絡ください。 黒野 智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp)、神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp)、 室加 千佳 (chika-mu@seirei.ac.jp)、村松 美恵 (mie-t@seirei.ac.jp)			
実務経験に関する記述	本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点の踏まえて教授する科目です。			
メディア授業の実施について	演習で実践した看護援助場面を天井カメラや iPad などで撮影し、グループに分かれてデブリーフィングを行う際に教室間遠隔授業で全学生の共通理解を深めるために利用することもある。			

科目名	小児看護学概論
科目責任者	市江 和子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護や養護の対象である小児の特性を、子どもを取り巻く環境と成長・発達の側面から学ぶ。また、健全な発達を支援する小児保健に関する施策の意義と内容を、保健医療、福祉、教育の面から検討し、発達段階別の生活と養護について理解する。さらに、小児の各発達段階に応じた健康の維持増進を支援する小児看護の機能と役割について理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長・発達について学び、身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 小児保健の動向をとらえ、小児における保健・医療・福祉について理解する。 3. 小児期における基本的な生活習慣、健康診査、予防接種について学び、小児とその家族の健康をまもるための支援を理解する。 4. 小児期特有の事故について学び、安全教育の必要性を知り、事故対策および救急法の具体的な援助を理解する。 5. 子どもの権利と小児看護における倫理的問題を理解する。 6. 小児医療と小児看護における看護職の果たす役割を理解する。
授業計画	<p>第1回 小児の概念と小児看護の理念および役割 市江和子 成長・発達に関するワークシートと学習の進め方</p> <p>第2回 小児の成長・発達の概観① (成長・発達の原則、影響要因) 市江和子</p> <p>第3回 小児の成長・発達の概観② (形態的成長・発達) 市江和子</p> <p>第4回 小児の成長・発達の概観③ (機能的発達) 市江和子</p> <p>第5回 小児の成長・発達の概観④ (心理社会的発達・発達の評価) 市江和子</p> <p>第6回 基本的な生活習慣の発達とその援助① (新生児、乳児) 宮谷 恵</p> <p>第7回 基本的な生活習慣の発達とその援助② (幼児、全般) 宮谷 恵</p> <p>第8回 基本的な生活習慣の発達とその援助③ (離乳食について) 宮谷 恵</p> <p>第9回 事故の予防と安全教育 (救急法を含む) 宮谷 恵</p> <p>第10回 小児保健の動向① 宮谷 恵 (小児を取り巻く社会環境、小児保健に関する統計)</p> <p>第11回 小児保健の動向② (小児をめぐる法律と施策) 宮谷 恵</p> <p>第12回 予防接種 小出扶美子</p> <p>第13回 乳幼児期の健康診査と保健指導 小出扶美子</p> <p>第14回 子どもの人権と倫理的問題 市江和子 権利・倫理的問題に関するワークシートと学習の進め方</p> <p>第15回 小児看護・医療の変遷と展望 市江和子</p>

アクティブ ラーニング	授業ごとにリアクションペーパーでの質問、意見には授業時や全体・個別メール、WebClassで返答する。 「基本的な生活習慣の発達とその援助③（離乳食について）」においては、離乳食に関する演習を実施する。				
授業内の ICT活用	インターネットから必要な情報を検索して、ワークシートの学習をする。				
評価方法	筆記試験 90%、課題 10%だが、授業への参加状況等も加味して総合的に評価する。 ルーブリックは用いない。				
課題に対する フィード バック	学習内容に関するワークシートを課題とし、学習の進め方を随時説明する。授業の関係する講義内容時に、課題についてフィードバックを行う。				
指定図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①, 奈良間美保, 医学書院, 2020.				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	授業中に適宜紹介します。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	成長・発達、小児保健に関するワークシートで、1回の講義に40分程度、事前学修を進めてください。担当教員が、適宜、ミニテスト等を実施しますので、事後学修として復習してください。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	市江和子：金曜日午前（1712 研究室） Kazuko-i@seirei.ac.jp 宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） megumi-m@seirei.ac.jp 小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室） fumiko-k@seirei.ac.jp				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	小児看護援助論
科目責任者	小出 扶美子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	健康を障害された子どもとその家族を理解し、健康障害や入院・受診が子どもと家族に及ぼす影響を考察しながら、子どもの成長・発達段階、健康レベル及び子どもと家族の権利をふまえた看護援助の方法を学ぶ。また、小児期におこりやすい健康障害に伴うさまざまな症状を理解し、その症状に対する看護の方法を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害・入院・受診が子どもとその家族に及ぼす影響を考察し、その影響を最小限とするための看護が理解できる。 2. 子どもと家族の権利をふまえた看護援助として、プレパレーションの必要性とその方法を理解し、検査や処置のプレパレーションの内容を考えることができる。 3. 小児期におこりやすい健康障害のさまざまな症状に対する看護の方法が理解できる。 4. 健康を障害された子どもの成長・発達段階、健康レベルに応じた看護が理解できる。
授業計画	<p>第1回： 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 小出扶美子</p> <p>第2回： 外来における子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第3回： 子どもとプレパレーション① プレパレーションとは 小出扶美子 (入院している子どもにとっての遊び、子どもの権利とプレパレーション)</p> <p>第4回： 子どもとプレパレーション② グループワーク 小出扶美子 (プレパレーションの方法と内容)</p> <p>第5回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護① 山本 智子 (発熱、脱水)</p> <p>第6回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護② 山本 智子 (呼吸困難、痙攣、発疹、他)</p> <p>第7回： 急性期にある子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第8回： 慢性期にある子どもと家族の看護 小出扶美子</p>

アクティブラーニング	講義時に小グループでのディスカッションを取り入れる。第4回目の講義は、検査や処置を受ける子どもに対するプレパレーションの課題に対して、グループワークを実施し、対象となる幼児期の子どもが理解できる言葉で説明内容を考える。				
授業内のICT活用	授業ごとのリアクションペーパーはWeb Class を活用する。グループワークでは ICT 機器を活用する				
評価方法	筆記試験 90%、プレパレーションのグループワークのルーブリック評価 10%だが、授業への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの質問や意見に対して、授業時や全体・個別メール、WebClass で回答する。自己学修ノートの回答は WebClass に提示する。グループワークについては、WebClass にフィードバックを掲載する。				
指定図書	市江和子編：『小児看護学』 オーム社 2017				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版	奈良間 美保	医学書院		9784260038669
参考図書	授業中に随時連絡する。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	講義予定表に記載してある授業テーマと関連する教科書の章を読むこと。また、講義の單元ごとに自己学習のノートを配布するので、講義後に講義内容の要点を教科書や配布資料を用いて復習する。1コマあたりの時間の目安は予習 20 分、復習 20 分とする。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室）fumiko-k@seirei.ac.jp 山本 智子：月曜日午後（1218 研究室）tomoko-y@seirei.ac.jp				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」と実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	実施なし				

科目名	小児看護援助論演習
科目責任者	宮谷 恵
単位数他	1単位 (30時間) 必修 5・6セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。
科目概要	小児の発達段階と健康レベルをふまえ、健康障害および発達障害をもつ小児および家族への看護援助を理解し、基本的な技術と態度を学ぶ。小児看護学概論、小児看護援助論で学習した知識、技術を、事例展開や演習を活用して実践し、小児と家族へのより適切な援助や養護の重要性の理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期におこりやすい健康障害をもつ小児とその家族への看護の方法が理解できる。 2. 健康障害および発達障害が小児とその家族に及ぼす影響が理解できる。 3. 小児看護を実践するために、基本的な看護過程及び特有な看護技術が理解できる。 4. 他領域も含め学んできた知識を用いて、健康障害および発達障害をもつ小児とその家族の特性を考慮した看護援助について考察することができる。
授業計画	<p>第1回：腎臓に障害をもつ子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第2回：循環器に障害をもつ子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第3回：悪性新生物の子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第4回：心身障害をもつ子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第5回：障害をもち在宅生活する子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第6回：周手術期の子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第7回：子どものフィジカル・アセスメント① 山本智子 (総論、一般状態、頭部・頸部、胸部・背部、リンパ系、皮膚等)</p> <p>第8回：子どものフィジカル・アセスメント② 山本智子 (腹部、四肢、臀部等、心臓・血管系、筋・骨格系、神経系)</p> <p>第9回：検査・処置を受ける子どもの看護① 小出扶美子 (検査・処置を受ける子どもと家族の体験と援助)</p> <p>第10回：検査・処置を受ける子どもの看護② 小出扶美子 (採血、与薬、輸液方法等の検査・処置について)</p> <p>第11回：小児看護技術演習① (オリエンテーション) 宮谷 恵</p> <p>第12回：小児の看護過程① (看護過程の基本と看護診断) 市江和子</p> <p>第13回：小児の看護過程② 市江和子 (事例を用いた看護過程の展開の実際：健康障害をもつ子どもと家族の看護)</p> <p>第14回：小児の看護過程③ 市江和子 (事例を用いた看護過程の展開の実際：障害をもつ子どもと家族の看護)</p> <p>第15回：小児看護技術演習② (実技演習) 宮谷 恵、市江和子、小出扶美子、山本智子</p>

アクティブラーニング	第 15 回目に小児モデル人形・バイタルサインシミュレーターを用いた実技演習を行う。また授業ごとにリアクションペーパーでの質問・意見には授業時や個別メール、WebClass で返答する。				
授業内の ICT 活用	授業ごとのリアクションペーパーは Web Class を活用する。				
評価方法	筆記試験 90%、リアクションペーパー10%だが、授業への参加状況も加味して、総合的に評価する。				
課題に対するフィードバック	自己学修ノート（ワークシート）への回答は、授業時に提示する。				
指定図書	市江和子編：『看護系標準教科書 小児看護学』、オーム社、2017 下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第14版	奈良間 美保	医学書院		9784260038669
参考図書	必要時に提示する。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	事前学習としては、その日の授業内容（テーマ）をあらかじめ確認し、小児看護学関連だけでなく他の授業科目の内容でも、すでに学習している関連事項について復習しておいて下さい。事後学習はその日のうちに、配布資料等を見直してわからなかったことを調べ、自己学修ノート（ワークシート）が提示される場合はそれを行い、学びを定着させて下さい。1 コマあたりの時間の目安は事前学習 20 分、事後学習 20 分です。				
オープンエデュケーションの活用	講義の理解に役立つ動画やインターネット上のサイトは講義時に紹介、または WebClass に掲載します。				
オフィスアワー	宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） megumi-m@seirei.ac.jp 小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室） fumiko-k@seirei.ac.jp 市江和子：金曜日午前（1712 研究室） kazuko-i@seirei.ac.jp 山本智子：月曜日午後（1218 研究室） tomoko-y@seirei.ac.jp				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	実施なし				

科目名	精神看護学概論	
科目責任者	入江 拓	
単位数他	2単位 (30時間) 必修 4セメスター	
DP番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	精神疾患を抱えて生きる対象者や家族に看護師として向かうためには、看護過程、疾患や治療に関する知識は必要不可欠ですが、こころの病いととも生きる事が、当事者にどのように心理社会的にまた、主観的に「体験」されるのか、ということに関する理解がその土台となります。看護師も同じ人間としての弱さや限界を抱える存在であることを認めつつ、対象者を冷静に捉える視座を養うことが大切です。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が各自の人間観および、養われつつある看護観を吟味し記述できる。 2. 精神看護の目標と役割について説明できる。 3. 精神の機能と障害について、当事者（個人・家族）の主観的体験という視点からイメージできる。 4. 精神疾患の病態・病理および治療の概観について理解できる。 	
授業計画	<p>第1回：精神看護とは （こころとからだ、正常と異常、人間観）</p> <p>第2回：精神看護の目的と役割 （対象者の主観的体験とは？）</p> <p>第3回：精神看護では何をどのように見るか （どこから何を眺めているのか？）</p> <p>第4回：精神看護に求められるもの （対象者を解ろうとすることを阻むもの。偏見・囚われ・構え）</p> <p>第5回：精神看護における対象者の理解の試み （対象者と取り巻く状況の視覚化）</p> <p>第6回：ライフサイクル各期における心理発達の障害 （危機的状況に焦点をあてて）</p> <p>第7回：精神疾患の成り立ち （精神の機能と障害）</p> <p>第8回：脳故障類型と精神症状</p> <p>第9回：神経症性障害</p> <p>第10回：気分障害</p> <p>第11回：統合失調症</p> <p>第12回：器質性精神障害（症状性精神障害を含む）</p> <p style="text-align: right;">＜今泉寿明＞</p> <p>第13回：精神科治療（薬物療法、精神療法、社会資源の利用）</p> <p style="text-align: right;">＜今泉寿明＞</p> <p>第14回：生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群 （摂食障害、アルコール関連精神障害、薬物依存）</p> <p>第15回：精神看護の行為を支えるもの （ケアリング・共感・精神看護とは、まとめ）</p>	<p style="text-align: right;">＜入江拓＞</p> <p style="text-align: right;">＜入江拓＞</p> <p style="text-align: right;">＜入江拓＞</p> <p style="text-align: right;">＜入江拓＞</p> <p style="text-align: right;">＜入江拓＞</p> <p style="text-align: right;">＜入江拓＞</p> <p style="text-align: right;">＜入江拓＞</p> <p style="text-align: right;">＜今泉寿明＞</p> <p style="text-align: right;">＜今泉寿明＞</p> <p style="text-align: right;">＜今泉寿明＞</p> <p style="text-align: right;">＜今泉寿明＞</p> <p style="text-align: right;">＜入江拓＞</p> <p style="text-align: right;">＜入江拓＞</p>

アクティブ ラーニング	当事者の主観的体験をふまえた看護をおこなうための視座を養うために、自己理解および、対象理解のための小課題をおこないます。結果は全体に対して解説し、それを受けてさらに課題レポートを作成しWEB Class にて提出します。これまでの自分自身のありようや、物事に対する考え方や構え、捉え方の癖などについてあらためて振り返り、「自分の言葉」で「自分の考え」を表現することから始めることが必要です。適宜課せられる指定図書による予習・復習および、学んだことや疑問を整理して記述するリアクションペーパーへの言語化は各単元の理				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	定期試験 95%、課題提出物 5%、で総合的に評価します。				
課題に対する フィード バック	演習及び課題レポートの結果については、全体に対して資料および、講義内で解説します。リアクションペーパーの記述、質問については個人が特定されない形で適宜資料にて全体に対してフィードバック、共有し、学習の動機づけとします。				
指定図書	看護のための精神医学 第2版 中井久夫・山口直彦、医学書院 (2021) 精神医学テキスト 精神障害の理解と治療のために 改定第5版、上島国利、立山萬里、三村將、南江堂 (2023)				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
精神医学テキスト改訂 第4版 精神障害の理解 と治療のために	上島 国利 編集	南江堂	2017	9784524259427	
【第2版】看護のため の精神医学	中井久夫／著 山口直 彦／著	医学書院	2004	9784260333252	
参考図書	適宜紹介します				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
事前・ 事後学修	事前・事後学習：授業内容に関連する資料は毎回配布します。適宜指定図書および、配布資料内から 40 分程度で可能な事前・事後学修を課します。配布資料は実習でも活用するため保管しておくこと。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	入江は看護学部の所属 (3403 研究室 taku-i@seirei.ac.jp) です。授業内容に関する質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取るか、講義後に声をかけてください。時間調整をして応じます。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	精神看護援助論	
科目責任者	小平 朋江	
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 5・6 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	精神看護学の枠組みや看護援助のための知識を踏まえ、看護過程など臨床で精神疾患を持った対象者に対してどのように治療的に関わっていくか、その援助のあり方を具体的に学びます。精神疾患を抱えながら生きる対象者は、どのような体験をしているのかに関心を持てることが重要です。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学で必要とされている知識と技術を理解できる。 2. 精神疾患を抱えながら生きる対象者が体験していることと呈する症状・状態を関連させて看護援助について記述できる。 3. 精神看護学で使用する各種の理論とそのアプローチの方法を理解できる。 4. 精神保健福祉および精神医療体制の現状を理解できる。 5. 「入院している場」と「生活している場」とを結び付けてイメージできる。 	
授業計画	<p>第1回：精神科臨床の流れ</p> <p>第2回：統合失調症をもつ人の心の理解と看護（急性期）</p> <p>第3回：統合失調症をもつ人の心の理解と看護（慢性期）</p> <p>第4回：神経症性障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第5回：パーソナリティ障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第6回：気分（感情）障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第7回：薬物療法と看護</p> <p>第8回：精神看護における援助的人間関係とは</p>	<p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>松本有希</p> <p>松本有希</p> <p>清水隆裕</p> <p>小平朋江</p>

アクティブ ラーニング	授業後のリアクションペーパーでは、疾患や障害の特徴を踏まえて自分はどうな関わりや看護援助をしたいか具体的に考え、記述することを通して、学生なりの看護援助を説明する経験を積み重ねていきます。授業の中で活用する「ナラティブ教材」(病いや障害の語りの教材)を参照し、ナラティブに関連の資料を本学の図書館などで探すことも可能です。このような資料に触れることで、学生自身の気づきや学びが手ごたえに、病いの体験を知ることが大切です。2~3人の小さなグループで話し合う時間を持ち、当事者視点の病いの体験について考えます。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	定期試験 95%、課題提出物 5%、各单元ごとに知識の確認を行い、総合的に評価します。				
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーに記述される気づきや学び、疑問を講義でフィードバックして共有しながら、授業を進めていきます。				
指定図書	田中美恵子編著「精神看護学 第3版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開」医歯薬出版				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
精神看護学 2 第6版	川野 雅資 編集	ヌーヴェルヒロカワ	2015	9784861740657	
参考図書	授業中に随時連絡				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
事前・ 事後学修	指定図書を活用して毎回の授業内容に関連したページを具体的に指示します。その指示された部分を事前・事後学修として良く読んで授業に出席すること。加えて、授業時、配布する資料を用いての事前・事後学修についても指示します。事前・事後学修時間の目安は 40 分程度です。配布資料は実習でも活用するため保管しておくこと。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	小平朋江(看護学部教員 3401 研究室:tomoe-k@seirei.ac.jp)は、実習病院に出向いている時間帯が多いため、面接予約などは早めにメールで連絡を入れて下さい。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	精神看護援助論演習
科目責任者	清水 隆裕
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。
科目概要	ライフサイクル各期における精神保健の課題について精神保健上の意味を再検討し、さらに地域で暮らす精神障がい者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的な知識と方法を学修する。さらに、精神看護の看護過程を展開する際に必要な知識と方法について演習を用いて整理し、理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患により入院治療中の対象者を理解し、看護過程を展開できる。 2. 精神医療の関連法規が説明でき、臨床の場での活用方法を学ぶ。 3. ライフサイクル各期における精神保健の課題が説明でき、対象の課題を理解できる。 4. 地域で暮らす精神障がい者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的な知識を理解し、説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>担当 清水隆裕、入江拓、小平朋江、松本有希</p> <p>第1回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（こども・学校） <清水隆裕></p> <p>第2回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（職場・中年・高齢者） <清水隆裕></p> <p>第3回：ライフサイクルを通しての課題（依存、自殺、認知症） <清水隆裕></p> <p>第4回：精神医療の歴史と看護、関連法規・政策の変遷 <清水隆裕></p> <p>第5回：精神看護における倫理と関連法規 <清水隆裕></p> <p>第6回：精神看護における薬物療法 <清水隆裕></p> <p>第7回：精神科リハビリテーションと看護 <清水隆裕></p> <p>第8回：精神看護における地域精神保健活動と地域移行支援 <清水隆裕></p> <p>第9回：精神看護におけるアセスメント技法 <入江拓></p> <p>第10回：精神看護で用いる看護理論の活用法 <松本有希></p> <p>第11回：精神看護における全人的理解のための試み <入江拓></p> <p>第12回：精神看護学実習における情報の整理と活用 <松本有希></p> <p>第13回～15回：事例からの構造判別図の記載・看護現象診断・看護計画までの看護過程の展開をグループワークで行う <清水隆裕、入江拓、小平朋江、松本有希></p>

アクティブラーニング	第12回～第15回は、事例による看護過程の展開を行います。グループワークを主体として実施、課題をまとめ発表します。ノートパソコンを用い、事例において探索が必要なことは、その場で調べるという取り組みを行います。			
授業内のICT活用	第12回～第15回の事例による看護過程の展開ではICTを使います。事前に必要なICTを伝えます。			
評価方法	演習の成果物5%、定期試験95%、ルーブリックは用いません。			
課題に対するフィードバック	演習の成果物に関しては、成果物提出後Webclass内で共有し解説します。リアクションペーパーの記述、質問については授業内に全体に対してフィードバック、共有し、学習の動機づけとします。			
指定図書	川野雅資編「精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版」Nouvelle HIROKAWA, (2015) 川野雅資編「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版」NOUVELLE HIROKAWA (2015) 「精神医学テキスト-精神障害の理解と治療のために-」(改定第5版) 上島国利・立山萬里・三村将. 南江堂 (2023)			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	中井久夫・山口直彦 「看護のための精神医学」医学書院 第2版 (2004) 田中美恵子編著「精神看護学 第2版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開」医歯薬出版 (2020)			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	指定図書を活用して毎回の授業内容に関連したページを具体的に指示します。その指示された部分を事前・事後学修として良く読んで授業に出席すること。加えて、授業時、配布する資料を用いての事前・事後学修についても指示します。事前・事後学修時間の目安は40分程度です。			
オープンエデュケーションの活用	活用しません。			
オフィスアワー	清水隆裕は看護学部の所属 (1214 研究室 takahiro-sh@seirei.ac.jp) です。質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取り、おいでください。			
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア授業の実施について	なし			

科目名	家族看護論	
科目責任者	山村 江美子	
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 3 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	看護の対象である「家族」を理解するために、家族看護学の基盤となる理論を学ぶ。家族は看護の対象であり、家族が発達課題の達成に加え偶発的な状況的危機に遭遇した場合において、家族への看護支援について学修する。各領域の教員が講義を担当する、オムニバスの講義科目である。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象である「家族」の特性や家族の健康について考えることができる。 2. 基盤となる家族看護理論を学び、発達課題や健康課題をもつ「家族」の理解につなげる。 3. 家族周期における家族の特徴を理解し、家族看護を考えることができる。 4. 家族のセルフケア機能が発揮される家族看護について、考えることができる。 5. 各領域の家族看護の実際を理解し、課題を抱える家族の支援について考えることができる。 	
授業計画	<p>第1回：看護の対象としての「家族」 家族のセルフケア機能について 山村江美子 ・家族とは ・家族看護とは ・家族看護の定義 ・家族のセルフケア機能とは ・家族を看護する看護職の役割と基本姿勢 ・家族看護の焦点 ・家族アセスメントについて</p> <p>第2回：家族を理解するための理論① 家族発達理論・家族システム理論 山村江美子 ・家族を発達する存在として理解 ・発達段階における特徴と課題 ・家族の発達課題の移行期 ・健康問題を抱える家族の状況 ・家族発達理論を基にした家族の理解 ・システムとしての家族の特徴を理解 ・家族システム理論の家族看護への活用</p> <p>第3回：家族を理解するための理論② 家族ストレス対処理論 山村江美子 ・3つのモデル ・家族ストレス対処理論の家族看護への活用 ・ジェノグラムの作成 ・エコマップの理解 ・事例学修</p> <p>第4回：事例学修 健康課題をもつ家族への支援 山村江美子</p> <p>第5回：成人看護における家族支援 大石ふみ子</p> <p>第6回：小児看護における家族支援 小出扶美子</p> <p>第7回：精神看護における家族支援 清水隆裕</p> <p>第8回：地域在宅看護における家族支援 山村江美子</p>	

アクティブ ラーニング	事例学修を行い学生間でのディスカッションを実施します。Web Class を利用して事後学修を行い、講義内でフィードバックを行います。				
授業内の ICT 活用	リアクションペーパー、課題レポートの提出は、Web Class を使用して行います。講義時間内に、各自の PC を使用して探索的に課題を実施していきます。				
評価方法	課題レポート 80%、リアクションペーパー提出 20%				
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーにおいて対応が必要な内容へのフィードバックは、次回の講義の中で説明します。				
指定図書	指定図書は授業内では使用しない。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 別巻 「家族看護学」 医学書院 ・看護学テキスト Nice 「家族看護学」臨床場面と事例から考える 改訂第3版 南江堂 ・「家族看護学」理論と実践 第5版 日本看護協会出版会 				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	家族看護学	上別府 圭子	医学書院		9784260031929
	家族看護学 (改訂第3版)	山崎あけみ	南江堂	2022	9784524229291
	家族看護学 理論と実践 第5版	鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子 著	日本看護協会出版会	2019	9784818022089
事前・ 事後学修	事前事後学修については、講義時間内に説明し提示します。リアクションペーパー記述時には、事後学修を行ってから取り組んでください。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	<p>講義後の休憩時間に研究室で待機します。その後は、実習指導のため実習施設へ移動することがあります。メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。</p> <p>山村江美子 3412 研究室 : emiko-y@seirei. ac. jp、 大石ふみ子 1219 研究室 : fumiko-o@seirei. ac. jp 小出扶美子 2713 研究室 : fumiko-k@seirei. ac. jp 清水隆裕 1241 研究室 : takahiro-sh@seirei. ac. jp</p>				
実務経験に 関する記述	本科目担当者は、「看護師・保健師」の実務経験を有します。実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について					

科目名	国際看護論
科目責任者	水田 明子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	世界の健康格差や在日外国人患者への理解を通して、国際看護実践の基盤となる異文化間感受性を高めます。
到達目標	1. 国際的な健康課題とその背景を理解できる。 2. 国際協力における看護の取組みについて理解できる。 3. 異文化間感受性を向上させ、国内における国際看護のあり方について考えることができる。
授業計画	<p>導入</p> <p>第1回：「国際化と看護」を学ぶ意義 水田明子</p> <p>第2回：JICA の活動 JICA スタッフ</p> <p>第3回：世界の健康格差と保健医療 西川浩昭</p> <p>国際協力の実際</p> <p>第4回：ガーナでの看護活動の実際 (JICA) 谷 彩</p> <p>国内における国際看護</p> <p>第5回：健康を看護の枠を超えて考える 小川美農里</p> <p>第6回：医療通訳の立場から見た国際看護 松田愛香</p> <p>第7回：国内における国際看護の実践 堀内美由紀</p> <p>第8回：ディスカッションによる学びの共有 まとめ 水田明子</p>

アクティブ ラーニング	第8回ではグループワークを行い、ディスカッション、プレゼンテーションを行い学びの共有を行います。			
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。			
評価方法	総合レポート 70%、リアクションペーパー20%、グループワークへの参加 10%			
課題に対する フィード バック	質問への回答はWebclass 上で全体にフィードバックします。			
指定図書	下記参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
国際化と看護	大橋 一友	メディカ出版	2018	9784840465939
参考図書	下記参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
【第2版】知って考え て実践する国際看護	近藤麻理／著	医学書院	2018	9784260035361
事前・ 事後学修	事後学修は、各時間のキーワードとなる内容を国際関連機関のホームページなどで確認しながら記載してください。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	いつでも相談に対応します。ご用の方はメールでご連絡ください。			
実務経験に 関する記述	本科目は看護師・保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について	対面授業を基本とします。			

科目名	看護研究																																	
科目責任者	佐久間 佐織																																	
単位数他	2単位 (30時間) 必修 4セメスター																																	
DP番号と科目領域	DP4 専門																																	
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。																																	
科目概要	看護における研究の意義とプロセスの基礎的知識を学修する。また、グループで関心のある研究テーマを設定し、関連領域の文献を検索・検討により学術的な動向を整理し、研究課題の方向性を導くプロセスを実践することを通して、研究の基礎的能力を養う。																																	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と研究の進め方を理解できる 2. データベースを活用して文献検索ができる 3. クリティークの意義を理解し、実践することができる 4. 看護研究における倫理的配慮の基本的な考え方を理解できる 5. 量的研究と質的研究の特徴について理解できる 6. 関心のある研究テーマについて文献検討することができる 7. 関心のある研究テーマについてグループで議論することができる 																																	
授業計画	<p><担当教員名> 佐久間佐織、清水隆裕、乾友紀</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;"><授業内容・テーマ等></th> <th style="text-align: right;"><担当教員></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回：看護研究とは</td> <td style="text-align: right;">佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第2回：研究課題の選定</td> <td style="text-align: right;">佐久間</td> </tr> <tr> <td>第3回：文献検索 *医中誌web、メディカルオンラインによる検索</td> <td style="text-align: right;">佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第4回：論文クリティーク</td> <td style="text-align: right;">佐久間</td> </tr> <tr> <td>第5回：看護研究における倫理</td> <td style="text-align: right;">佐久間</td> </tr> <tr> <td>第6回：研究デザインの選択</td> <td style="text-align: right;">佐久間</td> </tr> <tr> <td>第7回：質的研究の特徴、面接法の進め方</td> <td style="text-align: right;">清水</td> </tr> <tr> <td>第8回：量的研究の特徴、質問紙調査の進め方</td> <td style="text-align: right;">乾</td> </tr> <tr> <td>第9回：関心あるテーマについての文献検索 【グループワーク】</td> <td style="text-align: right;">佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第10回：研究テーマの設定、文献検索 【グループワーク】</td> <td style="text-align: right;">佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第11回：研究テーマに関する文献検討 【グループワーク】</td> <td style="text-align: right;">佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第12回：文献検討と発表準備 【グループワーク】</td> <td style="text-align: right;">佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第13回：研究テーマに関する文献検討について発表【グループワーク】</td> <td style="text-align: right;">佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第14回：研究テーマに関する文献検討について発表【グループワーク】</td> <td style="text-align: right;">佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第15回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法</td> <td style="text-align: right;">佐久間</td> </tr> </tbody> </table> <p>※詳細は第1回目に説明します</p>		<授業内容・テーマ等>	<担当教員>	第1回：看護研究とは	佐久間、清水、乾	第2回：研究課題の選定	佐久間	第3回：文献検索 *医中誌web、メディカルオンラインによる検索	佐久間、清水、乾	第4回：論文クリティーク	佐久間	第5回：看護研究における倫理	佐久間	第6回：研究デザインの選択	佐久間	第7回：質的研究の特徴、面接法の進め方	清水	第8回：量的研究の特徴、質問紙調査の進め方	乾	第9回：関心あるテーマについての文献検索 【グループワーク】	佐久間、清水、乾	第10回：研究テーマの設定、文献検索 【グループワーク】	佐久間、清水、乾	第11回：研究テーマに関する文献検討 【グループワーク】	佐久間、清水、乾	第12回：文献検討と発表準備 【グループワーク】	佐久間、清水、乾	第13回：研究テーマに関する文献検討について発表【グループワーク】	佐久間、清水、乾	第14回：研究テーマに関する文献検討について発表【グループワーク】	佐久間、清水、乾	第15回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法	佐久間
<授業内容・テーマ等>	<担当教員>																																	
第1回：看護研究とは	佐久間、清水、乾																																	
第2回：研究課題の選定	佐久間																																	
第3回：文献検索 *医中誌web、メディカルオンラインによる検索	佐久間、清水、乾																																	
第4回：論文クリティーク	佐久間																																	
第5回：看護研究における倫理	佐久間																																	
第6回：研究デザインの選択	佐久間																																	
第7回：質的研究の特徴、面接法の進め方	清水																																	
第8回：量的研究の特徴、質問紙調査の進め方	乾																																	
第9回：関心あるテーマについての文献検索 【グループワーク】	佐久間、清水、乾																																	
第10回：研究テーマの設定、文献検索 【グループワーク】	佐久間、清水、乾																																	
第11回：研究テーマに関する文献検討 【グループワーク】	佐久間、清水、乾																																	
第12回：文献検討と発表準備 【グループワーク】	佐久間、清水、乾																																	
第13回：研究テーマに関する文献検討について発表【グループワーク】	佐久間、清水、乾																																	
第14回：研究テーマに関する文献検討について発表【グループワーク】	佐久間、清水、乾																																	
第15回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法	佐久間																																	

アクティブ ラーニング	図書館や文献検索サイトを利用し、自らの興味のある専門分野や関連諸学の学識を活用するために、積極的に文献検索を行う。関心のある研究テーマについて、グループワークを進めて成果を発表する。 学生間、担当教員とディスカッションすることで学修を深める。				
授業内の ICT 活用	グループワークの発表は ppt を使用します 授業内で医学中央雑誌 Web、メディカルオンラインを活用します				
評価方法	授業中の提出物 20% グループワークへの参加度、プレゼンテーション、成果物 20% 課題レポート 60% ※提出物、プレゼンテーション、課題レポートはルーブリックを用いて評価する				
課題に対する フィード バック	提出物や質問に対するフィードバックは、次回授業またはWebClass で回答する				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	看護研究 第2版	坂下 玲子	医学書院		9784260049955
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	バーンズ&グローブ看護研究入門 原著第7版	著=Susan K. Grove	エルゼビア・ジャパン	2015	9784860343002
	看護における研究 第2版	南裕子・野嶋佐由美 編	日本看護協会出版会	2017	9784818020665
	看護研究 第4版	前田 ひとみ	メディカ出版	2023	9784840478397
	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版	牧本清子	日本看護協会出版会	2020	9784818022713
事前・ 事後学修	看護の学修で関心を持った内容に関する文献を読んでください。授業回数に関わらず、文献を活用しながら、研究課題について継続的な学修が必要です。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	医中誌 web メディカルオンライン				
オフィス アワー	佐久間佐織：1618 研究室 saori-s@seirei.ac.jp 清水隆裕：1241 研究室 takahiro-sh@seirei.ac.jp 乾 友紀：1217 研究室 yuki-i@seirei.ac.jp 随時 ※不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について					

科目名	国際看護研修
科目責任者	渥美 陽子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	アメリカの医療施設における看護実践の見学、および本学と交流協定を結ぶ大学での看護演習を通して、国際的な視野で保健医療福祉制度、看護師の役割・実践、他職種の役割について学ぶことを目的としている。事前研修、現地研修（講義・シミュレーション演習・病院での看護師シャドウイング・施設見学等）、および事後研修で構成され、並行して、個人及びグループで課題に取り組む。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) アメリカにおける保健・医療制度をふまえて、看護職が担う役割と看護実践について、日本との違いや共通点を考える。 2) 患者・利用者の治療・ケアに関わる様々な専門職の役割を知る。 3) 異文化体験を通して、アメリカの人々の暮らし・社会・多様な価値観などを理解する。 4) 日本の文化、価値観、家族のありようなどを見直す。 5) 英語によるコミュニケーションを積極的に行う。
授業計画	<p><担当教員名> 渥美陽子、木村暢男、炭谷正太郎、藤浪千種、水田明子、小出扶美子、太田知実</p> <p>事前研修： 第 1 回 オリエンテーション：研修の概要・課題について、渡航準備①（ハンドブック、提出書類の確認、役割分担等） 第 2 回 渡航準備②、英会話トレーニング（自己紹介、質問練習、SBAR による情報整理・報告） 第 3 回 保健・医療制度、看護基礎教育に関する講義 第 4 回 看護シミュレーション演習における英会話トレーニング 第 5 回 課題発表 第 6 回 渡航準備③（アメリカの基本情報、入国認証 ESTA 申請登録など） 第 7 回 渡航準備④（出発前最終確認）</p> <p>現地研修： 第 8 回～第 14 回 保健医療制度の講義、シミュレーション演習、医療・福祉施設の見学、シャドウイング等</p> <p>事後研修： 第 15 回：看護研修全体の振り返りと報告会準備</p>

アクティブラーニング	研修参加にあたっては、日米の保健医療・看護教育制度、文化、社会・歴史的背景、健康問題、看護の現状と課題等に関する基本的な理解と議論を深め、自分なりの視点と課題を明確にしておく。そのために個人及びグループで3つの事前課題に取り組み、成果を発表する。研修後には全体の振り返りで学びを共有し、レポートを作成する。				
授業内のICT活用	WebClass を用いて、事前課題の提出と理解度の確認を行う。				
評価方法	事前研修・課題 35%、現地研修 50%、事後研修・課題 15%				
課題に対するフィードバック	事前事後学修の各課題に対し、履修者全員が研修の目的・目標に到達できるまで、各担当者が個別・グループ指導を行う。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	4つの課題を課す。①日米の医療や看護教育等に関する調べ学修、②研修先(施設)の概要に関する情報収集、③英会話・看護英語のセルフトレーニング、および④学びのレポート作成。課題内容により異なりますが、週平均 1~2 時間の自己学習が必要です。③については毎日、30分以上の語学学習を習慣づけてください。				
オープンエデュケーションの活用	厚生労働省、「2022年海外情勢報告」(本文)、第1章 北米地域にみる厚生労働施策の概要と最近の動向、第2節 アメリカ合衆国 (United States of America) (2) 社会保障施策 https://www.mhlw.go.jp/stf/toukei_hakusho/kaigai23.html				
オフィスアワー	木曜日午後 (3413 研究室)。不在の場合には、メール (yoko-a@seirei.ac.jp) でご連絡ください。				
実務経験に関する記述	なし				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	基礎看護学実習 I
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護の対象となる人々の医療施設における療養環境の実際を理解し、療養生活における看護の役割について考える。また、看護学生に必要な基本的態度を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の入院中の療養環境の実際を理解することができる 2. 病院での看護実践の見学や体験をとおして、療養生活における看護の役割について考えることができる 3. 看護学生に必要な基本的な態度を身につける
授業計画	<p><担当教員名> 佐久間佐織、樫原理恵、炭谷正太郎、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、夏目麻理 他</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院、浜松ろうさい病院、北斗わかば病院、遠州病院 2. 実習期間 実習オリエンテーション 12月～1月 3回 臨地実習 2月 3. 実習展開 実習オリエンテーション (学内) 臨地実習 (3日間) 実習成果報告会 (学内)

アクティブ ラーニング	実習科目				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	到達目標に合わせ、ルーブリックを用いて評価する。				
課題に対する フィード バック	教員との面談や体験報告会でのコメント、実習記録へのコメントなどにより、事前学修、実習記録、実習での体験についての成果や課題、解決方法についてフィードバックする。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	適宜紹介する				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】 実習要項を熟読する 看護学原論Ⅰ、看護学原論Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱの学修内容を復習する 学修した看護技術についてセルフトレーニングする 実習施設、代表的な疾患や治療について調べる</p> <p>【事後学修】 実習で質問されたことや疑問をテキストなどを使って調べる</p>				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	事前事後学修として以下の URL のオンライン教材を利用する ナースィングスキル : https://nursingskills.jp/ , エルゼビアジャパン				
オフィス アワー	看護学部 1 号館 6 階 1618 研究室 随時 ※不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である				
メディア 授業の実施 について	感染状況などにより、病院での実習が実施できない場合には、遠隔での実習となる場合がある。				

科目名	基礎看護学実習Ⅱ
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	2単位(90時間) 必修 3セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、療養生活支援の専門家として生命と生活を守るために必要な診療にともなう看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく援助方法を学び、修得する。本科目では、医療安全、検査・検体の採取、与薬、安楽な呼吸への援助、罨法、創傷管理に関する専門的知識と技術について学修する。さらに、既習の知識と技術を用いて根拠を迫り、看護の対象にあわせた援助について能動的に考え、議論できる態度を培う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を尊重し、援助的な人間関係を構築することができる 2. 患者の情報を整理・統合し、療養生活の援助を中心とした看護過程を展開することができる 3. 展開した看護過程に基づき患者に必要な看護ケアを実施し、評価することができる 4. 看護職に必要な基本的な態度を持ち、主体的に行動できる
授業計画	<p><担当教員名> 基礎看護学領域教員</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 5月：OSCE 8月～9月：学内実習、臨地実習、症例カンファレンス、評価面談 2. 実習場所 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院、浜松医療センター、浜松ろうさい病院、北斗わかば病院 3. 実習展開 OSCE、実習オリエンテーション、臨地実習、症例カンファレンス、評価面談で構成する

アクティブ ラーニング	実習			
授業内の ICT 活用	特になし			
評価方法	実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度 50%、自己評価に基づく振り返り 30%、 実習記録 10%、課題レポート 10% 実習の到達目標に合わせ、項目ごとにルーブリックを用いて評価します。 OSCE に合格することが臨地実習に参加するための要件となります。			
課題に対する フィード バック	実習当日に実習記録等を基に担当教員と面談の時間を持ち、自己の課題と解決方法についてフ ィードバックを行います。			
指定図書	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I、医学書院、2022。 任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II、医学書院、2022。 三上れつ・小松万喜子編集：看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント（改訂第 2 版）臨床実 践能力を高める、南江堂、2021。			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	授業中に随時連絡			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	実習オリエンテーションの内容を基に、基礎看護技術論 I・基礎看護技術演習 I で学修してい る内容を復習します。加えて、看護過程の学修では事例を展開するために 1 コマあたり事前 20 分、事後 20 程度、1 年次に学修した解剖学、生理学の学修が必要です。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	ナーシングスキル： https://nursingskills.jp/ ，エルゼビアジャパン			
オフィス アワー	炭谷正太郎：1610 研究室 syoutarou-s@seirei.ac.jp 月曜日 11 時～13 時ですが、予約は不要です。この時間以外でも、在室していれば いつでも訪問してください。会議などで不在になる場合がありますが、メールなどでご連絡い ただければ調整します。			
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について	本科目は遠隔授業の実施科目ではありません。			

科目名	地域在宅看護学実習
科目責任者	岩瀬 美保
単位数他	2 単位 (90 時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	在宅看護の対象である療養者と家族の理解に努め、生活の場における看護実践の特性と看護過程を理解し、生活の場における看護技術の専門性を考察する実習を行う。 在宅療養者の生活の質の向上に向けた法や制度の活用を理解し、地域包括ケアシステムの重要性、多職種連携・協働を学ぶ実習を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象である療養者と家族を総合的に捉え理解する。 2. 訪問事例において、療養者とその家族を療養生活のアセスメントし、課題解決に向けての看護過程を考えることができる。 3. 訪問看護の実際から、療養者と家族の生活に応じた援助方法を理解する。 4. 地域包括ケアシステムにおける看護の継続性や多職種連携の実際を学び、療養者・家族を支える社会資源の活用について理解する。 5. 看護学生としての礼節を重んじ専門職種としての態度・姿勢・行動を行うことができる。
授業計画	<p>担当教員名：岩瀬美保 酒井昌子 山村江美子 小池武嗣</p> <p>実習期間：2 週間（臨地 6 日間）</p> <p>実習施設：訪問看護ステーション住吉、サテライト住吉第 2、浅田、貴布祢、高丘、細江、三方原、三ケ日、 坂の上訪問看護ステーションあずきもち、訪問看護ステーション上西 坂の上在宅医療支援医院 坂の上暮らしの相談所</p> <p>実習方法：実習時間は 8:30～16:45 である。 現地実習 6 日間（1 日約 2 件 スタッフとともに同行訪問を行う）</p> <p>学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に訪問したケースから 1 件を選択し、関連図作成、在宅看護計画を立案する <p>カンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニカンファレンス毎日 16:15～16:45：学生間で情報や体験を共有し学びを深める ・中間もしくは最終カンファレンス（1 週目金曜または 2 週目火曜に学生、実習指導者、教員で実施） ・学内のまとめ（2 週目木曜 9:00～12:00 学生、教員で 2 週間の訪問看護実習で学んだことを発表する） <p>課題レポート 在宅看護実習を通して学んだ「生活の場における看護実践の特性と看護師の専門性」について論じる（1200 文字以上 A4 用紙 2 枚まで）</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です				
授業内の ICT 活用	必要時、遠隔会議システムなどを活用したオンライン実習となります。				
評価方法	実習目標の達成度 10% 出席状況 10% 日々の記録・看護過程展開（関連図、看護計画）・課題レポート 50% 実習に取り組む姿勢や態度 30%				
課題に対する フィード バック	「毎日の記録」2枚は、翌日までに同行訪問スタッフに提出し、コメント欄の記載によってフィードバックを受ける。 関連図・看護計画の作成過程において、担当教員の個人指導によりフィードバックを受けて提出用に完成をさせる。				
指定図書	河原加代子（著者代表、2023）：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1.2 医学書院				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第6版	河原 加代子	医学書院		9784260047142
	地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第6版	河原 加代子	医学書院		9784260046893
参考図書	適宜提示します				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	強みと弱みからみた 地 域・在宅看護過程 第2 版	河野 あゆみ	医学書院		9784260050821
事前・ 事後学修	<p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度やその他関連する制度・社会資源について復習する ・ケアマネジメント、介護支援専門員の役割、地域在宅看護で関係する多職種について復習する ・実習施設の概要を整理しておく ・訪問者としてのマナーについて復習する <p>毎日毎回異なるご利用者宅に同行訪問をするため、同行訪問後の事後学修が必要となります。 疾患や使用薬剤の学修、利用している社会サービスなどを確認しましょう。 毎日の事後学修は「学習記録用紙」に記述します。</p>				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	<p>科目責任者：岩瀬美保（3413 研究室） miho-i@seirei.ac.jp 学外での実習指導に従事していることが多いため、メールでの連絡をお願い致します。</p> <p>酒井昌子（3410 研究室）：masako-s@seirei.ac.jp 山村江美子（3412 研究室）：emiko-y@seirei.ac.jp 小池武嗣（1607 研究室）：takeshi-k@seirei.ac.jp</p>				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師・保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	実習科目です				

科目名	急性期看護学実習
科目責任者	氏原 恵子
単位数他	2単位 (90時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	急性期（周術期）にある人とその家族の全体像を理解し、必要な看護実践を行うための知識・技術・態度を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期にある患者とその家族に関心を寄せ、適切な援助関係を築くことができる。 2. 周術期にある患者とその家族の特徴を理解し、看護過程を展開できる。 3. 周術期にある患者とその家族に対し、根拠に基づいた看護を実践できる。 4. 看護学生として責任ある態度で実習できる。(健康管理、礼儀、報告・連絡・相談、約束を守る)
授業計画	<p><担当教員名> 大石ふみ子、藤浪千種、乾友紀、氏原恵子、寺田康祐 ほか</p> <p><授業概要> 周術期にある患者を受け持ち、疾患・病態、検査・処置、手術療法、その他の治療による生体侵襲や心理的・社会的影響を理解し、予測される変化に対して科学的根拠に基づき看護を実践する。</p> <p><実習期間> 2週間</p> <p><実習施設> 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院の成人外科系病棟、手術室</p> <p><実習方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1名（または2名）の手術療法を受ける患者を受け持つ ・ 受け持ち患者の手術を見学する ・ 術後の合併症予防と回復促進の看護過程を展開する ・ 臨床実習指導者と共に看護系カウに沿って看護実践をする ・ 臨床実習指導者とカンファレンスを行う ・ 周術期看護について臨床講義を受ける <p>詳細は『急性期看護学実習要項』『臨地看護学実習の手引き』をもとに、実習オリエンテーションで説明します。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	<p>・ルーブリックを用いて評価します。ルーブリックは実習記録とともに配布し、また、WebClass にも掲載します。</p> <p>看護実践・実習記録：90% 実習態度：10%</p>				
課題に対する フィード バック	<p>事前学習ワークブックは実習初日に担当教員が確認をします。</p> <p>実習記録に関しては担当教員が毎日確認し、看護実践場面、カンファレンスなどを含めて個人・グループに対して成果や課題などをフィードバックします。</p>				
指定図書	指定図書はありません				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	<p>成人看護学 急性期看護 I 改訂版 4 版 林直子、佐藤まゆみ 南江堂</p> <p>周術期の臨床判断を磨く I 第 2 版 鎌倉やよい、深田順子 医学書院</p>				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	<p>周術期患者の看護には、解剖学、生理学、病理・病態学をはじめ成人看護学の授業で学んだすべての内容（知識）を活用する必要があります。1 年次からの学修の振り返りと事前学習ワークブックで知識の確認（復習）をするとともに、患者看護に必要な看護技術を再確認しておいてください。周術期患者の状態変化は非常に早いので事前準備の内容が実習成果に大きく影響します。日々の実習では、経過記録と振り返り・まとめ、自身の課題の確認<約 60 分>、知識、技術の再確認、看護過程の展開、翌日の行動計画立案<約 120 分>など少なくとも毎日の約 1</p>				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>以下の教材を活用し、看護技術や看護過程・疾患について学修してください。</p> <p>医学映像センター：「VISUALEARN CLOUD」</p>				
オフィス アワー	<p>質問や相談などは事前に Gmail でアポイントを取ってください。</p> <p>科目責任者：氏原恵子 1210 研究室 keiko-u@seirei.ac.jp</p> <p>各実習担当者への連絡方法は、初日のオリエンテーション時にお知らせします。</p>				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	慢性看護学実習
科目責任者	河野 貴大
単位数他	2単位 (90時間) 必修 5・6セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	慢性疾患により入院治療を受ける患者とともに健康問題を見出し、解決するための能力を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患が患者と家族に与える影響を身体的、心理的、社会的側面からアセスメントできる。 2. 病いをもって生活する患者と家族の療養上の問題を抽出し、看護過程を展開できる。 3. 病いをもって生活する患者と家族が、自立した生活を送るための支援を理解し、看護を一部実践できる。 4. 慢性疾患を有する対象への看護実践を通して、病気とともに生活することに対する看護者としての考えを深める。
授業計画	<p><担当教員名>：河野貴大、和田由樹、水島史乃、山崎淑恵、長山有香理 他</p> <p>【実習期間】2週間</p> <p>【実習施設】聖隷浜松病院、聖隷三方原病院の成人内科系病棟</p> <p>【実習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、学生同士のディスカッションを活発に行い、慢性疾患を有する対象への看護の理解を深めます。 ・臨地実習では、慢性疾患を有する対象を受け持ち、対象と家族に対する看護を実践します。 ・実習における注意点、実習施設の所在地は「臨地看護実習の手引き」を、学修進度や詳細な実習方法、事前学修に関しては「慢性看護学実習要項」を確認してください。 ・実習の具体的な学修方法・内容・進度などは、実習初日のオリエンテーションで説明します。

アクティブ ラーニング	実習科目です。				
授業内の ICT 活用	Web Class を使用し、一部の提出物、課題の管理を行います。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ループリックで評価します。 対象理解：20%、看護問題の抽出と実践（倫理観含む）70%、学内演習課題 10% 最終日に学生と教員で個人面談を行います。 				
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修課題についてはWebClassに掲載します。 実習中の記録は担当教員が毎日確認し、看護実践場面、カンファレンス等も含めて個人・グループに対して成果や課題をフィードバックします。 実習における各自の学びについて、グループメンバーとディスカッションすることで共有を行うとともに教員からフィードバックを行います。 				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	成人看護学 慢性期看護 南江堂（2年次「成人看護学概論」で購入済み） その他、対象に応じ学修に必要となるものを提示します。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	成人看護学 慢性期看護 （改訂第4版）	鈴木久美	南江堂	2023	9784524234363
事前・ 事後学修	実習中の事前・事後学修は、その日の看護の振り返り、翌日のケアに対する目的、安全性・根拠に基づいた計画、指導者・教員から提示された学修、ケアを提供するためのアセスメントなどを行うため、180分/日程度の学修が必要です。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	看護実践に必要な基本的知識、技術の確認のために活用してください。 「VISUALEARN CLOUD」				
オフィス アワー	科目責任者：河野貴大（看護学部）1608 研究室：takahiro-k@seirei.ac.jp 各実習担当教員への連絡方法は、実習オリエンテーション時にお知らせします。				
実務経験に 関する記述	本科目は、「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	老年看護学実習
科目責任者	加藤 貴子
単位数他	2単位 (90時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	健康並びに生活支援の必要な対象者を身体的・心理的・社会的な存在として統合的に理解し、その人のもてる力を活かした看護を考え実践する能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者に関心を持ち、適切なコミュニケーションの方法について考えることができる。 2) 加齢による身体的・心理的变化及び社会的役割の変化を理解することができる。 3) 疾病や障害を持ちつつ自立を目指しながら生きる高齢者についての理解を深められる。 4) 高齢者の身体的・精神的・心理的・社会的な特徴をふまえ、健康上・生活上の課題のアセスメントができる。 5) 個別性を考慮し、自立を目指した高齢者の生活支援を計画・実践・評価することができる。 6) 高齢者と家族を取り巻く保健・医療・福祉システムの現
授業計画	<p>【担当教員名】 加藤 貴子 山田紀代美 渡邊昌子 木村暢男 内藤智義</p> <p>【実習期間】 臨地実習 2 週間</p> <p>【実習施設】</p> <p>浜松市リハビリテーション病院 西山病院 北斗わかば病院 介護老人保険施設 介護老人保健施設：三方原ベテルホーム、 介護老人福祉施設：浜松十字の園、 介護付有料老人ホーム：浜名湖エデンの園、浜松ゆうゆうの里</p> <p>【臨地実習方法】 *日程は祭日などで変更することがある。 病院実習：1 週間：患者 1 名を受け持ち、看護過程を展開し、実践・評価をする。 施設実習：2 日間：高齢者とのコミュニケーションや個々の活動を通して、高齢者の現在の楽しみや生きがい、今後の希望などについて把握する。</p> <p>【評価について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の途中に中間評価を行い、後半の実習に生かす。 ・実習最終日に実習評価表を用いて自己評価し、実習目標の到達度、看護実践を可視化し、評価を行う。

アクティブ ラーニング	<p>実習科目です。</p> <p>臨地実習では、グループ事に毎日カンファレンスを行います。</p> <p>病院実習最終日は実習指導者が同席したカンファレンスを行い学びを深めます。</p> <p>施設実習では、施設での学びをグループ事に発表し、各施設の特性などを共有し意見交換を行います。</p>				
授業内の ICT 活用	<p>社会情勢、保健・医療・福祉システムの現状、地域連携、疾病や障害をもちつつ自立を目指しながら生きる高齢者などについて、幅広く知識を深め、より理解ができるよう、インターネットを活用して調べます。</p> <p>興味関心のある分野についての論文を読み、自己の看護観の発展をめざします。</p>				
評価方法	<p>1. 目標達成度 病院実習 60 点、施設実習 30 点、態度・意欲等 10 点</p> <p>*実習のレポートに関してのルーブリックを使用致しません。</p>				
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録へのコメントの記載、カンファレンスでの指導・助言を行います。 ・課題領域についての根拠やその後のアセスメント計画、実践・評価などについて適宜個別指導を行います。 ・実習の中間と終了後に自己評価・他者評価を行いフィードバックを行います。 				
指定図書	<p>系統看護講座専門Ⅱ 老年看護学、医学書院(2022)</p>				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	<p>ICF の理解と活用 上田敏著、萌文社(2021)</p> <p>ウェルネスの視点にもとづく 老年看護過程 第 2 版生活機能に焦点をあてたアセスメント 奥宮暁子編著、医歯薬出版株式会社(2019)</p>				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	<p>事前・事後学習：老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護援助論演習の講義資料を活用できるようにまとめてください。</p>				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>なし</p>				
オフィス アワー	<p>加藤貴子：看護学部 研究室：1707 研究室 e-mail：takako-k@seirei.ac.jp</p>				
実務経験に 関する記述	<p>本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>				
メディア 授業の実施 について	<p>実習科目です。</p>				

科目名	母性看護学実習
科目責任者	村松 美恵
単位数他	2単位 (90時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	母性看護援助論、母性看護援助論演習で習得した知識や技術を活用し、生活者としての妊産婦、新生児（胎児）、夫（パートナー）、家族に対して積極的な関心を持ち、適切な対人関係のもとに看護過程を用いて、親となり、新たな家族形成を必要とする人々に対する看護を学修する。ハイリスク新生児に接してその特徴を知り、児とその家族に対する看護を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産婦と新生児の特徴を理解し、看護の対象に積極的な関心を持ち、適切な対人関係のもと五感を用いて対象のニーズの特定、看護過程の展開や指導案の立案ができる。 2. 妊産婦と家族の権利を擁護し、看護者としての倫理観を養う。 3. 対象のタイミングを考えて、母性看護に特有な看護技術を実践できる。 4. 妊産婦と家族に必要な関係職種の専門性を生かした連携・協働、看護職に期待されている役割を理解できる。 5. 妊産婦との関わりを通して生命の尊厳について考えることができる。 6. リプロダクティブ・ヘルス/ライツに
授業計画	<p><担当教員名> 村松美恵、黒野智子、神崎江利子、室加千佳、藤本栄子</p> <p>実習実習：聖隷三方原病院、聖隷浜松病院の2施設と地域での子育て支援ひろば等である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥・新生児看護実習：1組の母子を1～2名の学生で、継続して受け持つ。 2. 産婦看護実習：選択実習とし、選択者は事前に課題レポートを提出する。WebClassで、選択希望調査および課題内容の提示する。帝王切開分娩を受け持つこともある。 3. 妊婦看護実習・子育て（育児）支援実習：助産外来、出産準備クラス（母親学級など）、母乳外来、地域の子育て支援事業等に参加し、妊娠中や退院後の母児（およびその家族）の理解につなげると共に看護者と関連職種との連携についても学修する。 4. ハイリスク児看護実習：聖隷三方原病院 NICU、聖隷浜松病院 NICU・GCU にてシャドウイング実習やハイリスク児を受け持つことがある。 5. ハイリスク妊産婦実習：聖隷浜松病院 MFICU にてシャドウイング実習や褥婦を継続して受け持つ実習を行う。聖隷三方原病院 C2 病棟にて妊婦を継続して受け持つこともある。 6. 妊産婦の日常生活を考え、保健指導案を作成する。 7. 緊急時（災害を含む）における女性への支援について考える。 8. 地域の男女共同参画の現状や課題について考える。 <p>※1～5のいずれかの対象を通して目標に達するように学修する。</p> <p>※実習スケジュールの詳細は、WebClassに掲載する。また、実習に関する様々な情報は、WebClassまたはGmailで配信するため必ず確認すること。</p>

アクティブ ラーニング	自ら進んで労を厭わず多面的な経験をし学ぶ実習科目である。				
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用してカンファレンスや実習内での理解度確認を行う双方向型実習を実施する。グループ発表のプレゼンテーションは、電子黒板を利用して行う。教員が作成した視聴覚教材を使用する。				
評価方法	実習姿勢・実習記録・レポートをもとに実習目標達成度についてルーブリック（自己評価表に記載された項目参照）を用いて評価する（100%）				
課題に対する フィード バック	学生の疑問に対しては、日々のカンファレンスや実習のまとめ、個別面談にてフィードバックする。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	母性看護学[1] 母性看護学概論 第14版	森 恵美	医学書院		9784260042253
	母性看護学[2] 母性看護学各論 第14版	森 恵美	医学書院		9784260042239
参考図書	下記参照。その他、実習中に随時紹介する。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	概論・リプロダクティブヘルスと看護 第2版	中込 さと子	メディカ出版	2022	9784840475310
	母性看護の実践 第2版	小林 康江	メディカ出版	2022	9784840475327
	母性看護技術 第5版	荒木 奈緒	メディカ出版	2022	9784840475334
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・「母性看護学 学修ノート」を見直すこと。 ・講義時の配布資料も活用すること。 ・母性看護実習室（母性領域側）の沐浴槽は、学生が自主的に練習できるように準備してあるため、使用希望時間を予約表に記載し、実習前までに必ず練習すること。沐浴槽の予約方法、使用方法等は、WebClass に掲示している。 ・実習の手引きをWebClass に掲示しているため、事前に確認しておくこと。 ・自主学習として、以下の URL 講座の視聴を勧める。 VISUALEARN クラウド https://seirei.visuale 				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習として、以下の URL 講座の視聴を勧める。 NursingSkill www.nursingskills.jp MNN-009 産褥の退院指導 看護 roo https://www.kango-roo.com/mv/ 母性看護技術 				
オフィス アワー	看護学部、2711 研究室。時間については、オリエンテーション時に提示する。 村松美恵 (mie-t@seirei.ac.jp)、黒野智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp) 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp)、室加千佳 (chika-mu@seirei.ac.jp) 藤本栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp)				
実務経験に 関する記述	本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア 授業の実施 について	同時双方向型メディア授業を1,2日間行う。実習生は、WebClass に掲載する指定期間内に事例検討を行い、各自で検討した内容をもとに、同時双方向メディア実習を行い、学びを共有する。				

科目名	小児看護学実習
科目責任者	山本 智子
単位数他	2単位 (90時間) 必修 5・6 セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	健康な乳幼児の保育活動に参加し、子どもとの関わり方や成長・発達に適した日常生活の援助の方法を学修する。病院や医療型障害児入所施設で健康を障がいの子どもや発達に障がいがある子どもを受け持ち、生命の尊厳と隣人愛を基盤として、看護過程を展開しながら子どもとその家族を総合的に理解し、子どもとその家族への看護を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. こども園実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の成長・発達の特徴について理解できる。 2) 家庭・地域社会など小児を取り巻く状況を理解できる。 3) 小児の成長・発達に適した生活援助を実践することができる。 2. 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の成長・発達の特徴が理解できる。 2) 小児の現在の健康障害および健康レベルが理解できる。 3) 健康障害・発達障害や入院・受診が小児と家族に及ぼす影響を理解できる。 4) 小児と家族の理解に基づき看護過程が展開できる。 5) 小児と家族の状況に応じた看護援助が実践できる。
授業計画	<p><担当教員名>山本智子、小出扶美子、宮谷 恵、市江和子 他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> ・こども園実習（保育園含む）は、聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園、聖隷こども園わかば、聖隷こども園桜ヶ丘、聖隷こども園ひかりの子、和光こども園、なごみこども園、聖隷浜松病院ひばり保育園、学内など。 ・病院実習は、聖隷浜松病院の小児病棟・小児科外来、聖隷三方原病院の小児病棟（病棟の状況によって小児科外来またはPICUの見学を含む）、聖隷おおぞら療育センター（医療型障害児入所施設）のうち、いずれか一ヶ所で行う。 2. 実習期間：臨地実習は2週間行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・学内実習日（実習オリエンテーション、記録の整理等）2日間 ・こども園実習3日間 ・病院実習5日間 3. 実習計画 <ul style="list-style-type: none"> ・こども園実習と病院実習の実習計画は、事前に配布する小児看護学実習配置表に記載している。 ・状況に応じてオンラインを活用して実習する。 4. 実習内容 <p>それぞれの実習の内容についての詳細は、実習オリエンテーションで説明をする。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目である。				
授業内の ICT 活用	インターネットから必要な情報を検索して、実習記録E-2（自己学習）、E-3（受け持ち患児の観察項目・内容）を学習する。 また、WebClass を使用する。				
評価方法	実習記録や実習に取り組む姿勢から各実習目標の達成度を実習評価表の評価基準にそって評価をする。こども園実習Ⅱはルーブリックを用いて評価を行う。				
課題に対する フィード バック	事前学習課題および実習中の課題はその都度確認し、個々にフィードバックを行う。				
指定図書	小児看護学概論、小児看護援助論で使用した教科書。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	実習中に随時提示する。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	WebClass 内にある「小児看護学実習」のこども園実習 事前学習課題と小児看護学実習事前学習課題を行い、小児の成長・発達や小児看護実践に必要な知識と看護技術について事前学習をする。 実習中の学習は教員の指示に従って、実習記録を進めていく。 実習用事前学習課題は 4 時間程度、実習中の日々の事前学習 1 時間、事後学習(実習の振り返り、看護過程の展開)は1~2 時間程度とする。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし。				
オフィス アワー	山本 智子：月曜日午後（1218 研究室）tomoko-y@seirei.ac.jp 小出 扶美子：月曜日午後（2713 研究室）fumiko-k@seirei.ac.jp 宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室）megumi-m@seirei.ac.jp 市江 和子：金曜日午前（1712 研究室）kazuko-i@seirei.ac.jp				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア 授業の実施 について	なし。				

科目名	精神看護学実習
科目責任者	清水 隆裕
単位数他	2単位 (90時間) 必修 5・6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	精神医学的問題を抱える、または精神看護的アプローチを必要とする患者・クライアント（以下対象者とする）への看護を実践を通じて学ぶ。それは対象者の置かれた状況に応じた看護過程を使った看護展開を行うことにより学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の全人的理解ができる。記録類の活用および対象者との対応等を通じ、対象者を身体/生物学的側面・精神/心理学的側面・文化/社会学的側面・実存/人間学的側面から説明ができる。 2. 精神看護診断を行うことができる。精神看護診断の手続きを実行、表記することができる。 3. 看護計画を立てることができる。インフォームド・コンセントに留意しながら、個々の対象者に対応した援助計画を立てることができる。可能な限り対象者の同意を得た看護計画とする。 4. 計画に基づいた日常生活の援助ができる。精神力
授業計画	<p>担当教員／清水隆裕、入江拓、小平朋江、松本有希</p> <p>実習場所は聖隷三方原病院精神科急性期閉鎖病棟(C6病棟)、精神科身体合併症閉鎖病棟(C5病棟)朝山病院精神療養閉鎖病棟(3病棟)、精神科急性期治療閉鎖病棟(4病棟)精神一般閉鎖病棟(5病棟)の5箇所のうち1箇所にて2週間おこなう。詳細は実習オリエンテーションで説明します。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	実習態度 40% (言葉遣い、スタッフ・患者への挨拶、積極性など) 実習内容 40% (対象者に対するかかわり、コミュニケーション、看護ケア) 実習記録 20% (提出期限や内容)				
課題に対する フィード バック	日々の記録物や自己学習課題へのコメント、実習の内容を振り返る面接セッション				
指定図書	精神看護学概論、精神看護援助論、精神看護援助論演習で用いた教科書				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	実習の進行状況に合わせて、随時連絡します				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	授業内容を復習して、実習に臨むこと。事後学修は適宜教員から示された課題を含め、記録や知識の整理等、毎日 120 分程度の自己学習を習慣づけてください。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	清水隆裕：看護学部 1214 研究室 e-mail : takahiro-sh@seirei.ac.jp 時間や各実習担当教員への連絡方法については、実習オリエンテーション時にお知らせします。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	聖隷看護基盤実習
科目責任者	室加 千佳
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	聖隷ゆかりの施設による実習で、「ともに生きる」ことや、「対人援助の営みを根底で支えているもの」について、そこに生きる方や支援する方と出会う体験を振り返ることにより、その体験の意味について建学の精神や聖隷の理念をふまえて言語化することで今後の学びの動機づけとする。本科目は看護専門職としてのあり方や、自身の生き方について考え学ぶ「聖隷の理念と歴史」と連動して展開される。看護を学ぶ上で基盤となる対人援助職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけ、発展させてゆくための動機づけとする。本科目は看護専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるための、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聖隷ゆかりの施設における創設期からの歴史的な変遷や活動を知ることができる。 2. キリスト教精神を基盤とした建学の精神や聖隷の理念について考え、意見を交わすことができる。 3. 聖隷ゆかりの施設での出会いや語りから、対人援助職としてのあり方を、聖隷の理念と関連させて意味づけ、自分の言葉で説明ができる。
授業計画	<p><担当教員名> 室加千佳、清水隆裕、入江拓、檉原理恵、熊澤武志、小池武嗣、隆朋也、遠山大成、内藤智義、長峰伸治、西川浩昭、水島史乃、宮谷恵、安田智洋</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間：4月～7月 2. 実習場所： <ul style="list-style-type: none"> 聖隷厚生園讃栄寮 聖隷厚生園信生寮 聖隷おおぞら療育センター 聖隷三方原病院 ホスピス 聖隷三方原病院 精神科デイケア 和合愛光園 みるとす 浜松十字の園 細江デイサービスセンター デイサービスセンターみをつくし 小羊学園三方原スクエア 浜名湖エデンの園 三方原ベテルホーム 3. 実習展開： <ul style="list-style-type: none"> 聖隷看護基盤実習は、実習オリエンテーション（学内）、臨地実習（臨地）、実習のまとめや実習成果報告会（学内）で構成する。

アクティブ ラーニング	多面的な経験をし学ぶ実習科目です。				
授業内の ICT 活用	データベース・シミュレーション教材を使用します。各施設のホームページへのアクセスを行います。				
評価方法	実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度 50%、実習記録・課題レポート 50%				
課題に対する フィード バック	担当教員と面談の時間をもち、フィードバックを行います。				
指定図書	実習内で適宜資料を提示します。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	実習内で適宜資料を提示します。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	聖隷の理念や各施設の特徴などを事前に調べ学修します。実習オリエンテーションの内容を基に、聖隷の理念と歴史で学修している内容を復習します。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	科目責任者：室加千佳 (研究室：2604、メール：chika-mu@seirei.ac.jp、オフィスアワー：水曜日Ⅲ限(11:45～13:00)) 事前にメールにてアポイントを取っていただくと確実です。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	学内実習にて2教室間の遠隔授業が含まれます。 担当教員が各教室に分かれて授業を進行します。 実習成果報告会の際は、発表の様子を動画撮影し、学びの共有を図ります。				

科目名	公衆衛生看護学概論
科目責任者	江口 晶子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 2セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	社会で生活するすべての人々を対象とし、個人・家族、集団を対象とした関わりだけでなく、社会全体にも働きかけていく公衆衛生看護の基本理念やその定義、倫理、諸学問との関係性及び、保健師の基本的能力や専門的能力について学修する。その上で、公衆衛生看護活動の場を知るとともに、各活動の場における保健師の役割と活動内容の特徴を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の基本理念、定義、倫理を理解する。 2. 公衆衛生看護の歴史を概観し、公衆衛生看護活動の意義や特徴を理解する。 3. 公衆衛生看護の対象としての個人・家族、集団、組織、地域を理解する。 4. 公衆衛生看護活動の基盤となる理論を理解する。 5. 公衆衛生看護活動に関わる主な法制度と活動の場を理解する。 6. 公衆衛生看護活動の場と、各活動の場における保健師の活動の概要を理解する。
授業計画	<p><担当教員名> 江口晶子、三輪眞知子、水田明子、長山ひかる、遠山大成</p> <p><授業内容></p> <p>第1回：公衆衛生看護の基本理念、定義、倫理 : 三輪眞知子</p> <p>第2回：公衆衛生看護の歴史と教育① : 三輪眞知子</p> <p>第3回：公衆衛生看護の歴史と教育② : 三輪眞知子</p> <p>第4回：公衆衛生看護の対象の捉え方（個人・家族、集団、組織、地域） : 江口晶子</p> <p>第5回：公衆衛生看護活動の基盤となる理論 : 江口晶子</p> <p>第6回：公衆衛生看護活動にかかわる主な法制度と活動の場 : 江口晶子</p> <p>第7回：公衆衛生看護活動の基本的な展開方法① : 江口晶子</p> <p>第8回：公衆衛生看護活動の基本的な展開方法② : 江口晶子</p> <p>第9回：都道府県・保健所における保健師の役割と活動内容 : ゲストスピーカー（静岡県保健師）</p> <p>第10回：政令指定都市における保健師の役割と活動内容 : ゲストスピーカー（浜松市保健師）</p> <p>第11回：市町村における保健師の役割と活動内容 : ゲストスピーカー（市町村保健師）</p> <p>第12回：産業における保健師の役割と活動内容 : 曾我恵里（本田技研工業）</p> <p>第13回：地域包括支援センターにおける看護の役割と活動内容 : 松山美津代（地域包括支援センター和合）</p> <p>第14回：個人・家族から地域への活動展開（自助・互助・共助・公助） : 全員</p> <p>第15回：まとめ : 全員</p>

アクティブ ラーニング	授業内で提示するテーマに対し、バズセッションやグループワークを行う。			
授業内の ICT 活用	Web Class や Google Forms を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問等を求め、全体で共有する。			
評価方法	定期試験：50%、小テスト：25%、課題提出物（ミニレポート）：25%			
課題に対する フィード バック	授業の中で課題のフィードバックを行う。 小テストの正答は、Web Class 上に復習問題の形で提示する。			
指定図書	下記参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
公衆衛生看護学概論 第 6 版	標 美奈子	医学書院		9784260047074
参考図書	下記参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
国民衛生の動向 2023/2024		厚生労働統計協会	2023	
事前・ 事後学修	授業時及び Web class を用いて、次回授業の事前課題や予習内容を提示する。 知識の定着状況を確認するため、第 1 回、第 3 回、第 4 回、第 5 回、第 7 回終了後、Web class を用いた小テストを行う。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	水曜日の昼休みとする。実習等で不在の場合もあるため事前にメール (akiko-e@seirei.ac.jp) でアポイントをとっていただくと確実です。			
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。			
メディア 授業の実施 について	なし			

科目名	公衆衛生看護技術論																																										
科目責任者	江口 晶子																																										
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター																																										
DP番号と科目領域	DP5 専門																																										
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。																																										
科目概要	個人・家族への支援と集団・組織への支援の双方を組み合わせながら、健康な社会づくりに取り組むことが保健師の専門性である。本科目では、保健師の対人支援の方法を総体的に表す保健指導に必要な技術を、基盤となる理論と合わせて学修する。地域で暮らす個人・家族、小集団への公衆衛生看護技術である、家庭訪問、健康相談、健康教育の方法を学ぶとともに、地域を構成する組織への公衆衛生看護技術として地区組織活動およびグループ支援の展開についても理解を深める。																																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健行動の基本と、個人・個人間・集団レベルの保健行動理論・モデルを理解できる。 2. 保健師の行う保健指導の目的と、保健指導を構成している技術を理解できる。 3. 支援対象としての家族のとらえ方と、家族を含めた支援方法の基本を理解できる。 4. 家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査の目的、対象、支援方法の特徴および展開過程を理解できる。 5. 地区組織活動・グループ支援の目的、方法、展開過程を理解できる。 																																										
授業計画	<p><担当教員> 江口晶子、水田明子、長山ひかる、遠山大成、三輪真知子</p> <p><授業内容></p> <table> <tr> <td>第1回</td> <td>公衆衛生看護に求められる機能と技術</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>個人・個人間レベルの保健行動理論・モデル①</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>個人・個人間レベルの保健行動理論・モデル②</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>保健師の行う保健指導の目的と特徴、技術</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>家族を単位とした対象理解と支援方法</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>家庭訪問の目的・対象 支援方法の特徴</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>家庭訪問の展開方法</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>健康診査の目的・対象 展開方法</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>健康相談の目的・対象 支援方法の特徴 展開方法</td> <td>: 聖隷福祉事業団 中西湖雪</td> </tr> <tr> <td>第10、11回</td> <td>健康相談の実際 (ロールプレイング)</td> <td>: 聖隷福祉事業団 中西湖雪</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>健康教育の目的・対象 支援方法の特徴 展開方法</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>健康教育の実際</td> <td>: 牧之原市 古川馨子</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>集団レベルの保健行動理論・モデル 地区組織活動・グループ支援の目的・対象、支援方法の特徴</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>地区組織活動・グループ支援の展開方法</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> </table>	第1回	公衆衛生看護に求められる機能と技術	: 江口晶子	第2回	個人・個人間レベルの保健行動理論・モデル①	: 江口晶子	第3回	個人・個人間レベルの保健行動理論・モデル②	: 江口晶子	第4回	保健師の行う保健指導の目的と特徴、技術	: 江口晶子	第5回	家族を単位とした対象理解と支援方法	: 江口晶子	第6回	家庭訪問の目的・対象 支援方法の特徴	: 江口晶子	第7回	家庭訪問の展開方法	: 江口晶子	第8回	健康診査の目的・対象 展開方法	: 江口晶子	第9回	健康相談の目的・対象 支援方法の特徴 展開方法	: 聖隷福祉事業団 中西湖雪	第10、11回	健康相談の実際 (ロールプレイング)	: 聖隷福祉事業団 中西湖雪	第12回	健康教育の目的・対象 支援方法の特徴 展開方法	: 江口晶子	第13回	健康教育の実際	: 牧之原市 古川馨子	第14回	集団レベルの保健行動理論・モデル 地区組織活動・グループ支援の目的・対象、支援方法の特徴	: 江口晶子	第15回	地区組織活動・グループ支援の展開方法	: 江口晶子
第1回	公衆衛生看護に求められる機能と技術	: 江口晶子																																									
第2回	個人・個人間レベルの保健行動理論・モデル①	: 江口晶子																																									
第3回	個人・個人間レベルの保健行動理論・モデル②	: 江口晶子																																									
第4回	保健師の行う保健指導の目的と特徴、技術	: 江口晶子																																									
第5回	家族を単位とした対象理解と支援方法	: 江口晶子																																									
第6回	家庭訪問の目的・対象 支援方法の特徴	: 江口晶子																																									
第7回	家庭訪問の展開方法	: 江口晶子																																									
第8回	健康診査の目的・対象 展開方法	: 江口晶子																																									
第9回	健康相談の目的・対象 支援方法の特徴 展開方法	: 聖隷福祉事業団 中西湖雪																																									
第10、11回	健康相談の実際 (ロールプレイング)	: 聖隷福祉事業団 中西湖雪																																									
第12回	健康教育の目的・対象 支援方法の特徴 展開方法	: 江口晶子																																									
第13回	健康教育の実際	: 牧之原市 古川馨子																																									
第14回	集団レベルの保健行動理論・モデル 地区組織活動・グループ支援の目的・対象、支援方法の特徴	: 江口晶子																																									
第15回	地区組織活動・グループ支援の展開方法	: 江口晶子																																									

アクティブ ラーニング	授業内で提示するテーマに対し、バズセッションやグループワークを行う。			
授業内の ICT 活用	Web Class や Google Forms を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問等を求め、全体で共有する。			
評価方法	定期試験：50%、小テスト：25%、ロールプレイング事前課題：5%、課題レポート：20%			
課題に対する フィード バック	授業の中や Web class を通して行う。 小テストの正答は、Web Class 上に復習問題の形で提示する。			
指定図書	標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動論 第 5 版 医学書院 公衆衛生がみえる 第 6 版 (2024-2025) メディックメディア 下記参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
公衆衛生看護学概論 第 6 版	標 美奈子	医学書院		9784260047074
【第 6 版】乳幼児健診 マニュアル	福岡地区小児科医会乳 幼児保健委員会／編集	医学書院	2019	9784260039352
公衆衛生看護技術 第 5 版	中村 裕美子	医学書院		9784260050029
参考図書	保健・医療スタッフのための健康行動理論の基礎 第 2 版 医歯薬出版株式会社			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	授業時及び Web class を用いて、次回授業の事前課題や予習内容を提示する。 知識の定着状況を確認するため、第 3 回、第 7 回、第 9 回、第 12 回、第 15 回終了後、Web class を用いた小テストを行う。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	水曜日の昼休みとする。実習等で不在の場合もあるため事前にメール (akiko-e@seirei.ac.jp) でアポイントをとっていただくと確実です。			
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について	なし			

科目名	公衆衛生看護技術論演習																														
科目責任者	長山 ひかる																														
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター																														
DP 番号と科目領域	DP5 専門																														
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。																														
科目概要	公衆衛生看護技術論で学んだ理論や技術に基づき、地域で生活する個人・家族・集団に対する公衆衛生看護活動を実践するための健康教育・家庭訪問等の公衆衛生看護技術を演習にて習得する。また、地域で生活する個人・家族・集団の健康課題をもつ事例について支援計画作成、実施、評価の過程を理解する。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康教育の目的、対象集団の特徴、方法をアセスメントし、健康教育の計画を立案し実施ができる。 2. 家庭訪問の一連の過程（情報収集、アセスメント、実施、評価）を理解し実施ができる。 3. 対象者と信頼関係を持って保健指導するための知識・技術・態度を身につける。 																														
授業計画	<p><担当教員名> 長山ひかる、遠山大成、水田明子、江口晶子、三輪眞知子</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回 集団の保健指導技術：健康教育の展開 (テーマに対する目的、目標の設定、対象の実態把握)</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第2回 集団の保健指導技術：健康教育の教案・媒体作成①</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第3回 集団の保健指導技術：健康教育の教案・媒体作成②</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第4回 集団の保健指導技術：健康教育の教案・媒体修正</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第5回 集団の保健指導技術：健康教育の実施準備（媒体の完成、発表準備）</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第6回 健康教育の実践とふりかえり</td> <td>教員全員</td> </tr> <tr> <td>第7回 健康教育の実践とふりかえり</td> <td>教員全員</td> </tr> <tr> <td>第8回 健康教育のまとめ</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第9回 家庭訪問による支援の展開</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第10回 家庭訪問による支援の展開（新生児訪問計画の作成）①</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第11回 家庭訪問による支援の展開（新生児訪問計画の作成）②</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第12回 家庭訪問における支援の展開（家庭訪問実施後のアセスメントと実施後の評価）</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第13回 新生児訪問の技術確認（グループ1）</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第14回 新生児訪問の技術確認（グループ2）</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第15回 家庭訪問のまとめ</td> <td>長山ひかる</td> </tr> </table>	第1回 集団の保健指導技術：健康教育の展開 (テーマに対する目的、目標の設定、対象の実態把握)	長山ひかる	第2回 集団の保健指導技術：健康教育の教案・媒体作成①	長山ひかる	第3回 集団の保健指導技術：健康教育の教案・媒体作成②	長山ひかる	第4回 集団の保健指導技術：健康教育の教案・媒体修正	長山ひかる	第5回 集団の保健指導技術：健康教育の実施準備（媒体の完成、発表準備）	長山ひかる	第6回 健康教育の実践とふりかえり	教員全員	第7回 健康教育の実践とふりかえり	教員全員	第8回 健康教育のまとめ	長山ひかる	第9回 家庭訪問による支援の展開	長山ひかる	第10回 家庭訪問による支援の展開（新生児訪問計画の作成）①	長山ひかる	第11回 家庭訪問による支援の展開（新生児訪問計画の作成）②	長山ひかる	第12回 家庭訪問における支援の展開（家庭訪問実施後のアセスメントと実施後の評価）	長山ひかる	第13回 新生児訪問の技術確認（グループ1）	全員	第14回 新生児訪問の技術確認（グループ2）	全員	第15回 家庭訪問のまとめ	長山ひかる
第1回 集団の保健指導技術：健康教育の展開 (テーマに対する目的、目標の設定、対象の実態把握)	長山ひかる																														
第2回 集団の保健指導技術：健康教育の教案・媒体作成①	長山ひかる																														
第3回 集団の保健指導技術：健康教育の教案・媒体作成②	長山ひかる																														
第4回 集団の保健指導技術：健康教育の教案・媒体修正	長山ひかる																														
第5回 集団の保健指導技術：健康教育の実施準備（媒体の完成、発表準備）	長山ひかる																														
第6回 健康教育の実践とふりかえり	教員全員																														
第7回 健康教育の実践とふりかえり	教員全員																														
第8回 健康教育のまとめ	長山ひかる																														
第9回 家庭訪問による支援の展開	長山ひかる																														
第10回 家庭訪問による支援の展開（新生児訪問計画の作成）①	長山ひかる																														
第11回 家庭訪問による支援の展開（新生児訪問計画の作成）②	長山ひかる																														
第12回 家庭訪問における支援の展開（家庭訪問実施後のアセスメントと実施後の評価）	長山ひかる																														
第13回 新生児訪問の技術確認（グループ1）	全員																														
第14回 新生児訪問の技術確認（グループ2）	全員																														
第15回 家庭訪問のまとめ	長山ひかる																														
アクティブ	演習科目であるため、グループワーク、グループ課題を取り入れる。																														

ラーニング				
授業内のICT活用	健康教育の発表はパワーポイントを使用し、プレゼンテーション能力向上にも活用する。 演習に関する事例及び様式をWebclassに掲載し活用する。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験及び再試験は実施しない。 ・事前課題 10%、演習記録 70% (健康教育教案: 20%、健康教育の実践: 20%、家庭訪問計画: 30%)、演習への取り組み態度 20% <p>*演習評価は、ルーブリックを用いる (健康教育)。</p>			
課題に対するフィードバック	ロールプレイや技術チェックの実践場面で個別にフィードバックをしていきます。			
指定図書	標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 第5版 医学書院 他は以下参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
【第6版】乳幼児健診マニュアル	福岡地区小児科医会乳幼児保健委員会／編集	医学書院	2019	9784260039352
公衆衛生看護技術 第5版	中村 裕美子	医学書院		9784260050029
公衆衛生看護学概論 第6版	標 美奈子	医学書院		9784260047074
参考図書	公衆衛生がみえる 第6版 (2024-2025)			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	公衆衛生看護技術論の再確認のための事前課題を教員より提示します。			
オープンエデュケーションの活用	授業で用いたスライドをWebclassで閲覧できるようにする。			
オフィスアワー	<p>実習等で学外に出ていることも多いため、メールにて面談の予約をしてほしい。各教員のオフィスアワーの時間が異なるため、授業初日に提示する。</p> <p>長山ひかる (2711 研究室:hikaru-n@seirei.ac.jp)</p> <p>遠山大成 (1680 研究室: taisei-t@seirei.ac.jp)</p> <p>江口晶子 (1207 研究室:akiko-e@seirei.ac.jp)</p>			
実務経験に関する記述	本科目は保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア授業の実施について	なし			

科目名	公衆衛生看護推論																								
科目責任者	水田 明子																								
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター																								
DP 番号と科目領域	DP5 専門																								
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。																								
科目概要	公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断の意義と展開方法を理解するとともに、地域の健康課題を解決するための計画から評価までの過程を理解する。また、一連の展開過程で用いる保健師としての考え方（推論）を学ぶ。																								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断の意義と方法を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 地域診断の視点と基本プロセスをふまえ、関連する理論モデルの活用上の考え方を説明できる。 地域診断のための情報源とその収集方法を説明できる。 収集した情報の分析、健康課題を特定する方法を説明できる。 特定した健康課題を解決するための対策の検討方法を説明できる。 公衆衛生看護活動における事業化・施策化の意義と方法を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 事業化・施策化の意味と意義を説明できる。 保健計画の策 																								
授業計画	<p><担当教員名> 水田明子、三輪眞知子、江口晶子、長山ひかる、遠山大成</p> <p><授業内容></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>公衆衛生看護活動の展開過程</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>地域診断に活用できる理論</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>地域診断の展開過程① 情報源と収集方法</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>地域診断の展開過程② 情報の分析方法、健康課題の抽出と優先性の判断</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>地域診断の展開過程③ 健康課題を解決する対策の検討 事業計画の立案・実施・評価</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>地域診断に基づく地域へのアプローチの実際</td> <td>掛川市：佐藤亜紀子</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>保健医療福祉における事業化・施策化</td> <td>三輪眞知子</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>保健計画の策定・実施・評価、地域ケアシステムの構築</td> <td>水田明子</td> </tr> </table>	第1回	公衆衛生看護活動の展開過程	水田明子	第2回	地域診断に活用できる理論	水田明子	第3回	地域診断の展開過程① 情報源と収集方法	水田明子	第4回	地域診断の展開過程② 情報の分析方法、健康課題の抽出と優先性の判断	水田明子	第5回	地域診断の展開過程③ 健康課題を解決する対策の検討 事業計画の立案・実施・評価	水田明子	第6回	地域診断に基づく地域へのアプローチの実際	掛川市：佐藤亜紀子	第7回	保健医療福祉における事業化・施策化	三輪眞知子	第8回	保健計画の策定・実施・評価、地域ケアシステムの構築	水田明子
第1回	公衆衛生看護活動の展開過程	水田明子																							
第2回	地域診断に活用できる理論	水田明子																							
第3回	地域診断の展開過程① 情報源と収集方法	水田明子																							
第4回	地域診断の展開過程② 情報の分析方法、健康課題の抽出と優先性の判断	水田明子																							
第5回	地域診断の展開過程③ 健康課題を解決する対策の検討 事業計画の立案・実施・評価	水田明子																							
第6回	地域診断に基づく地域へのアプローチの実際	掛川市：佐藤亜紀子																							
第7回	保健医療福祉における事業化・施策化	三輪眞知子																							
第8回	保健計画の策定・実施・評価、地域ケアシステムの構築	水田明子																							

アクティブ ラーニング	授業内で提示するテーマに対し、バズセッションやグループディスカッションを行う。				
授業内の ICT 活用	Web Class や Google Forms を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問への回答を求め、全体で共有する。				
評価方法	定期試験：50%、小テスト：30%、課題レポート：20% ※ 本科目は再試験を実施しない。				
課題に対する フィード バック	授業の中や Web class を通して行う。 小テストの正答は、Web Class 上に復習問題の形で提示する。				
指定図書	標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動論 第5版 医学書院 公衆衛生がみえる 第6版 (2024-2025) メディックメディア				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	公衆衛生看護学概論 第6版	標 美奈子	医学書院		9784260047074
	公衆衛生看護技術 第5版	中村 裕美子	医学書院		9784260050029
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 地区活動ならびに施策化のアセスメント・活動計画・評価計画の立案 第2版	佐伯 和子 編著	医歯薬出版	2018	9784263237106
事前・ 事後学修	授業の中や Web class を用いて、次回授業の事前課題や予習内容を提示する。 知識の定着状況を確認するため、第1回、第2回、第4回、第5回、第7回、第8回の授業終了後、Web class を用いた小テストを行う。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	初回授業時に提示します。				
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	公衆衛生情報処理演習																										
科目責任者	遠山 大成																										
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター																										
DP 番号と科目領域	DP5 専門																										
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。																										
科目概要	本科目では、公衆衛生看護活動に必要な情報を適切に扱う考え方を理解するとともに、量的データを収集・分析、可視化する方法を実践的に学ぶ。																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護活動に必要な情報を適切に扱う考え方が理解できる。 2. 公衆衛生看護活動に必要な情報（量的データ）の収集方法の実践的に理解できる。 3. 公衆衛生看護活動に必要な情報（量的データ）の集計、分析、可視化の方法を実践的に理解できる。 4. アンケート調査における調査票の作成、実施、集計及び資料化をすることができる。 5. 公衆衛生看護活動における健康・医療情報（健診・レセプトデータ）の活用の実践を理解できる。 																										
授業計画	<p><担当教員名> 遠山大成、江口晶子、長山ひかる、水田明子、隆朋也、三輪眞知子</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：公衆衛生看護活動とデータを活用した地域分析</td> <td>遠山</td> </tr> <tr> <td>第2回：公衆衛生看護活動に必要な統計データと入手方法</td> <td>遠山</td> </tr> <tr> <td>第3回：情報処理 Excel の活用① データ処理</td> <td>遠山</td> </tr> <tr> <td>第4回：情報処理 Excel の活用② ピボットテーブルの使用</td> <td>遠山</td> </tr> <tr> <td>第5回：情報処理 EZR の活用①</td> <td>隆</td> </tr> <tr> <td>第6回：情報処理 EZR の活用②</td> <td>隆</td> </tr> <tr> <td>第7回：情報処理 データの集計の効果的な表し方</td> <td>隆</td> </tr> <tr> <td>第8回：アンケート調査の方法（調査法の作成方法）</td> <td>遠山</td> </tr> <tr> <td>第9～10回 アンケート調査の実施①②（調査票の作成）</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第11回：健診・レセプトデータを活用した保健活動の実践</td> <td>藤田あけみ</td> </tr> <tr> <td>第12回：アンケート調査の実施③（調査票の集計）</td> <td>遠山</td> </tr> <tr> <td>第13～14回：アンケート調査の実施④⑤（集計結果に基づく資料作成）</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>遠山</td> </tr> </table>	第1回：公衆衛生看護活動とデータを活用した地域分析	遠山	第2回：公衆衛生看護活動に必要な統計データと入手方法	遠山	第3回：情報処理 Excel の活用① データ処理	遠山	第4回：情報処理 Excel の活用② ピボットテーブルの使用	遠山	第5回：情報処理 EZR の活用①	隆	第6回：情報処理 EZR の活用②	隆	第7回：情報処理 データの集計の効果的な表し方	隆	第8回：アンケート調査の方法（調査法の作成方法）	遠山	第9～10回 アンケート調査の実施①②（調査票の作成）	全員	第11回：健診・レセプトデータを活用した保健活動の実践	藤田あけみ	第12回：アンケート調査の実施③（調査票の集計）	遠山	第13～14回：アンケート調査の実施④⑤（集計結果に基づく資料作成）	全員	第15回：まとめ	遠山
第1回：公衆衛生看護活動とデータを活用した地域分析	遠山																										
第2回：公衆衛生看護活動に必要な統計データと入手方法	遠山																										
第3回：情報処理 Excel の活用① データ処理	遠山																										
第4回：情報処理 Excel の活用② ピボットテーブルの使用	遠山																										
第5回：情報処理 EZR の活用①	隆																										
第6回：情報処理 EZR の活用②	隆																										
第7回：情報処理 データの集計の効果的な表し方	隆																										
第8回：アンケート調査の方法（調査法の作成方法）	遠山																										
第9～10回 アンケート調査の実施①②（調査票の作成）	全員																										
第11回：健診・レセプトデータを活用した保健活動の実践	藤田あけみ																										
第12回：アンケート調査の実施③（調査票の集計）	遠山																										
第13～14回：アンケート調査の実施④⑤（集計結果に基づく資料作成）	全員																										
第15回：まとめ	遠山																										

アクティブ ラーニング	演習科目です。グループディスカッション、グループ課題を取り入れる。 公衆衛生看護活動における量的データを、表計算ソフト「エクセル」や統計ソフト「EZR」の自身のパーソナルコンピュータを活用して学習する。				
授業内の ICT 活用	随時、WebClass を活用して、学生が、自身の意見を述べたり、他者の意見を閲覧したりする。				
評価方法	授業態度 20%、課題の内容 80% (情報処理作成物 10%、アンケート作成 10%、アンケート集計内容 30%、課題レポート 30%)				
課題に対する フィード バック	授業の中で行う。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	数式不要！ はめ込み統計学	加藤 丈夫	医学書院		9784260045827
事前・ 事後学修	事前学修：授業内容やテーマについて、 事後学修：授業の内容をもとに復習の要点、各自が調べる内容を提示するので、各自その課題に取り組む。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> 授業で用いたスライドを Webclass で閲覧できるようにする。 Webclass のポートフォリオ機能を使用し学生の作成物を共有し、ピアレビューができるようにする 				
オフィス アワー	実習等で学外に出ていることも多いため、メールにて面談の予約をしてほしい。各教員のオフィスアワーの時間が異なるため、授業初日に提示する。 遠山大成 (1680 研究室: taisei-t@seirei.ac.jp) 長山ひかる (2711 研究室:hikaru-n@seirei.ac.jp) 江口晶子 (1207 研究室:akiko-e@seirei.ac.jp)				
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	公衆衛生看護活動論																														
科目責任者	水田 明子																														
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター																														
DP番号と科目領域	DP5 専門																														
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。																														
科目概要	本科目では、地域で生活するすべての人びとを対象とし、看護のさまざまな方法を用いて、あらゆるライフステージや健康レベルに焦点をあて支援を行う公衆衛生看護活動の意義と方法論を学修する。各ライフステージにおける対象の特徴と健康課題に応じた支援、特定の脆弱性や健康リスクをもつ人々の特性に応じた支援に必要な知識を学ぶとともに、学校、産業の場における保健師活動の方法についても理解することをめざす。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各ライフステージ及び健康課題の特性に応じた公衆衛生看護活動にかかわる法制度を、その動向を踏まえて理解することができる。 2. 各ライフステージ及び健康課題の特性に応じた公衆衛生看護活動の展開方法、保健師の役割と支援の特徴を理解することが解できる。 3. 各ライフステージの特性に応じた地域支援体制づくり、特定の健康課題をもつ人々に対応するための地域支援体制づくりの方法を理解することができる。 4. 学校、産業の各活動場所における対象の特徴と発達課題及び、活動場所の特性に応じた保健師の役割と活動方法を理解す 																														
授業計画	<p><担当教員名> 水田明子、長山ひかる、遠山大成、江口晶子、三輪眞知子</p> <p><授業内容></p> <table border="0"> <tr> <td>第1回：母子保健① 母子保健（親子保健）の動向と法制度</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第2回：母子保健② 母子保健（親子保健）における健康課題と支援の実際</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第3回：成人保健① 成人保健における健康課題と支援の実際</td> <td>遠山大成</td> </tr> <tr> <td>第4回：成人保健② 成人保健における健康課題への支援</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第5回：高齢者保健 高齢者保健活動の動向と法制度</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第6回：障害児(者)保健 障害者(児)保健活動に関する法制度と支援</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第7回：精神保健 精神保健活動に関する法制度と支援</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第8回：難病保健 難病保健活動に関する法制度と支援</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第9回：感染症対策① 感染症保健活動に関する法制度と支援</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第10回：感染症対策② / 主な感染症の動向と対策・支援（結核、エイズ）</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第11回：産業保健① / 産業保健の基礎知識、法制度と活動の動向 聖隷福祉事業団：中西湖雪</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回：産業保健② / 産業保健における健康課題と支援の実際 聖隷福祉事業団：中西湖雪</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回：学校保健① / 学校保健の基本的知識、法制度と活動の動向</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第14回：学校保健② / 学校保健における健康課題と支援の実際</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>水田明子</td> </tr> </table>	第1回：母子保健① 母子保健（親子保健）の動向と法制度	水田明子	第2回：母子保健② 母子保健（親子保健）における健康課題と支援の実際	長山ひかる	第3回：成人保健① 成人保健における健康課題と支援の実際	遠山大成	第4回：成人保健② 成人保健における健康課題への支援	水田明子	第5回：高齢者保健 高齢者保健活動の動向と法制度	水田明子	第6回：障害児(者)保健 障害者(児)保健活動に関する法制度と支援	水田明子	第7回：精神保健 精神保健活動に関する法制度と支援	水田明子	第8回：難病保健 難病保健活動に関する法制度と支援	水田明子	第9回：感染症対策① 感染症保健活動に関する法制度と支援	水田明子	第10回：感染症対策② / 主な感染症の動向と対策・支援（結核、エイズ）	水田明子	第11回：産業保健① / 産業保健の基礎知識、法制度と活動の動向 聖隷福祉事業団：中西湖雪		第12回：産業保健② / 産業保健における健康課題と支援の実際 聖隷福祉事業団：中西湖雪		第13回：学校保健① / 学校保健の基本的知識、法制度と活動の動向	池永理恵子	第14回：学校保健② / 学校保健における健康課題と支援の実際	池永理恵子	第15回：まとめ	水田明子
第1回：母子保健① 母子保健（親子保健）の動向と法制度	水田明子																														
第2回：母子保健② 母子保健（親子保健）における健康課題と支援の実際	長山ひかる																														
第3回：成人保健① 成人保健における健康課題と支援の実際	遠山大成																														
第4回：成人保健② 成人保健における健康課題への支援	水田明子																														
第5回：高齢者保健 高齢者保健活動の動向と法制度	水田明子																														
第6回：障害児(者)保健 障害者(児)保健活動に関する法制度と支援	水田明子																														
第7回：精神保健 精神保健活動に関する法制度と支援	水田明子																														
第8回：難病保健 難病保健活動に関する法制度と支援	水田明子																														
第9回：感染症対策① 感染症保健活動に関する法制度と支援	水田明子																														
第10回：感染症対策② / 主な感染症の動向と対策・支援（結核、エイズ）	水田明子																														
第11回：産業保健① / 産業保健の基礎知識、法制度と活動の動向 聖隷福祉事業団：中西湖雪																															
第12回：産業保健② / 産業保健における健康課題と支援の実際 聖隷福祉事業団：中西湖雪																															
第13回：学校保健① / 学校保健の基本的知識、法制度と活動の動向	池永理恵子																														
第14回：学校保健② / 学校保健における健康課題と支援の実際	池永理恵子																														
第15回：まとめ	水田明子																														

アクティブ ラーニング	授業内で提示するテーマに関するバズセッションを行う。			
授業内の ICT 活用	Web Class や Google Forms を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問等を求め、全体で共有する。			
評価方法	定期試験：60%、小テスト：30%、課題提出物（ミニレポート）：10% ※本科目は再試験を実施しない。			
課題に対する フィード バック	授業の中で課題のフィードバックを行う。 小テストの正答は、Web Class 上に復習問題の形で提示する。			
指定図書	標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動論 第5版 医学書院 公衆衛生がみえる 第6版 (2024-2025) メディックメディア 下記参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
公衆衛生看護学概論 第6版	標 美奈子	医学書院		9784260047074
公衆衛生看護技術 第5版	中村 裕美子	医学書院		9784260050029
【第6版】乳幼児健診マニュアル	福岡地区小児科医会乳幼児保健委員会／編集	医学書院	2019	9784260039352
参考図書	授業の中で随時提示する。			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	授業時及びWeb class を用いて、次回授業の事前課題や予習内容を提示する。 知識の定着状況を確認するため、第2回、第4回、第5回、第7回、第8回、第10回が終了後、Web class を用いた小テストを行う。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし			
オフィス アワー	初回の授業時に提示する。			
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。			
メディア 授業の実施 について	なし			

科目名	公衆衛生看護活動論演習
科目責任者	水田 明子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	本演習では、公衆衛生看護学実習を行う市町を対象に、地域特性や住民の健康、生活に関する情報を、既存資料や地区視診等により収集・整理、分析し、健康課題を検討するプロセスを通して、公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断の実際を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 対象地域の地域特性や住民の健康状態、生活実態に関する情報を収集・整理、分析することができる。 <ol style="list-style-type: none"> 対象地域の統計データを収集し、年次推移や全国・県のデータとの比較等から、現状および今後予測される傾向を記述できる。 対象地域の地区視診を実施し、コミュニティ・アズ・パートナーモデルの地域のアセスメントの視点を参考に、とらえた情報を整理、記述できる。 上記により得られた情報や分析結果を統合し、対象地域の地域特性および、住民の健康状態と生活実態の概要を説明できる。 対象地域の地域特性
授業計画	<p><担当教員名> 水田明子、長山ひかる、遠山大成、江口晶子、三輪真知子</p> <p><演習内容> 本授業は、「地域診断ノート」を用いた個人ワーク、公衆衛生看護学実習と連動した小グループによるグループワークと地区視診を組み合わせで行う。 ※ 詳細は「公衆衛生看護活動論演習要項」に示す。</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、公衆衛生看護学実習と連動した小グループによるグループワークの他、フィールドワーク（地区視診）を取り入れて実施する。			
授業内の ICT 活用	Web class のルーブリック機能を利用する。			
評価方法	グループワークの参加態度/貢献、成果発表会参加態度：20%、記録物（個人）：40%、グループ作成の成果物：15%、成果発表会内容（プレゼンテーション）：25% ※成果発表の内容はルーブリックを用いて評価を行う。			
課題に対する フィード バック	個人ワーク、グループワークの内容について、授業の中およびWeb class 等を利用して、随時、コメントやフィードバックを行う。 成果の発表会ではコメントカードを使用して教員および学生相互にフィードバックを行う。			
指定図書	公衆衛生がみえる 第6版（2024-2025） メディックメディア ※春semesterに購入する 厚生労働省 増刊 国民衛生の動向 2024/2025 厚生労働統計協会 下記参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
対象別公衆衛生看護活動 第4版	中谷 芳美	医学書院		9784260031875
公衆衛生看護学概論 第6版	標 美奈子	医学書院		9784260047074
公衆衛生看護技術 第5版	中村 裕美子	医学書院		9784260050029
参考図書	下記参照			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 地区活動ならびに施策化のアセスメント・活動計画・評価計画の立案 第2版	佐伯 和子 編著	医歯薬出版	2018	9784263237106
事前・事後学修	初回オリエンテーション時に提示する。			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	初回オリエンテーション時に提示する。			
オフィス アワー	オフィスアワーの時間は、初回オリエンテーション時に提示する。 水田明子 江口晶子（1207 研究室：akiko-e@seirei.ac.jp） 長山ひかる（2711 研究室：hikaru-n@seirei.ac.jp） 遠山大成（1680 研究室：taisei-t@seirei.ac.jp）			
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。			
メディア 授業の実施 について	なし			

科目名	公衆衛生看護学実習 I
科目責任者	遠山 大成
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、本学の所在する浜松市をフィールドに、地区視診や、各地区で行われている住民主体の活動に参加することで、人々の健康が、生活環境や所属する生活共同体の営みと密接不可分な関係を持つことを理解するとともに、生活共同体を構成する人々の潜在能力を引き出し、主体的な問題解決の実現を促す役割を持つ公衆衛生看護の意義を理解することをめざす。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習地区の生活環境や住民の生活状況を、生活者の視点で捉えることができる。 2. 実習地区で行われている住民組織（グループ）の活動の実際を理解することができる。 3. 実習地区の住民による「自助」「互助」の実際とその意義を理解することができる。 4. 住民の健康生活を守る上で、住民による「自助」「互助」の取り組みを支え、促す公衆衛生看護活動の意義を考えることができる。
授業計画	<p><担当教員名> 遠山大成、江口晶子、水田明子、長山ひかる、三輪真知子</p> <p><実習場所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市地域包括支援センター和合（冨塚、萩丘(住吉・和合)） ・浜松市地域包括支援センター高丘（萩丘(萩丘中、葵・高丘)） ・浜松市地域包括支援センター北浜（北浜） ・浜松市地域包括支援センター細江（細江、引佐、三ヶ日） ・浜松市地域包括支援センター於呂（中瀬、赤佐） ・上記の地域包括支援センター管内で活動する住民組織（高齢者サロン等） <p><実習内容></p> <p>小グループで、住民組織の活動への参加、当該住民組織の拠点のある地区の地区視診などを行う。</p> <p>フォトボイス、マインドマップの手法を用いて学びを整理する。</p> <p>学習成果報告会において学びを共有する。</p> <p>※ 詳細は「公衆衛生看護学実習 I 実習要項」にて示す。</p>

アクティブ ラーニング	実習				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	実習・自己学習・グループワークに取り組む姿勢および学習態度：20%、実習成果報告会の発表内容（発表資料を含む）：20%、実習記録：40%、課題レポート：20%				
課題に対する フィード バック	実習の中で随時行う。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	公衆衛生看護学概論 第 6 版	標 美奈子	医学書院		9784260047074
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	本科目と関連する公衆衛生看護学概論の授業資料を見直す。 初回オリエンテーション時に提示する。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	オフィスアワーの時間は、初回オリエンテーション時に提示する。 遠山大成（1680 研究室：taisei-t@seirei.ac.jp） 江口晶子（1207 研究室：akiko-e@seirei.ac.jp） 長山ひかる（2711 研究室：hikaru-n@seirei.ac.jp） 水田明子				
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	教職概論
科目責任者	太田 知実
単位数他	2単位 (30時間) 選択 1 Semester
DP番号と科目領域	教DP(1)教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	本講義では、教育実践記録やそれへの解説を読解・検討することを通じて、現代日本における学校教育・教職の社会的な意義について理解し、教員に求められる役割や資質能力について考察を深めることを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の職務内容を理解する。 2. 児童生徒を取り巻く現代的諸課題やそれへの対応方法について、基本的な考え方を理解し、自身の考えを深めることができる。 3. 教員個人としての力量形成のみならず、同僚教員や多職種の専門家との連携の重要性を理解し、そのあり方について考える。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：教員になるとは① 教員としての養護教諭</p> <p>第3回：教員になるとは② 学校教育の役割と社会的意義</p> <p>第4回：教員になるとは③ 教員の服務・研修</p> <p>第5回：児童生徒の“問題行動”の解釈・対応①—児童生徒理解を深める—</p> <p>第6回：児童生徒の“問題行動”の解釈・対応②—共感・受容的対応の意義—</p> <p>第7回：集団づくりにおける教員の役割①—集団として児童生徒を捉える—</p> <p>第8回：集団づくりにおける教員の役割②—集団づくりと発達保障—</p> <p>第9回：地域との連携における教員の役割①—地域社会における児童生徒—</p> <p>第10回：地域との連携における教員の役割②—地域との連携・協働—</p> <p>第11回：地域との連携における教員の役割③—授業づくりと生活指導—</p> <p>第12回：養護教諭の職務・意義 元養護教諭の講演 ゲストティーチャー：津田聡子先生（中部大学）</p> <p>第13回：現代的教育課題への対応① 現代的教育課題と教員の役割・責任</p> <p>第14回：現代的教育課題への対応② 多職種連携に向けた教員の役割</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	各講義内で提出する小レポート 60% 期末レポート 40%				
課題に対する フィード バック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	佐久間亜紀・佐伯胖編著『現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：指定した資料を読み、理解を深める。(2回～15回) ・事後学修：追加で関連資料・文献を調べたりして、授業内容について理解を深める(2～15回) ※毎回の事後学修の目安時間は40分です。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	太田知実(1210研究室) tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は、初回授業の際に提示します。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	学校保健	
科目責任者	池永 理恵子	
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2 Semester	
DP番号と科目領域	教DP(2)教職	
科目の位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。	
科目概要	学校保健安全法の目的は、児童生徒等及び教職員の健康の保持増進を図り、安全な学習環境を提供することにより、学校教育の円滑な実施とその成果を確保することにある。学校保健安全法が示す学校における児童生徒等の健康と安全を図るための教育保健活動について学習する。学校保健・学校安全に対する知識と態度を学ぶことを通して、公衆衛生看護領域の学校看護および地域看護に携わる看護職の学校保健活動の理解を深め、看護活動に活かすことができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健安全法の目的・意義を説明することができる。 2. 学校における学校保健（保健管理・保健教育）・学校安全（安全管理・安全教育）等における養護教諭の役割機能について理解を深めることができる。 3. 学校保健における教職員が果たす役割機能を述べるすることができる。 4. 組織活動に関わる地域及び社会資源について考えることができる。 5. 児童生徒の保健管理に必要な基礎的知識を身に付けて実践に活かせる。 	
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、学校保健の目的と意義、領域と構造 池永理恵子</p> <p>第2回 学校保健活動における教職員の役割と職務（養護実習Ⅱ報告会参加） 池永理恵子</p> <p>第3回 保健室の役割と健康観察 池永理恵子</p> <p>第4回 健康の現代的課題への対応①（子どもの成長発達と疾患理解） 池永理恵子</p> <p>第5回 児童生徒の健康状態の把握と指導① （健康診断・保健調査を含む） 池永理恵子</p> <p>第6回 児童生徒の健康状態の把握と指導②健診技術 池永理恵子</p> <p>第7回 保健教育と保健指導 池永理恵子</p> <p>第8回 健康の現代的課題への対応②（歯科保健） 池永理恵子</p> <p>第9回 学校保健と応急処置 ①（教職員の法的責任と役割） 池永理恵子</p> <p>第10回 学校安全と応急処置 ②（BLS・アレルギーへの対応） 池永理恵子</p> <p>第11回 特別支援教育と学校保健とのかかわり 池永理恵子</p> <p>第12回 学校保健における他職種との連携（社会福祉分野の専門職） 社会福祉学部教員</p> <p>第13回 養護教諭の職務の特質と保健室の機能を活かした健康相談 ゲストスピーカー 三木とみ子先生</p> <p>第14回 学校環境衛生 池永理恵子</p> <p>第15回 まとめ、養護教諭に求められる専門性と今日的課題 池永理恵子</p>	

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、毎回、グループワーク、ディスカッションを取り入れて実施する。 ・第6回では、健康診断の演習を行う。 ・第10回では、応急処置の基本について演習を行う。 ・第15回では保健指導のプレゼンテーション発表を行う。 				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業においては、プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。 				
評価方法	リアクションペーパー・課題提出物 20% グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加度 プレゼン発表等 20%、 (演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示します。) 筆記試験 60% 計 100%				
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題はコメントを添えて返却する。 ・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気付き、理解を深めたことを書く。なお、記載内容で重要なものは、次回の授業で回答したり紹介する。 ・講義では小テストまたはワークシート記入を行う。 				
指定図書	下記参照				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
学校保健実務必携	学校保健・安全実務研究会	第一法規	2017	9784474056732	
参考図書	なし				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
事前・ 事後学修	1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則 40 分とする。学修方法については、次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書（テキスト）の箇所を読んでから講義に臨むこと（1～11 回目）。 ・授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付するので、事前・事後学修に活用する。 ・授業後に、小テストまたはワークシート記入を行う。（1～14 回目）。 授業範囲の中から簡単な小テストを実施するので、理解度の評価に役立つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、各授業において紹介した 				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	講義内容の参考資料として、次のホームページを参照してください。 <ol style="list-style-type: none"> 1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」 <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm ・小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・特別支援教育 https://www.mext.go.jp/ 				
オフィス アワー	科目責任者：池永理恵子（研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします） オフィスアワーは、原則、講義日の講義終了後から 18 時までとします。 講義日以外でも対応できますが、会議等で研究室を不在にする場合もありますので、事前にメールで予約を入れていただくと、確実に時間をとって対応できます。 メールでの相談は随時受け付けています。				
実務経験に 関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	健康相談活動	
科目責任者	池永 理恵子	
単位数他	2単位 (30時間) 選択 5セメスター	
DP番号と科目領域	教DP(2)教職	
科目の位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。	
科目概要	教科書及びその他の資料を活用しながら、学校現場で起こっている児童生徒の心身の健康問題を明らかにし、養護教諭としての健康相談活動の在り方について理解を深める。 健康相談活動の基本的な考え方とその進め方、支援体制づくりについて事例を通して学ぶ。 養護教諭の健康相談に生かせる理論や方法をグループ演習等で実践的に学び、具体的な養護活動の展開について考察する。	
到達目標	養護教諭の職務の一つである健康相談について、身体的・心理学的・社会的な側面からアプローチする方法を学び、学校教育活動全体における健康相談の位置づけや重要性について学ぶ。 1. 児童生徒の健康課題が多様化している現状を踏まえ、養護教諭が行う健康相談活動・健康相談の変遷や理論、意義及び役割について理解することができる。 2. 養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かし、児童生徒に生じた心身の健康課題に則した健康相談活動のプロセスを理解して行動することができる。 3. あらゆる養護活動の実践を通して、心身の健康	
授業計画	第1回 オリエンテーション、健康相談の法的根拠 第2回 児童生徒の心身の健康課題の現状と背景 第3回 保健室の役割と健康相談の基本的な過程 第4回 健康相談に関わる社会資源と思春期心身症に関わる課題 第5回 性に関わる課題と対応 第7回 健康相談の基本的な対応 ①守秘義務と情報管理 第6回 ゲーム依存と摂食障害への対応 第8回 健康相談の基本的な対応②児童生徒の相談事例Ⅰ 第9回 健康相談の基本的な対応③児童生徒の相談事例Ⅱ 第10回 健康相談の基本的な対応④児童生徒の相談事例Ⅲ 第11回 健康相談の基本的な対応⑤保護者の相談事例Ⅳ 第12回 校内連携と記録、報告 第13回 自殺予防とストレスコーピング 第14回 思春期心身症に関わる課題 発表 第15回 学校における虐待の早期発見と対応、連携 まとめ 第16回 試験	池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子 池永理恵子

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、グループワーク、ロールプレイディスカッション等演習を取り入れて実施する。 ・第8回～11回ではロールプレイングを行う。 ・第14回では課題発表を行う 				
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業においては、プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。 				
評価方法	リアクションペーパー・課題提出物 20% グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加度 (演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示す。) 20% 筆記試験 60% 計100%				
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題については、コメントを添えて返却する。 ・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気づき、理解を深めたことを書く。なお、記載内容で重要なものは、次回の授業で回答したり紹介する。 				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	養護教諭の行う健康相談	大谷尚子	東山書房	2020	9784827815467
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則40分とする。学修方法については、次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書(テキスト)の箇所を読んでから講義に臨むこと。 ・授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付するので、事前・事後学修に活用する。 ・授業後に、小テストまたはワークシート記入を実施すること(1～14回目)。 授業範囲の中から簡単な小テストを実施するので、理解度の評価に役立つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、各授業において紹介した図書やイン 				
オープンエデュケーションの活用	講義内容の参考資料として、次のホームページを参照してください。 <ol style="list-style-type: none"> 1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」 <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm 2 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp/ 				
オフィスアワー	科目責任者：池永理恵子(研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします) オフィスアワーは、原則、講義日の講義終了後から18時までとします。 講義日以外でも対応できますが、会議等で研究室を不在にする場合もありますので、事前にメールで予約を入れていただくと、確実に時間をとって対応できます。 メールでの相談は随時受け付けています。				
実務経験に関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	特別支援教育概論
科目責任者	伊藤 信寿
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP (1) 教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	様々な理由により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学びます。
到達目標	1) 特別支援教育の制度について理解する。 2) 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 3) 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 4) 特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等> <担当教員名> 伊藤信寿、櫻井典啓</p> <p>第 1 回 特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 伊藤 目標：特別支援教育とは何かについて理解する 事前学修：特殊教育と特別支援教育の違いについてまとめる</p> <p>第 2 回 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害の特性について 伊藤 目標：視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の特性や支援について理解する 事前学修：脳性まひ、筋ジストロフィーの特性についてまとめる</p> <p>第 3 回 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の脳の発達特性と支援 櫻井 目標：発達障害や知的障害の脳機能の特性に合わせた支援の方法について理解する 事前学修：発達障害や知的障害の子どもへの支援で疑問に思うことをまとめる</p> <p>第 4 回 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の行動支援 櫻井 目標：ABC 分析の考え方に基づく効果的な行動支援の方法について理解する 事前学修：子どもの問題行動に対する支援の方法をまとめる</p> <p>第 5 回 特別支援教育の制度と合理的配慮の提供 櫻井 目標：特別支援教育の仕組みについて理解するとともに、ICF の視点から学校における合理的配慮の提供について理解する。 事前学修：合理的配慮とは何かまとめる</p> <p>第 6 回 特別支援教育における専門家の役割について 伊藤 目標：特別支援教育に関わる専門家とその役割について理解する 事前学修：どのような専門家がいるのかをまとめる</p> <p>第 7 回 教育、医療、福祉、家庭との連携について 伊藤 目標：医療や福祉の制度について学び、家庭を中心とした連携を理解する 事前学修：自分が考える理想の連携についてまとめる</p> <p>第 8 回 特別支援教育と学校づくり 伊藤 目標：特別支援教育における課題を考え、理想的な学校をつくる 事前学習：現時点において考えられる課題をまとめる</p>

アクティブ ラーニング	Think-Pair-Share を行っていきます。				
授業内の ICT 活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います				
評価方法	小テスト (50%)、レポート (30%)、授業中の課題 (20%) レポート、課題はルーブリックを用いない				
課題に対する フィード バック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらうものとし、質問や意見については授業中に回答する。 授業後半に確認テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	特別支援教育と障害児 の保育・福祉	杉本 敏夫	ミネルヴァ書房	2023	9784623095704
	作業療法学概論テキスト [電子版付]	東登志夫	南江堂	2023	9784524232710
事前・ 事後学修	事前学修：事前に提示した課題を遂行する (30 分程度) 事後学修：授業の配布資料と確認テストを復習する (10 分)				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください				
実務経験に 関する記述	本科目は特別支援教育巡回相談の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	道徳・特別活動・総合的な学習の時間																															
科目責任者	梅澤 収																															
単位数他	2単位 (30時間) 選択 5 Semester																															
DP番号と科目領域	教DP(1)教職																															
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。																															
科目概要	<p>(担当：米原 優)</p> <p>①道徳教育の意義、②日本における道徳教育の歴史、③『学習指導要領』における道徳教育の位置づけ、④道徳教育の基盤となる諸理論について概説する。また、いじめという現代社会において道徳教育が取り組むべき問題についても論じる。</p> <p>(担当：梅澤 収)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の意義・原理と主要な論点等について概説したうえで、指導計画の作成の考え方を養護教諭の立場から実践的に考察する。 ・特別活動の意義・目標や内容、そして主要な論点等を概説したうえで、養護教諭の立場から、特別活動の実践と課題について考察する。 																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における道徳 (の時間) の意義や主要な論点などを理解し、児童・生徒の発達に即した道徳教育の実践について考察する。 2. 総合的な学習の時間の意義・原理と主要な論点等を理解するとともに、養護教諭の立場から指導計画の作成の考え方を実践的に考察する。 3. 特別活動の意義・目標や内容を理解するとともに、養護教諭の立場から、特別活動の実践と課題について考察する。 																															
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回：道徳とは何か</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第2回：道徳教育の歴史① 戦前の道徳教育とその問題点</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第3回：道徳教育の歴史② 戦後の道徳教育とその教材</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第4回：道徳教育の現状 『学習指導要領』における道徳教育の目標と内容</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第5回：道徳教育の理論① コールバーグの理論</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第6回：道徳教育の理論② リップマンの理論</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第7回：道徳教育の新たな視点① いじめ問題と道徳教育</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第8回：道徳教育の新たな視点② ネットいじめと道徳教育</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第9回：総合的な学習の時間とは？ (成り立ちと学習指導要領の位置)</td> <td>梅澤 収</td> </tr> <tr> <td>第10回：総合的な学習の時間の理論</td> <td>梅澤 収</td> </tr> <tr> <td>第11回：総合的な学習の指導計画の作成の考え方とその課題</td> <td>梅澤 収</td> </tr> <tr> <td>第12回：総合的な学習における養護教諭の役割と可能性</td> <td>梅澤 収</td> </tr> <tr> <td>第13回：特別活動とは？ (成り立ちと学習指導要領の位置)</td> <td>梅澤 収</td> </tr> <tr> <td>第14回：特別活動の理論と実践</td> <td>梅澤 収</td> </tr> <tr> <td>第15回：特別活動における養護教諭の役割と可能性</td> <td>梅澤 収</td> </tr> </table>		第1回：道徳とは何か	米原 優	第2回：道徳教育の歴史① 戦前の道徳教育とその問題点	米原 優	第3回：道徳教育の歴史② 戦後の道徳教育とその教材	米原 優	第4回：道徳教育の現状 『学習指導要領』における道徳教育の目標と内容	米原 優	第5回：道徳教育の理論① コールバーグの理論	米原 優	第6回：道徳教育の理論② リップマンの理論	米原 優	第7回：道徳教育の新たな視点① いじめ問題と道徳教育	米原 優	第8回：道徳教育の新たな視点② ネットいじめと道徳教育	米原 優	第9回：総合的な学習の時間とは？ (成り立ちと学習指導要領の位置)	梅澤 収	第10回：総合的な学習の時間の理論	梅澤 収	第11回：総合的な学習の指導計画の作成の考え方とその課題	梅澤 収	第12回：総合的な学習における養護教諭の役割と可能性	梅澤 収	第13回：特別活動とは？ (成り立ちと学習指導要領の位置)	梅澤 収	第14回：特別活動の理論と実践	梅澤 収	第15回：特別活動における養護教諭の役割と可能性	梅澤 収
第1回：道徳とは何か	米原 優																															
第2回：道徳教育の歴史① 戦前の道徳教育とその問題点	米原 優																															
第3回：道徳教育の歴史② 戦後の道徳教育とその教材	米原 優																															
第4回：道徳教育の現状 『学習指導要領』における道徳教育の目標と内容	米原 優																															
第5回：道徳教育の理論① コールバーグの理論	米原 優																															
第6回：道徳教育の理論② リップマンの理論	米原 優																															
第7回：道徳教育の新たな視点① いじめ問題と道徳教育	米原 優																															
第8回：道徳教育の新たな視点② ネットいじめと道徳教育	米原 優																															
第9回：総合的な学習の時間とは？ (成り立ちと学習指導要領の位置)	梅澤 収																															
第10回：総合的な学習の時間の理論	梅澤 収																															
第11回：総合的な学習の指導計画の作成の考え方とその課題	梅澤 収																															
第12回：総合的な学習における養護教諭の役割と可能性	梅澤 収																															
第13回：特別活動とは？ (成り立ちと学習指導要領の位置)	梅澤 収																															
第14回：特別活動の理論と実践	梅澤 収																															
第15回：特別活動における養護教諭の役割と可能性	梅澤 収																															

アクティブ ラーニング	○ディスカッション、○グループワーク、○プレゼンテーション				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	(担当：梅澤 収) 最終試験 (80%)、授業への参加度等 (20%) (担当：米原 優) 最終試験 (80%)、授業への参加度等 (20%)				
課題に対する フィード バック	なし				
指定図書	なし				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
参考図書	授業開始時に提示する。				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
事前・ 事後学修	なし				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	教育課程・方法論
科目責任者	太田 知実
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター
DP番号と科目領域	教DP(1)教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	本講義では、教育課程の意義、編成の方法や教育の方法・技術に関して、理解・考察を深めることを目的とする。そもそも教育課程とは何か、学校教育でそれらはどういう意義を有するのかについて、諸理論や歴史の変遷を踏まえながら理解する。とくに、近年重視されるカリキュラム・マネジメントの意味について理解し、それとどう向き合うかについて探究する。さらに、教育の目的に適した指導技術を身につけるべく、教育方法の理論や教材・情報機器の活用方法について理解し、考察を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の歴史を踏まえ、教育課程の編成の目的及び方法を理解する。 2. 学習指導要領やカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、説明できる。 3. 教育方法の基礎的理論と実践を理解し、目的に応じた指導技術を理解し、模擬的に実施することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：教育課程とは何か① 教育課程をめぐる基本的概念</p> <p>第3回：教育課程とは何か② 教育課程の意義・役割と機能</p> <p>第4回：教育課程とは何か③ 教育課程編成の原理と類型</p> <p>第5回：学習指導要領① 学習指導要領の変遷</p> <p>第6回：学習指導要領② 教科書と学習指導要領</p> <p>第7回：学習指導要領③ 社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメント</p> <p>第8回：教育方法の理論① 教育目標・評価論</p> <p>第9回：教育方法の理論② 学力論</p> <p>第10回：教育の技術① 教具・教材と授業づくり</p> <p>第11回：教育の技術② アクティブラーニングと情報機器の活用</p> <p>第12回：模擬授業の実施① 学習指導案の作成</p> <p>第13回：模擬授業の実施② 学生による模擬授業-1</p> <p>第14回：模擬授業の実施③ 学生による模擬授業-2</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	学生による模擬授業、グループディスカッション、グループワーク				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	各講義内で提出する小レポート 50% 課題提出物（指導案等） 30% 授業態度（模擬授業も含む） 20%				
課題に対する フィード バック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	事後学修：授業で扱った内容について、新聞や読書を通じて理解を深める（2～15回） （事後学修の目安 1回につき80分）				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	太田知実（1210研究室）tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は初回の授業時に提示します				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	生徒指導の理論と方法
科目責任者	内崎 哲郎
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP (1) 教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	多様化する児童生徒の状況、家庭の状況、社会の状況に対する理解を深め、生徒指導の理論を理解するとともに、具体的事例を通して生徒指導の実践力を身に付ける。そのために生徒指導についての理論的な理解を図り、実践的な技術の習得を目指す。また、教職員や関係機関と連携しながら、組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養の涵養を目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒指導の意義や原理を理解できる。 2. 児童生徒の主体性と自己有用感を育むために必要な生徒指導体制についての視点を理解できる。 3. 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携の在り方を理解できる。
授業計画	<p>第 1 回：生徒指導の意義と原理</p> <p>第 2 回：生徒指導体制</p> <p>第 3 回：小学校の生徒指導体制</p> <p>第 4 回：児童理解</p> <p>第 5 回：問題行動</p> <p>第 6 回：いじめ</p> <p>第 7 回：不登校</p> <p>第 8 回：生徒指導に関する法や制度</p>

アクティブラーニング	講義中心の授業であるが、レポートの作成を通して、表現志向で、思考力を活性化させるため、アクティブラーニングの3つの柱である「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識したレポート課題を出す。				
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行は、プロジェクターや教材提示装置を活用して行う。 ・ビデオ映像を活用する。 				
評価方法	30%：レポート（各回の授業内容について概要を把握し、それに対する自分なりの気付きや感想、考察等を書く。） 20%：授業、レポートへの取組姿勢 50%：定期試験（ルーブリックを用いて評価する。）				
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業で出した課題について提出させたレポートの解説・コメントを、授業の始めに行う。 ・定期試験（生徒指導の意義や目的について理解し、組織的に生徒指導を推進していくための知識を身に付けたか、ルーブリックにしたがって評価する。） 				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	なし				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。				
実務経験に関する記述	本科目は「小学校教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	教育相談の理論と方法	
科目責任者	長峰 伸治	
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター	
DP番号と科目領域	教DP(1)教職	
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。	
科目概要	学校教育場面で児童生徒の心の問題に対応する上で必要なカウンセリング(傾聴)技法についてロールプレイなどの体験学習を行う。また、不登校(保健室登校)、心身症、いじめ、児童虐待などの問題に対する知識と、実際の学校での援助のあり方(個別及び連携)について事例検討を通して理解を深める。	
到達目標	1. 教育相談の意義、及び、学校教育場面での児童生徒の心理的問題(不登校、保健室登校、心身症、いじめ、児童虐待など)について理解する。 2. 1の心理的問題に対して養護教諭が行う支援、特に、カウンセリング技法、校内支援体制作り、専門機関との連携の仕方について、ロールプレイや事例検討を通して理解する。	
授業計画	第1回：学校教育における教育相談の意義 長峰伸治 第2回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法1 長峰伸治 ：傾聴技法の基本 第3回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法2 長峰伸治 ：傾聴技法のロールプレイ 第4回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法3 長峰伸治 ：カウンセリングの実際 第5回：教育相談場面での児童生徒対応のロールプレイ 長峰伸治 第6回：カウンセリング的コミュニケーションについての事例検討 長峰伸治 第7回：いじめに関する理解とその対応1：講義 大須賀優子先生 第8回：いじめに関する理解とその対応2：演習 大須賀優子先生 第9回：不登校児童生徒の理解と支援 長峰伸治 第10回：児童虐待の理解と支援1：基本的事項の理解 長峰伸治 第11回：児童虐待の理解と支援2：学校における支援 長峰伸治 第12回：児童虐待の理解と支援3：事例検討 長峰伸治 第13回：模擬事例検討(グループワーク)1：不登校の事例 長峰伸治 第14回：模擬事例検討(グループワーク)2：保健室登校の事例 長峰伸治 第15回：模擬事例検討(グループワーク)3：心身症の事例 長峰伸治	

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング的コミュニケーション・態度に関するロールプレイを行う。 ・教育相談に関わる事例検討をグループで検討して、その内容を全体で共有する。 				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	授業への取り組み状況(ロールプレイの実施、振り返りシートへの記入、グループでの事例検討・発表など) 50%、事例課題レポート(2回) 20%、最終レポート30%				
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイの振り返りをシートに記入したものに対して、コメントする。 ・グループで行った事例検討の発表に対して、その場でフィードバックをする。 				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中に実施したロールプレイや事例検討に関して、配布された資料を基に毎回復習を行う。事後課題に取り組む。授業内容について疑問やさらに詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただくと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。				
実務経験に 関する記述	本科目は臨床心理士の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	学校体験活動
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP (3) 教職
科目の位置付	(1) と (2) を活用して児童生徒の健康問題に対応できる実践力を身につけている。
科目概要	学校や教員の仕事について知り、学校教員を目指す上での目的意識を高めるために、実際に学校現場に入って、教育活動の補助や児童生徒との関わりなどの体験活動を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校現場に入って教育活動の補助等、教職の実際を体験することによって、学校・教員・児童生徒についての理解を深める。 2. 学校での体験活動を通して、自らの学校教員としての適性について考え、教職に進む上での自らの課題や目標を見つける。
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、池永理恵子、太田知実</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>○学校体験活動に関する事前指導 (学内)</p> <p>◎聖隷クリストファー中・高等学校にて体験活動 (2 年次 8, 9 月に実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話(中・高等学校の管理職、養護教諭、生徒指導主任、スクールカウンセラー等) ・一日保健室体験 <p>○学校体験活動の振り返りと事後指導 (学内)</p>

アクティブ ラーニング	学校現場において体験活動を行う。				
授業内の ICT 活用	体験活動の振り返りの発表では、プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う場合がある。				
評価方法	各回の体験活動への取り組み態度、報告・感想 80%、最終レポート (体験活動の振り返り) 20%				
課題に対する フィード バック	各回の体験活動についての報告に対して、教員がフィードバックを行う。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	各回の体験活動ごとに報告を記述して、自分なりの振り返りを行う。少なくとも 40 分以上は行う。一通り終えた後、体験活動の振り返りに関するレポートを作成すること(最低 80 分)。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 池永理恵子(看護学部) 1711 研究室 rieko-i@seirei.ac.jp 太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	養護実習事前事後指導 (2022年度入学生)
科目責任者	池永 理恵子
単位数他	1単位 (15時間) 選択 5・6セメスター
DP番号と科目領域	教DP(1)教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	事前指導においては、養護実習に際して必要な基本的事項に関する指導および準備活動、事後指導においては、養護実習の取り組みについての振り返りを実施する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 事前指導では、養護実習の意義や目的、内容をよく理解し、実習参加にあたっての基本的な知識や態度等を身につける。 3. 事後指導では、学校現場における様々な実習経験をもとに、自らの実践を総括し、実習の成果と課題を明らかにする。
授業計画	<p><担当教員名> 池永理恵子、長峰伸治、太田知実</p> <p>◎養護実習Ⅰ(4月実施)について</p> <p><実習前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、実習の準備、心構え ・健康診断の各検査・計測についての実施方法、留意事項の講義(練習) ・学校保健管理ソフトの使い方の演習(ゲストスピーカー:ソフト開発会社職員) ・救命講習受講(3時間コース) ・確認テスト <p><実習後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返りによる学びの共有(グループ単位で発表会) <p>◎養護実習Ⅱ(9月実施)について</p> <p><実習前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に関わる個人面接(講義外) ・養護実習Ⅱ概要、事前準備、学校での服務規程、守秘義務と健康管理等 ・応急処置シミュレーション ・実習記録の書き方 ・指導案作成と保健指導の発表 ・実習目標と学校概要発表 ・発達障害児童生徒の理解(ゲストスピーカー:深澤裕子先生) ・学校教育現場の現状について(ゲストスピーカー:飯田真也先生) ・確認テスト <p><実習後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習のまとめ(発表会) 1年または2年生の養護教諭免許取得希望者が参加できるよう、調整 <p>※実施日程などの詳細についてはその都度連絡する</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・養護実習 I の事前指導において、学校保健管理ソフトの使い方について、ソフト開発者による指導のもと、実際にパソコンを使って演習する。 ・実習の振り返りの発表会では、プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う予定。 				
評価方法	授業への取り組み態度 30%、振り返りのレポート 20%、確認テスト 50%				
課題に対する フィード バック	・事後指導における発表や個人の振り返りの内容に対してフィードバックする。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	主体的に学ぶ養護実習 ガイドブック 教育現 場で必要な力を身につ けるために	岡本啓子／編集・執筆 代表 中島敦子／編 集・執筆代表 西牧眞 里／編集・執筆代表	ジアース教育新社	2017	9784863713994
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	養護実習実施要項をよく読んでおくこと。また、それぞれの指導を受けた後は、復習や振り返りをしっかり行うこと。少なくとも 40 分以上は行う。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 池永理恵子(看護学部) (研究室、rieko-i@seirei.ac.jp) 太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	養護実習Ⅱ（2022年度入学生）
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	3単位（135時間） 選択 5セメスター
DP番号と科目領域	教DP(2)教職
科目の位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
科目概要	学校現場での実務体験または児童生徒や教職員との関わりを通して、教育全般にわたる基本的理解や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 学校における教育計画やその運営（学校の組織、教育目標、教育課程）、学校における養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、学校保健活動、家庭や地域との連携のあり方、児童の健康や生活実態を理解する。 3. 学校の教育計画や児童生徒の健康および生活実態を理解するとともに、保健室経営や養護活動など養護教諭の職務に関する基本的な実践的能力を身につける。
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、池永理恵子、太田知実</p> <p><実習時期・期間・場所> 3年次9月（3週間） 学生自らが依頼して許可を得た学校</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。				
授業内の ICT 活用	なし。				
評価方法	養護実習の評価は、「実習校による評価」と「大学による評価」とを総合して行う。実習中の学生の態度・理解・行動に関する「実習校による評価」を参考にしながら、養護実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。				
課題に対する フィード バック	・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	実習前は事前指導で学んだことを毎回しっかりおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導や教職実践演習につなげる。少なくとも40分以上は行う。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 池永理恵子(看護学部) 1711 研究室 rieko-i@seirei.ac.jp 太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	看護倫理
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	生命倫理、看護倫理の歴史と主要な概念を学習し、対象者の人権を尊重し擁護した看護実践について考える。看護実践で直面する倫理的ジレンマに対する倫理意思決定の方法を学び、専門職としての倫理規定について考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理および生命倫理について説明できる。 2. 看護実践に関わる倫理原則、概念を説明できる。 3. 倫理的意思決定のプロセスを説明できる。 4. 受精から終末期における看護に関わる倫理的課題を説明できる。 5. 実習での経験を振り返り自らの専門性における倫理的責務を説明できる。
授業計画	<p>第1回 看護倫理と倫理の基本原則 大石 ふみ子 看護倫理とは：看護と倫理、看護専門職と職業倫理（日本看護協会倫理綱領） 生命倫理とは：生命倫理の研究領域 倫理上の基本原則／看護における倫理的問題・ジレンマ</p> <p>第2回 倫理的意思決定のプロセス 大石 ふみ子 1) 倫理的判断のよりどころ 2) 倫理的意思決定のプロセス 3) 看護師の倫理的責務</p> <p>第3回 患者の権利と倫理に関する基本概念（用語） 大石 ふみ子</p> <p>第4回 母性看護における倫理的課題 藤本 栄子</p> <p>第5回 小児看護における倫理的課題 市江 和子</p> <p>第6回 精神看護における倫理的課題 入江 拓</p> <p>第7回 在宅看護における倫理的課題 酒井 昌子</p> <p>第8回 成人看護における倫理的課題 大石 ふみ子</p>

アクティブラーニング	事例の活用、授業内での演習、webclass 等による事前学修課題の提示と授業内でのフィードバックを行い、専門職としての責務と実習での内省を促していく。				
授業内のICT活用	課題提出に使用				
評価方法	第4回～第8回のリアクションペーパーやレポート：50% 最終課題レポート：50%（第1～3回の内容を受けて作成） レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。				
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや毎回のレポートで対応が必要なコメントや質問については、webclass を用いて回答し、共有する。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	授業中に随時連絡				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	授業前課題：webclass または前回授業の最後に、次回授業までの課題を提示する（事前学修40分 2～8回）。 授業後課題：各論講義（第4回～第8回）毎に、提示される課題に回答／レポート提出をする（各40分×5回） 最終学年の授業のため、領域別の各看護実習や統合実習などで体験した事例を事前に復習して参加する。				
オープンエデュケーションの活用	なし				
オフィスアワー	臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。オムニバスで講義を担当する教員については、講義後に質問の時間を設けることを基本とします。 大石ふみ子(1219 研究室: fumiko-o@seirei.ac.jp)、水曜日 12:00～13:00 藤本 栄子 (1714 研究室: eiko-f@seirei.ac.jp) 入江 拓(3403 研究室: taku-i@seirei.ac.jp) 市江 和子(1712 研究室: kazuko-i@seirei.ac.jp)				
実務経験に関する記述	本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	実施しない。				

科目名	看護管理論Ⅱ
科目責任者	檉原 理恵
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	社会から求められる役割の変化に伴う看護組織の在り方について、また看護サービスを提供するシステムについて諸理論を活用し理解を深め、実習で体験した現象について客観的に考察する視点を培うことを目的とする。また、グループワークを通し自己の考えを論理的に主張し、他者の意見を傾聴しながらディスカッション能力を身につける。看護の専門性を理解し、看護組織として看護ケアを効果的に提供するための方略について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護単位の運営に関する諸原則を理解する。 2. 質の高い看護の提供に関わる要因を理解する。 3. 看護サービス管理上の現象を分析する。 4. 看護単位における改善策を考案する。
授業計画	<p>第 1 回：看護サービス管理の基礎</p> <p>第 2 回：看護提供方式とそれぞれの特徴</p> <p>第 3 回：看護の質向上を組織で目指すために</p> <p>第 4 回：働きやすい職場環境づくり</p> <p>第 5 回：看護サービス管理における現象の分析（グループワーク）</p> <p>第 6 回：看護単位における改善策の考案（グループワーク）</p> <p>第 7 回：看護単位における改善策の考案（グループワーク）</p> <p>第 8 回：グループ発表 まとめ</p>

アクティブ ラーニング	事前課題を基に授業を展開します。 授業内で毎回グループディスカッションを実施します。				
授業内の ICT 活用	WebClass を用いて出席確認、リアクションを入力します。グループワーク時には ppt を作成します。				
評価方法	授業への取り組み 20%、課題発表 20%、課題レポート 60%				
課題に対する フィード バック	講義内容のフィードバックは次回の授業時にお伝えします。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	看護管理学 (改訂第3版)	手島恵	南江堂	2023	9784524204212
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	1【事前学修】 *单元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読んでください。 【事後学修】 *授業内容、テキストの振り返りをします。ディスカッションした内容を個人学修で振り返ります				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	檜原理恵：1616 研究室 連絡先 rie-k@seirei.ac.jp 田口実里：1619 研究室 連絡先 misato-t@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	災害看護論
科目責任者	乾 友紀
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	災害看護とは、災害が人々のいのち・健康と生活に及ぼす影響を可能な限り少なくする看護活動である。具体的には平常時の減災・予防活動、発災時の緊急対応、さらに発災後の復旧復興における中・長期活動等である。超高齢社会の今、各々の「時間軸」および「場」における看護活動は益々、期待されている。授業では看護活動の特性に焦点をあて、災害看護の基礎知識と技術および多職種との連携・協働について具体的に理解し学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護の定義を理解し、災害の種類による健康問題の特性を理解できる。 2. 災害に関する政策・法律・支援体制について理解できる。 3. 災害各期（準備期・発災時・発災後急性期・復旧復興・長期）における看護活動について理解できる。 4. 災害被災者に必要な支援について考えることができる。 5. 地方自治体や、医療機関における災害対策や対応の実際を理解できる。 6. 災害発生時に必要な看護活動と必要な知識・技術について理解できる。 7. 災害発生時の自分自身を
授業計画	<p>第1回 災害の種類と人々への影響（定義、種類、生活・社会への影響、健康被害） 藤井愛海</p> <p>第2回 災害に関する政策・法律や災害時の支援体制及び連携 藤井愛海</p> <p>第3回 災害医療・看護活動の特徴 藤井愛海 (定義、災害サイクル、災害発生前、災害初期から中長期における医療・看護活動)</p> <p>第4回 災害関連死と要配慮者への支援 藤井愛海</p> <p>第5回 病院における災害対策・対応の実際（聖隷三方原病院） 大瀧友紀</p> <p>第6回 地方自治体における災害対策・対応の実際（浜松市健康福祉部 健康医療課） 浜松市健康医療課</p> <p>第7回 災害時の緊急支援活動/災害時に必要な基本的看護技術と緊急支援活動 (実践編：BLS、トリアージ、包帯法 他) 小池武嗣・早川ゆかり・有村優範</p> <p>第8回 看護の現場における災害対応：グループワーク 乾友紀</p>

アクティブ ラーニング	第7・8回は2グループに分かれて災害時に必要な実践演習を行います。また、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れた授業を実施します。				
授業内の ICT活用	授業後のリアクションペーパーおよびレポート課題の提出はWebClassを用いて行います。				
評価方法	演習・レポートで評価します。 (第1-6回のリアクションペーパー30%、技術演習評価10%、グループワーク評価10%、総合レポート50%) 総合レポートは、ルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に提示します。				
課題に対する フィード バック	寄せられた質問は適宜授業中に解説を行うほか、WebClassやメールを用いて回答します。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	災害看護 第5版	酒井 明子	メディカ出版	2022	9784840475457
参考図書	授業時に適宜紹介します。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	事前学修：授業内容と密接に関連する項目について、授業進度に応じて学修を進めてください。 事後学修：授業内容を中心に振り返り、復習してください。理解を深めたことについてリアクションペーパーに記載してください。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	医学中央雑誌 Web				
オフィス アワー	可能な限り、あらかじめメールにてご連絡をお願いします。非常勤講師への質問等は科目責任者へご連絡ください。 乾友紀 (1217 研究室) : yuki-i@seirei.ac.jp 小池武嗣 (1607 研究室) : takeshi-k@seirei.ac.jp 早川ゆかり (1306 研究室) : yukari-h@seirei.ac.jp 有村優範 (1607 研究室) : masanori-a@seirei.ac.jp				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	対面授業を原則とします。				

科目名	看護研究Ⅱ
科目責任者	山田 紀代美
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 7・8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し考察する能力を身につける。 ・選択した看護学領域において、これまでの学修のなかで関心をもった事象について、先行研究や関連文献を幅広く検討する中で研究課題を明確にし、現実的・具体的な研究計画書を作成する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心を持った事象について、系統的に文献を探ることができる。 2. 関心を持った事象について、先行研究や関連文献を整理し、研究課題を明らかにすることができる。 3. 研究課題を明らかにするための研究計画書（部分的でも可）を作成できる。 4. 自ら関心を持った事象に関する主体的な学修（指導教員の研究活動や学会への参加など）ができる。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・選択領域の指導教員とスケジュール調整をしながら主体的に学修を進める。 <p>4～7 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員からのオリエンテーション(指導教員別の場所・方法・時間で行う) ・これまで学習した看護学のなかで関心をもった事柄について、研究課題を明確化する。 ・必要時、関心のある対象やフィールドに関する情報収集、および研究課題に関する基礎的な学習を行う。 <p>7～11 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題に関連した先行研究や関連文献を幅広く検索して文献検討を行い、研究課題の明確化のプロセスや研究の意義を記述することができる。 <p>11 月 4 日 (月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書（またはそれに準ずるレポート）の提出 <p>※提出先は各領域の指導教員、締め切りは 17 時とする。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の研究活動や学会、研究会への参加などがあれば適時行う。

アクティブラーニング	自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を活用するために、積極的に文献検索等の研究関連活動を行い、担当教員やゼミメンバー、専門家とディスカッションすることで学修を深める。				
授業内のICT活用	文献検索、文献学習では大学図書館HPを活用し、データベース検索、電子ジャーナル、学術情報リポジトリなどを活用する。				
評価方法	看護研究への取り組み 20%、文献学習 40%、研究計画書（またはそれに準ずるレポート） 40%				
課題に対するフィードバック	研究課題の進捗状況に合わせ指導教員からフィードバックを行う。				
指定図書	坂下 玲子/宮芝 智子/小野 博史 (2020). 系統看護学講座 別巻、看護研究, 医学書院				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	南裕子他編(2017). 看護における研究第2版、日本看護協会出版会				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	看護の学修で関心を持った内容に関し、文献を探しまとめたもの等をもとに、指導教員と学修を進めていく。そのため、事前・事後学修については、指導教員と話し合いの上、行う。				
オープンエデュケーションの活用	*テキスト、ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン) の動画視聴など				
オフィスアワー	科目責任者： 山田紀代美 研究室：1615 メールアドレス：kiyomi-y@seirei.ac.jp 加藤貴子 研究室1：1707 メールアドレス：takako-k@seirei.ac.jp ※時間はオリエンテーション時に、指導教員よりお知らせします。				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし（各担当教員の判断で、ゼミ等をWeb会議システム等で行うことがある。）				

科目名	看護統合セミナー
科目責任者	江口 晶子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 7・8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探究し、多面的に考察することができる。
科目概要	統合実習で選択した看護学実習の領域において自己の課題を明確にして、保健・医療・福祉の現状にあわせて看護実践を発展していくための能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合実習で必要となる学習内容について、主体的に自分の課題解決に向けて取り組むことができる。 2. 統合実習で選択した看護学実習の領域において、理論的知識や先行研究の成果を活用して、テーマについて関連する文献を用いて考察できる。 3. 統合実習での経験を踏まえて、多角的な見方や論理的な考え方を深め、地域包括ケアにむけての看護実践をさらに発展させるための方策について考えを深めることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 : 看護学実習領域別のオリエンテーション (4 月)</p> <p>第 2~5 回 : 統合実習にむけての事前学修・演習 (4~7 月 統合実習前)</p> <p>第 6~8 回 : 関連する文献等を用いた課題レポート作成 (7~9 月 統合実習後)</p> <p>第 9~15 回 : 看護学実習領域における事後学修 (グループワーク・演習) (10~11 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、統合実習と連動しながら学修を展開する (統合実習で選択した看護学領域で履修する)。 ・統合実習の場・対象者の特性などを踏まえて、統合実習前に実習に必要な知識・技術について、主体的に自らの課題解決に向けた学修に取り組む。 ・統合実習後に、統合実習での経験を振り返り、多角的な見方や論理的な考え方を深めて、テーマについて関連する文献等を用いた課題レポートを作成する。 ・統合実習での経験をもとに、保健・医療・福祉を取り巻く社会情勢の変化にあわせて、地域包括ケアにむけて必要な看護実践をさらに発展させるための方策について、演習・グループワーク等を通して考えを深める。

アクティブラーニング	グループワーク等の演習科目です。主体的に課題解決に取り組んでください。 学生間、担当教員とディスカッションすることで学修を深めます。				
授業内のICT活用	なし				
評価方法	事前学習記録 20%、課題レポート 40%、グループワーク・演習における提出物 40% ※看護学領域によって異なります。ガイダンス時に確認してください。				
課題に対するフィードバック	ガイダンス時に示します。				
指定図書	1年次～4年次に使用した教科書				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	詳細はガイダンス時に示します。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・事後学修	看護の学修に関心を持った内容に関する文献を読んでください。 授業回数に関わらず、文献を活用しながら、研究課題について継続的な学修が必要です。				
オープンエデュケーションの活用	医中誌 web				
オフィスアワー	時間については、各領域のオフィスアワーの欄に記載しています。				
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア授業の実施について	なし				

科目名	国際看護実習
科目責任者	藤浪 千種
単位数他	2単位 (90時間) 選択 7セメスター
DP番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	日本での事前学習やシンガポールのリハビリテーション病院を中心とした保健医療施設での看護実習を通して、日本とシンガポールにおける社会文化的背景、健康ニーズ、保健・医療・看護の相違について学ぶ。そのうえで、国際社会における看護専門職への期待や果たすべき役割を考察し、自身が看護専門職としてグローバルに活躍するための目標や課題、具体的行動を見出す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本とシンガポールの生活習慣、文化、健康課題、保健・医療システム、看護教育制度の相違点について説明できる。 2. 臨地実習を通して、シンガポールの人々の健康課題と看護専門職の役割、看護の実際が理解できる。 3. 臨地実習やシンガポール滞在中の体験をもとに、国際社会における看護の可能性や役割が検討できる。 4. 科目の全スケジュールを通し、責任ある態度で積極的に学ぶことができる。 5. 自身がグローバルに活躍する看護専門職となるための課題や目標が見いだせる。
授業計画	<p>【担当教員】 藤浪千種、水田明子、 【引率教員】 藤浪千種</p> <p>【対象学生】 看護学部4年次生 2名 【実習前学修】 4～8月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献学習・意見交換・レポート作成 <ul style="list-style-type: none"> ・日本とシンガポールにおける生活習慣、文化、主な健康課題、保健・医療システム、看護教育制度等に関する学修を行う。 2. 臨地実習計画書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール滞在中に、関心のある保健・医療・看護に関するテーマについて学ぶための実習計画書を作成する。 3. プレゼンテーション資料（英語）の作成とプレゼンテーションの練習 <ul style="list-style-type: none"> ・上記2で取り上げたテーマに関するプレゼンテーション資料を英語で作成し、プレゼンテーションの方法を学ぶ。 4. 語学学習 <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流センター主催の英語講習への参加（1回/月） ・TOEIC受験：Listening & Reading Test（実習までに1回受験） <p>【臨地実習（2週間）】</p> <p>※実習内容やスケジュールは国際状況やナンヤン理工学院との調整で最終的に決定されるため、変更の可能性あり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月（シンガポール ナンヤン理工学院・保健医療施設等）約2週間 <ol style="list-style-type: none"> ①ナンヤン理工学院看護教員による保健・医療・看護に関する講義の受講 1日 ②英語によるプレゼンテーション ③病院・施設等での実習 <p>[実習施設 例]</p> <ul style="list-style-type: none"> * TTSH Ang-Mo Kio-Thye Hua Kwan Hospital（リハビリテーション病院） * Tan Tock Seng Hospital（タントクセン病院） *Dover Park Hospice(ホスピス) *Health Promotion Board（シンガポール健康省管轄 健康増進協会） *Home Nursing Foundation（訪問看護） <p>【実習後学修】 9～11月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の振り返り

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習前・実習中の学修内容をもとに、関心のあるテーマを決定しレポートを作成する。 ・ 臨地実習やシンガポール滞在中の体験をもとに、国際社会における看護の可能性や役割、自身がグローバルに活躍する看護専門職となるための課題や目標を整理する。 <p>2. 国際看護実習報告会で、実習の学びについてのプレゼンテーションを行う。</p>				
アクティブ ラーニング	実習科目です。				
授業内の ICT 活用	ICT を活用し、インターネットなどで保健医療に関する国際情勢、シンガポールの医療保障制度・健康指標データ等を調べます。				
評価方法	<p>評価は以下の方法で行います。</p> <p>①課題レポート（事前文献学習レポート、英語によるプレゼンテーション資料、振り返りレポート、報告会プレゼンテーション資料を含む） 40%</p> <p>②臨地実習の目標達成度 40%</p> <p>③事前・事後課題学修及び臨地実習に対する取り組み 20%</p> <p>※実習・レポートで評価するが、ルーブリックは用いません。</p>				
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習前・後の学修では、個人または履修学生全体に対し、課題レポートへのコメントの記載やディスカッションでの意見・助言を通して、課題とその成果に対するフィードバックを行います。 ・ 臨地実習では、1週目の3日間、担当教員1名が実習をサポートしながら、課題とその成果に対するフィードバックを行います。またナンヤン理工学院看護教員による実習評価の内容について、担当教員がフィードバックを行います。 				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	【第2版】知って考えて実践する国際看護	近藤麻理／著	医学書院	2018	9784260035361
参考図書	授業中に随時連絡します。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	<p>【実習前学修】4～8月に、提示された課題に取り組んでいただきます。また 語学学習①～③への参加・受講を必須とします。レポート作成等、時期により課題の量が異なりますが、週平均 1～2時間の自己学習が必要です。そのほか、毎日、30分以上の語学学習を習慣づけてください。</p> <p>【臨地実習中】日々の実習の振り返りをしてください。また、日々実習で学習したいことや質問したいことなどを英語で準備してください。毎日、1～2時間程度です。</p> <p>【実習後課題学修】10～11月に提示された課題にとりこんでいただきます</p>				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生労働省. 統計情報・白書. 2020年海外情勢報告より 第2章 東及び東南アジア地域にみる社会保障施策の概要と最近の動向、第3節 シンガポール共和国 (Republic of Singapore) https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/22/ https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/22/d1/c4-07.pdf ・ 世界保健機構. Global Health Observatory (GHO) data Sing 				
オフィス アワー	不在にしていることもあるため、質問や相談などがある場合は事前メールでご連絡ください。 藤浪千種（研究室：1208） メールアドレス：chigusa-f@seirei.ac.jp				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	統合実習
科目責任者	江口 晶子
単位数他	2単位 (90時間) 必修 7セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	選択した看護学領域において、生命の尊厳と隣人愛を基盤として対象と適切な対人関係を築き、既修の知識・技能を活用し、看護実践現場の特性を踏まえて、問題解決的思考を展開しながら、看護における課題の解決に向けた実践に必要な基礎的能力を養う。また保健医療福祉チームにおける多職種連携・協働の現状について理解を深め、そこで提供されている看護の実際を経験し、保健・医療・福祉チームの中で看護専門職としての役割を考えて行動することができる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまで学んだ知識・技術を踏まえ、主体的に実習内容を調整し取り組むことができる。 2. ケアの優先順位を考え、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。 3. 体験する看護技術について自己の力量を見極め、その根拠と安全性・正確性を考慮しながら実践することができる。 4. 看護チームおよび他職種との協働の中で、看護職としてのメンバーやリーダーの役割を体験し、チームとして働く意義を理解できる。 5. 統合実習で学んだことを通し、保健・医療・福祉の現状について理解を深め、看護職として自己の目標や
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>学生は、8つの看護学領域から1看護学領域を選択して実習する。 これまでの領域別看護学実習をふまえ、現場の看護師・保健師等の専門職者とともに、それぞれの場に応じた看護実践を経験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院や施設の実習においては、1つの病棟（単位）に2～4人の学生を配置して2週間の実習を行う。病棟・施設の状況に応じて、複数患者・利用者あるいは大部屋の患者・利用者を受け持つ実習、一勤務帯を通した実習、夜勤帯の実習などを組み込む。 ・グループによっては、外来、NICU、MFICU、助産院などの特殊部門で実習を行う。 ・公衆衛生看護学、在宅看護学領域の実習では、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、健診センター、企業、特別支援学校、病院など、さまざまな看護が展開されている場で実習を行う。既修の知識・技術を基盤として、援助技術の向上、多職種や多機関との連携の理解を深める。 ・課題レポートをまとめ、8月に提出する。 <p>※ 詳細は、各領域の『統合実習履修要項』で別途示す。 ※ 実習を行う領域や施設は調整により決定する。</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・実習科目です。 ・各領域において『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。 				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	目標達成度 80% (実習姿勢、実習記録 等)、課題レポート 20% で評価する。 (詳細は『統合実習履修要項』で領域別に別途定めます)				
課題に対する フィード バック	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。				
指定図書	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	時間については、各領域のオフィスアワーの欄に記載しています。				
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	公衆衛生看護総合演習
科目責任者	江口 晶子
単位数他	1単位 (30時間) 選択 8セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	本演習では、公衆衛生看護活動論演習、公衆衛生看護学実習で取り組んだ地域診断により明確化した実習自治体の健康課題を解決するための保健事業計画を立案しプレゼンテーションを行うことで、地域診断（健康課題の明確化）に基づく公衆衛生看護活動の展開過程の実際、すなわち事業化の実際を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習自治体の地域診断で抽出・特定した健康課題について、事業化の必要性を、根拠に基づき説明できる。 2. 実習自治体の地域診断で抽出・特定した健康課題を解決するための事業計画を、法律や条例、行政組織の基本方針・基本計画等との整合性を踏まえて立案できる。 3. 実習自治体の地域診断で抽出した健康課題を解決するための事業計画（評価計画）を、地域特性を踏まえて立案できる。 4. 職場上司へのヒアリングを想定し、事業計画案のプレゼンテーションを実施できる。 5. 公衆衛生看護活動の展開過程における地域診断および
授業計画	<p><担当教員名> 江口晶子、水田明子、長山ひかる、遠山大成、三輪真知子</p> <p><演習内容></p> <p>第1回 : 地域診断に基づく事業化・施策化と事業評価（講義）</p> <p>第2、3回 : 特定した健康課題の構造化</p> <p>第4～6回 : 特定した健康課題の解決策の検討</p> <p>第7～9回 : 事業計画の立案</p> <p>第10～12回 : 事業計画のプレゼンテーションの準備</p> <p>第13回 : 総合演習報告会の会場準備、リハーサル</p> <p>第14、15回 : 総合演習報告会</p> <p>※詳細は、別途「公衆衛生看護総合演習実施要項」にて示す。</p>

アクティブ ラーニング	本演習では、公衆衛生看護学実習と連動した小グループによるグループワークを行う。				
授業内の ICT 活用	実習自治体の総合計画、健康増進計画の閲覧など、事業企画書の立案に必要な各種情報を入手する。				
評価方法	グループ作成の成果物（事業企画書）：30%、報告会でのプレゼンテーション内容：25% グループワーク・報告会（ディスカッション）の参加態度：20%、課題レポート：25%				
課題に対する フィード バック	グループで作成した事業企画書については、総合演習報告会にてフィードバックを行う。 課題レポートについては、コメントを記載し返却する。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	【第5版】標準保健師 講座 1 公衆衛生看 護学概論	・	医学書院	2019	9784260035606
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	地域保健福祉活動のた めの地域看護アッセメ ントガイド 地区活動 ならびに施策化のアセ スメント・活動計画・ 評価計画の立案 第2 版	佐伯 和子 編著	医歯薬出版	2018	9784263237106
事前・ 事後学修	グループメンバーと共に事業企画書の作成およびプレゼンテーションの準備を進める。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	各教員のオフィスアワーの時間が異なるため、初回の授業にて提示する。 江口晶子（1207 研究室：akiko-e@seirei.ac.jp） 長山ひかる（2711 研究室：hikaru-n@seirei.ac.jp） 遠山大成（1680 研究室：taisei-t@seirei.ac.jp） 水田明子				
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	公衆衛生看護管理論
科目責任者	江口 晶子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	公衆衛生看護管理は、保健師活動の質を高めるための活動であり、誰もが暮らしやすい地域になるように働きかける保健師の専門性そのものである。本科目では、この公衆衛生看護管理の機能について学び、保健師の専門性について考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護管理がなぜ必要か、理解することができる。 2. 保健師活動における看護管理の特徴、機能を理解することができる。 3. 保健師活動の中に公衆衛生看護管理の機能を見出すことができる。 4. 健康危機管理の視点で、公衆衛生看護活動が理解できる。 5. 保健師の専門的自律と継続教育の意義が理解できる。
授業計画	<p><担当教員名> 江口晶子、三輪真知子、水田明子、長山ひかる、遠山大成</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：科目ガイダンス 公衆衛生看護管理の目的と機能 三輪真知子</p> <p>第2回：公衆衛生看護における管理機能① 地区管理/事例管理、事業管理、組織運営管理、予算管理 江口晶子</p> <p>第3回：公衆衛生看護における管理機能② 人事管理、人材育成、情報管理 江口晶子</p> <p>第4回：統括保健師による公衆衛生看護管理の実際</p> <p>ゲストスピーカー</p> <p>第5回：公衆衛生看護における管理機能③ 健康危機管理 江口晶子</p> <p>第6回：健康危機管理の実際（災害） ゲストスピーカー</p> <p>第7回：健康危機管理の実際（感染症） ゲストスピー カー</p> <p>第8回：公衆衛生看護における継続教育、専門的自律、質保証としての研究 三輪真知子</p>

アクティブ ラーニング	授業内で提示するテーマに対し、バズセッションやグループワークを行う。				
授業内の ICT 活用	Web Class や Google Forms を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問等を求め、全体で共有する。				
評価方法	小テスト：60%、ミニレポート（ゲストスピーカーの講義後）：30%、課題レポート：10%				
課題に対する フィード バック	授業の中で課題のフィードバックを行う。 小テストの正答は、Web Class の復習問題の形で提示する。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	【第5版】標準保健師 講座 1 公衆衛生看護学概論	・	医学書院	2019	9784260035606
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	公衆衛生がみえる 2 022-2023		メディックメディア	2022	9784896328585
事前・ 事後学修	授業時及びWeb class を用いて、次回授業の事前課題や予習内容を提示する。 知識の定着状況を確認するため、第2回、第3回、第5回終了後、Web class を用いた小テストを行う。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	水曜日の昼休みとする。実習等で不在の場合もあるため事前にメール (akiko-e@seirei.ac.jp) でアポイントをとっていただくと確実です。				
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	公衆衛生看護学実習
科目責任者	長山 ひかる
単位数他	4単位（180時間） 選択 7セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	都道府県及び政令指定都市や市町が実施している公衆衛生看護活動の実践を通して、保健師が地域で生活する人々（個人・家族・集団）の健康を支援する意義を理解する。また、地域診断を通して地域の特性や強み、住民の健康状態を明らかにし、地域の健康課題解決に向けた解決策を考察する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断により、地域の健康課題を明らかにし、その解決策を検討することができる。 2. 地域の健康課題を解決する上で必要な保健医療福祉の施策を理解し、地域ケアシステムを構築する意義を理解できる。 3. 個人・家族・集団に対して健康課題を解決するための実践ができる。 4. 地域の住民や関係機関と連携・協働して活動する意義が理解できる。
授業計画	<p><担当教員名> 長山ひかる、遠山大成、水田明子、江口晶子、三輪真知子</p> <p><実習場所> 静岡県中部保健所、静岡県西部保健所、浜松市保健所 浜松市浜名区、天竜区、磐田市、袋井市、掛川市、御前崎市、森町、菊川市、牧之原市、藤枝市 吉田町、川根本町、湖西市</p> <p><実習内容> 実習先の保健所、市町で実施されている保健事業に参加する。 必須体験項目として以下を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康教育の実施 2. 家庭訪問の実施 3. 支援困難事例の聞き取り 4. 地域診断の実施 <p>詳細は「公衆衛生看護学実習実習要項」にて示す。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。				
授業内の ICT 活用	実習成果（健康教育、地域診断）の達成度確認をおこなう。 公衆衛生看護学実習に関する様式等を、Webclass に掲載し活用を促す。				
評価方法	○実習記録 60% ○レポート課題 20% 下記の2項目についてまとめて書きなさい。 (1) 公衆衛生看護活動を展開するための保健師の役割について (1500字) (2) 公衆衛生看護学実習を通して感じた、自分自身の課題について (500字) ○実習に取り組む姿勢や態度 20%				
課題に対する フィード バック	日々の実習日誌及び日々のミニカンファレンスでフィードバックをおこないます。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	【第6版】乳幼児健診 マニュアル	福岡地区小児科医会乳 幼児保健委員会／編集	医学書院	2019	9784260039352
	【第5版】標準保健師 講座 1 公衆衛生看 護学概論	・	医学書院	2019	9784260035606
	公衆衛生看護技術 第4 版	中村 裕美子	医学書院		9784260038706
	対象別公衆衛生看護活 動 第4版	中谷 芳美	医学書院		9784260031875
	国民衛生の動向 2023/2024		厚生労働統計協会	2023	
参考図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	公衆衛生がみえる 2 022-2023		メディックメディア	2022	9784896328585
事前・ 事後学修	実習オリエンテーション、実習で参加する事業に関する事前・事後課題は随時、担当教員より紹介します。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	面談・指導等が必要な場合は、事前に実習指導担当教員にメールでアポイントメントをお願いします。 長山ひかる (2711 研究室 : hikaru-n@seirei.ac.jp) 遠山大成 (1680 研究室 : taisai-t@seirei.ac.jp) 江口晶子 (1207 研究室 : akiko-e@seirei.ac.jp) 水田明子				
実務経験に 関する記述	本科目は保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	養護実習事前事後指導 (2021年度入学生)
科目責任者	池永 理恵子
単位数他	1単位 (15時間) 選択 7・8セメスター
DP番号と科目領域	教DP(1)教職
科目の位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	事前指導においては、養護実習に際して必要な基本的事項に関する指導および準備活動、事後指導においては、養護実習の取り組みについての振り返りを実施する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 事前指導では、養護実習の意義や目的、内容をよく理解し、実習参加にあたっての基本的な知識や態度等を身につける。 3. 事後指導では、学校現場における様々な実習経験をもとに、自らの実践を総括し、実習の成果と課題を明らかにする。
授業計画	<p><担当教員名> 池永理恵子、長峰伸治、太田知実</p> <p>◎養護実習Ⅰ(4月実施)について</p> <p><実習前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、実習の準備、心構え ・健康診断の各検査・計測についての実施方法、留意事項の講義(練習) ・学校保健管理ソフトの使い方の演習(ゲストスピーカー:ソフト開発会社職員) ・救命講習受講(3時間コース) ・確認テスト <p><実習後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返りによる学びの共有(グループ単位で発表会) <p>◎養護実習Ⅱ(9月実施)について</p> <p><実習前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に関わる個人面接(講義外) ・養護実習Ⅱ概要、事前準備、学校での服務規程、守秘義務と健康管理等 ・応急処置シミュレーション ・実習記録の書き方 ・指導案作成と保健指導の発表 ・実習目標と学校概要発表 ・発達障害児童生徒の理解(ゲストスピーカー:深澤裕子先生) ・学校教育現場の現状について(ゲストスピーカー:飯田真也先生) ・確認テスト <p><実習後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習のまとめ(発表会) 1年または2年生の養護教諭免許取得希望者が参加できるよう、調整 <p>※実施日程などの詳細についてはその都度連絡する</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。				
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・養護実習 I の事前指導において、学校保健管理ソフトの使い方について、ソフト開発者による指導のもと、実際にパソコンを使って演習する。 ・実習の振り返りの発表会では、プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う予定。 				
評価方法	授業への取り組み態度 30%、振り返りのレポート 20%、確認テスト 50%				
課題に対する フィード バック	・事後指導における発表や個人の振り返りの内容に対してフィードバックする。				
指定図書	下記参照				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	主体的に学ぶ養護実習 ガイドブック 教育現 場で必要な力を身につ けるために	岡本啓子／編集・執筆 代表 中島敦子／編 集・執筆代表 西牧眞 里／編集・執筆代表	ジアース教育新社	2017	9784863713994
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	養護実習実施要項をよく読んでおくこと。また、それぞれの指導を受けた後は、復習や振り返りをしっかり行うこと。少なくとも 40 分以上は行う。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 池永理恵子(看護学部) (研究室、rieko-i@seirei.ac.jp) 太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	養護実習 I
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	1 単位 (45 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と科目領域	教 DP (2) 教職
科目の位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
科目概要	学校での健康診断の補助または生徒や教職員との関わりを通して、学校保健活動や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。
到達目標	1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 学校における教育計画やその運営、養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、生徒の健康や生活実態を、実際の健康診断の補助を行うことを通して理解する。
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、池永理恵子、太田知実</p> <p><実習時期・期間・場所> 4 年次 4～5 月の中の 1 週間 聖隷クリストファー中・高等学校 ※健康診断補助を中心とした実習</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。				
授業内の ICT 活用	なし				
評価方法	実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。				
課題に対する フィード バック	・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。				
指定図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし				
	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	実習前は事前指導で学んだことを毎回しっかりおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導につなげる。少なくとも40分以上は行う。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 池永理恵子(看護学部) 1711 研究室 rieko-i@seirei.ac.jp 太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

科目名	養護実習Ⅱ（2021年度入学生）
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	3単位（135時間） 選択 7セメスター
DP番号と科目領域	教DP(2)教職
科目の位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
科目概要	学校現場での実務体験または児童生徒や教職員との関わりを通して、教育全般にわたる基本的理解や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 学校における教育計画やその運営（学校の組織、教育目標、教育課程）、学校における養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、学校保健活動、家庭や地域との連携のあり方、児童の健康や生活実態を理解する。 3. 学校の教育計画や児童生徒の健康および生活実態を理解するとともに、保健室経営や養護活動など養護教諭の職務に関する基本的な実践的能力を身につける。
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、池永理恵子、太田知実</p> <p><実習時期・期間・場所> 4年次5月または9月（3週間） 学生自らが依頼して許可を得た学校</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。				
授業内の ICT 活用	なし。				
評価方法	養護実習の評価は、「実習校による評価」と「大学による評価」とを総合して行う。実習中の学生の態度・理解・行動に関する「実習校による評価」を参考にしながら、養護実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。				
課題に対する フィード バック	・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
参考図書	なし				
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	
事前・ 事後学修	実習前は事前指導で学んだことを毎回しっかりおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導や教職実践演習につなげる。少なくとも40分以上は行う。				
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし				
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 池永理恵子(看護学部) 1711 研究室 rieko-i@seirei.ac.jp 太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。				
実務経験に 関する記述	なし				
メディア 授業の実施 について	なし				

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・第3、4回はグループワークを行う。 ・第5、6回は模擬授業の発表を行う。その際、実際に使用した保健教材を用いて授業を行う。 ・第14～15回はフィールドワークを行う。 			
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業においては、プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。 			
評価方法	<p>授業への取り組み態度（授業中の態度だけでなく、本科目前後に実施するルーブリックによる自己評価とそれを用いた面談も評価対象になる） 50%</p> <p>事前・事後の課題（レポートなど） 50%</p>			
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後に出される課題について授業中に全体の場でフィードバックする。 ・履修カルテ（ルーブリック評価）を用いて面談を行い、これまでの学修の振り返りを行う。 			
指定図書	なし			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
参考図書	なし			
書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・養護実習の振り返りをしながら事前課題にしっかり取り組む。 ・事後においては本授業で行ったことを養護実習での自らの課題に照らし合わせ、履修カルテに基づいて自分なりの総括を行う。少なくとも40分以上は行う。 			
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<p>講義内容の参考資料として、次のホームページを参照する。</p> <p>1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm ・小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・特別支援教育 https://www.mext.go.jp/a_me 			
オフィス アワー	<p>池永理恵子（看護学部）（研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします）</p> <p>長峰伸治（看護学部） 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp</p> <p>太田知実（看護学部） 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp</p> <p>対応できる時間については初回授業時に提示します。</p> <p>必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p>			
実務経験に 関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。			
メディア 授業の実施 について	なし			